証券アナリストによる
ディスクロージャー優良企業選定

（平成 21 年度）

社団法人 日本証券アナリスト協会
ディスクロージャー研究会

ディスクロージャー研究会委員

座　　長	松島 憲之	日興ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
座長代理	伊藤 敏憲	UBS 証券会社
	岩田 直樹	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	河村 哲孝	明治安田生命保険
	北山 信次	MDAM ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	陶山 健二	みずほｺｰﾎﾟﾚｰﾄ銀行
	津田 和徳	大和証券ｴｽｴﾑﾋﾞｰｼｰ
	藤本 浩一	岡三証券
	三宅　茂	野村證券

（五十音順）

ディスクロージャー研究会各専門部会長

建設・住宅・不動産	髙木　敦	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ証券
食　　品	三浦 信義	日興ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
化　　学	金井 孝男	日興ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
医　薬　品	田中　洋	みずほ証券
鉄鋼・非鉄金属	山口　敦	UBS 証券会社
機　　械	齋藤 克史	野村證券
電気・精密機器	石野 雅彦	三菱 UFJ 証券
自動車･同部品･ﾀｲﾔ	松島 憲之	日興ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
電力・ガス	阿部 聖史	大和証券ｴｽｴﾑﾋﾞｰｼｰ
運　　輸	手塚 裕一	住友信託銀行
通　　信	乾　牧夫	UBS 証券会社
商　　社	吉田 憲一郎	ｺﾞｰﾙﾄﾞﾏﾝ・ｻｯｸｽ証券
小　売　業	正田 雅史	野村證券
銀　　行	高井　晃	大和証券ｴｽｴﾑﾋﾞｰｼｰ
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰｿﾌﾄ	上野　真	大和証券ｴｽｴﾑﾋﾞｰｼｰ
新興市場銘柄	齋藤　剛	ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄﾘｻｰﾁｼﾞｬﾊﾟﾝ
個人投資家向け情報提供	品田 民治	野村證券

目　　次

はじめに …… 3頁

ディスクロージャー優良企業 …… 4

ディスクロージャーの改善が著しい企業 …… 5

概　　括 …… 6

各専門部会の報告 …… 9

建設・住宅・不動産 …… 10

食　　品 …… 20

鉄鋼・非鉄金属 …… 27

電気・精密機器 …… 35

自動車・同部品・タイヤ …… 49

電力・ガス …… 56

運　　輸 …… 63

通　　信 …… 70

小　売　業 …… 76

銀　　行 …… 84

コンピューターソフト …… 92

新興市場銘柄 …… 99

個人投資家向け情報提供 …… 108

はじめに

日本証券アナリスト協会ディスクロージャー研究会は、企業情報開示の向上を目的として、「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定」制度を平成7年度からスタートさせましたが、このほど平成21年度（第15回）の選定結果がまとまりましたので、ここに公表します。

本制度における業種ごとの優良企業選定は、当初は7業種を評価対象としてスタートいたしましたが、その後対象は漸次増加し、これまでに評価対象とした業種は15となりました。

本年度は、建設･住宅･不動産、食品、鉄鋼･非鉄金属、電気･精密機器、自動車･同部品･タイヤ、電力･ガス、運輸、通信、小売業、銀行、コンピューターソフトの11業種を評価対象としております。

また、平成17年度から、従来の業種別優良企業選定とは別に、新興市場銘柄および個人投資家向け情報提供における優良企業選定を開始し、本年度も継続しております。

当研究会は、今後もこの制度による優良企業の選定を通じて企業情報開示の向上、充実に寄与して参りたいと存じますので、関係各方面のご理解とご支援をお願いする次第であります。

ディスクロージャー優良企業

建設・住宅・不動産	大東建託	（2回目）
食品	アサヒビール	（7回連続）
鉄鋼・非鉄金属	住友金属工業	（2回連続4回目）
電気・精密機器	日本電産	（3回連続）
自動車・同部品・タイヤ	日産自動車	（3回連続）
電力・ガス	大阪瓦斯	（新規）
運輸	東日本旅客鉄道	（4回連続）
通信	エヌ・ティ・ティ・ドコモ	（2回目）
小売業	ローソン	（4回連続）
銀行	りそなホールディングス	（新規）
コンピューターソフト	野村総合研究所	（6回目）
新興市場銘柄	日本マイクロニクス	（3回連続）
	エス・エム・エス	（新規）
	ジュピターテレコム	（新規）
個人投資家向け情報提供	アサヒビール	（新規）
	日本電産	（3回連続4回目）
	東京瓦斯	（2回目）

ディスクロージャーの改善が著しい企業

ディスクロージャーの改善が著しいとして評価された次の5社に称賛状を贈呈することといたしました。

鉄鋼・非鉄金属	三菱マテリアル
鉄鋼・非鉄金属	住友金属鉱山
鉄鋼・非鉄金属	DOWAホールディングス
電力・ガス	中国電力
小売業	三越伊勢丹ホールディングス

概　　括

ディスクロージャー研究会
座長　松島　憲之

本ディスクロージャー優良企業選定は本年度で 15 回目を迎えたが、その概要は次のとおりである。

1．評価対象

(1) 業種別については、原則として東証一部上場株式時価総額を基準として選定した、建設･住宅･不動産（21 社）、食品（20 社）、鉄鋼･非鉄金属（15 社）、電気･精密機器（30 社）、自動車･同部品･タイヤ（19 社）、電力･ガス（15 社）、運輸（19 社）、通信（8 社）、小売業（15 社）、銀行（15 社）、コンピューターソフト（17 社）の 11 業種合計 194 社を対象とした。

(2) 新興市場銘柄については、ジャスダック、マザーズ、ヘラクレス、セントレックス、Q-Board およびアンビシャスの六つの市場に上場している企業の中で、時価総額上位であって、かつその企業を調査対象としているアナリストの数が一定以上の 29 社〈注〉とした。このうち 20 社は昨年度からの継続評価対象企業、2 社は 19 年度以来再対象企業、7 社は新規対象企業である。

〈注〉本年 2 月に本優良企業選定評価対象企業（30 社）を決定後、当初対象企業の 1 社に上場廃止となる見込みがあることから、同社は評価対象企業から除外することとした。

(3) 個人投資家向け情報提供については、本年度のディスクロージャー優良企業選定対象である各業種（11 業種）および新興市場銘柄についての選定結果における上位 1 割（小数点切上げ）の企業の 26 社（昨年度 32 社）とした。このうち 20 社は 19 年度または昨年度に引続き、6 社は新規対象企業である。

(4) 評価対象としたディスクロージャーの状況は、原則として、平成 20 事業年度に関する企業情報（平成 21 年 6 月末のスコアシート記入までに開示された情報を含む。）に係るものとした。

2．評価方法等

(1) 業種別評価基準は、各業種共通項目として、「1. 経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス」、「2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示」、「3. フェアー・ディスクロージャー」、「4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示」、「5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示」の五つの分野を取り上げることとした。各分野の配点は、一定の範囲で各専門部会が決定し、また、各分野の具体的評価項目も、それぞれの専門部会の判断に基づき設定した。

この業種別評価基準（スコアシート〈以下同〉）に基づき、証券アナリスト経験年数3年以上でかつ現在当該業種担当概ね2年以上のアナリスト、延373名が評価を行った。

(2) 新興市場銘柄については、各評価対象企業の業種が一律でないことから、上記の5分野のうち「各業種の状況に即した自主的な情報開示」を除く4分野について11項目の具体的評価基準を設定した。この評価基準に基づき、新興市場銘柄をカバーしている91名のアナリストが評価を行った。

(3) 個人投資家向け情報提供については、「1. 個人投資家向け会社説明会の開催等」、「2. ホーム・ページにおける開示等」、「3. 事業報告書等の内容」の3分野について15項目の具体的評価基準を設定した。この評価基準のうち、5項目については、各評価対象企業にアンケート調査を実施しその回答結果を基に評点を付した。残りの10項目は、個人営業を行っている証券会社において、個人投資家向けの情報提供に携わっているアナリストから構成されている「個人投資家向け情報提供専門部会」の委員が評点を付し、最終評価は両者の評点を合算して行った。

(4) 上記の評価結果を基に、経験豊富なアナリストで構成する各専門部会（13部会計101名の委員）において慎重に分析し、各部会としての報告書の取りまとめを行った。当研究会は、この報告書をもとに各業種等の優良企業の選定を行った。

3. 評価結果

評価結果の詳細は、後掲の各専門部会の報告に示すとおりであるが、その概要は次のとおりである。

(1) 業種別における評価平均点は、建設･住宅･不動産66.0点（昨年度65.3点、以下カッコ内は昨年度）、食品63.3点（66.5点）、鉄鋼･非鉄金属76.7点（70.9点）、電気･精密機器71.3点（71.6点）、自動車・同部品･タイヤ60.1点（65.6点）、電力･ガス72.6点（71.0点）、運輸66.8点（65.5点）、通信66.1点（68.8点）、小売業71.2点（69.3点）、銀行71.7点（70.9点）、コンピューターソフト61.3点（61.9点）であった。

業種別における業種間の評価平均点の違いは、具体的評価項目の内容および配点に業種間の相違があることも反映している。

また、昨年度の評価平均点との比較に関しては、具体的評価項目の入れ替えや内容の修正、配点の見直し、対象企業の追加といった点等を考慮する必要がある。従って、一概に数値の増減だけでディスクロージャーの水準について昨年度と厳密に比較することは難しいものの、評価項目および配点を昨年度と同一で実施した業種で見ると多くの企業の評価点がアップしているなど、各業種別専門部会における報告書の取りまとめ結果等を総合的に勘案すると、企業のディスクロージャーは概して向上傾向にあると評価することができる。ちなみに、本年度は改善が著しい企業として5社が挙げられた。

なお、一部の業種では、業績悪化で工場見学会の実施を取りやめたり、一部開示情報を省略する等、IRが後退した企業が見られたが、業績動向にかかわら

ず前向きなIRへの取組姿勢が望まれるとの意見が多くのアナリストから示された。

(2) 新興市場銘柄の評価平均点は61.3点（昨年度56.1点）、各社の総合評価点の標準偏差は6.9点（同7.5点）であった。

本年度は評価対象企業数が昨年度の48社から29社に絞られたこと等を勘案すると、数値上からディスクロージャーの水準について昨年度と比較することは難しい。しかしながら、アナリストの意見を見ると、多くの企業で、経営トップが自ら説明会等に出席する等 IR の重要性について認識していることがうかがえる点や、IR部門における情報の集積や開示姿勢は十分であること等、総じてディスクロージャーに対する前向きな取組み姿勢が見られることを本年度も評価する声が多かった。

(3) 資本市場の活性化を図るためには個人投資家の株式市場への一層の参入が不可欠であるとの認識が高まるとともに、近年多くの企業において、IR活動の対象として個人投資家を重視する傾向が高まっていること等を考慮し、本制度の対象として継続して個人投資家向け情報提供を取り上げた。

本年度の評価対象企業の評価平均点は61.7点であった。

評価結果を見ると、本年度も多くの評価対象企業が、個人投資家に対する情報提供を充実するための努力を行っている様子がうかがえた。たとえば、具体的評価項目とした「個人投資家向け会社説明会を開催しているか。」については、評価対象企業26社中16社（62%、昨年度69%）が開催しており、過去1年間の平均開催回数が6.1回（同4.2回）に上っている。また、16社中10社（63%、同68%）が同説明会の内容をホーム・ページに掲載しており、その充実度や分かりやすさについての評価結果も昨年度とほぼ同水準であった。また、ホーム・ページに個人投資家向けコーナーを設け、画面構成や分かりやすさ等に工夫が見られるほか、事業報告書等の内容について、写真、グラフ、図表を適度に用いて、個人投資家が知りたいことを分かりやすく、かつ簡潔に説明するといった努力がうかがえる企業が多く見られた。

最後に、本年度の作業には、各専門部会委員およびスコアシート記入者として多数の経験豊富なアナリストが参加されたが、いずれも多忙を極める中で企業ディスクロージャーの改善、充実を目指し、真摯な姿勢で精力的な作業に当たっていただいたことに対し、ここに深甚なる感謝の意を表したい。

【各専門部会報告】

13 部会

社名は登記社名に統一し、平成 21 年 10 月 5 日現在である。

〔評価実施アナリストの所属会社名は原則として評価実施時点(6 月)で統一〕

建設・住宅・不動産

【建設部門】**コムシスホールディングス、大成建設、大林組、清水建設、鹿島建設、前田建設工業、戸田建設、五洋建設、関電工、きんでん、協和エクシオ**
【住宅・不動産部門】
長谷工コーポレーション、大東建託、住友林業、大和ハウス工業、積水ハウス、三井不動産、三菱地所、東京建物、東急不動産、住友不動産
（計 21 社）

1．評価方法等

(1)　評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	4	25
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	9	35
③フェアー・ディスクロージャー	**フェアー・ディスクロージャー**	5	17
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	**コーポレート・ガバナンス関連**	3	10
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	3	13
計		24	100

（注）具体的な評価項目および配点は 18 頁参照

(2)　評価実施（スコアシート記入）アナリストは 27 社の 34 名である。

2．評価結果

(1)　**総括**

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」〈部門別を含む〉は 15～17 頁参照）。

本年度の建設・住宅・不動産全体の総合評価平均点は、66.0 点となり、昨年度（65.3 点）と同水準であった。ちなみに、評価対象企業の総合評価点の標準偏差は、下位の評価企業（7 社）の評価点が平均 2.5 点上昇した反面、その他の上位企業が低下したこともあり、昨年度の 7.6 点から 5.2 点に縮小した。

評価項目の 5 分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点）〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 69%（昨年度 66%）、**説明会等**が 68%（同 67%）、**フェアー・ディスクロージャー**が 67%（同 73%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が 61%（同 58%）、**自主的情報開示**が 58%（同 50%）となり、すべての分野が 60%台以下の得点率にとどまっ

た。しかし、昨年度との比較では、**フェアー・ディスクロージャー**を除き得点率は上昇している。

また、建設部門（11社）と住宅・不動産部門（10社）の評価結果を比較して見ると、総合評価平均点は、建設部門の63.2点（昨年度59.4点）に対し、住宅・不動産部門は69.2点（同72.4点）となり、両部門の平均得点の差は、昨年度の13.0点から6.0点に大幅に縮小した。

具体的評価項目について見ると、最も平均得点率の高かった「社長は説明会またはミーティングに出席し、実質的な討議に参加しているか」（79%）については、評価対象企業21社中13社が、得点率（評価点／配点〈以下省略〉）80%以上の高い評価を受けた。

また、評価実施アナリストの意見を見ると、多くの評価対象企業において、IR部門の体制・機能が充実してきているとの声があった。

一方、今後一部の企業を除き改善の余地がある点として、次の項目が挙げられる。

① 説明会のリプレイは、電話やウェブキャストで視聴等ができるか（平均得点率9%〔満点：2社←新規項目〕）

② 四半期ごとに業績動向に関する説明会または電話会議を開催しているか（同38%〔満点：8社←新規項目〕）

③ 生産・施工現場、研究開発施設および展示場、開発プロジェクトの見学会等を積極的に開催しているか（同47%〔50%台以下：18社〕、昨年度47%）

(2) 全体の上位個別企業の評価概要

大東建託

（ディスクロージャー優良企業〔2回目〕、総合評価点：76.8点、第1位←2社同得点2位）

同社は、分野別では、**経営陣のIR姿勢等**（得点率〈以下省略〉80%）が第3位、**説明会等**（81%）および**フェアー・ディスクロージャー**（76%）が第1位、**コーポレート・ガバナンス関連**（70%）が第2位、**自主的情報開示**（67%）が第4位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣のIR姿勢等**においては、社長が説明会に出席し、具体的に分かりやすく説明を行い実質的な討議に参加していることが高い評価を受けた。また、IR部門に十分な情報が蓄積されており、担当者と有益なディスカッションができることや、取材のアクセスの良さ等、同部門の機能が充実している点が極めて高く評価された。

説明会等においては、短信および説明資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明を行っている点が高い評価を受けた。加えて、説明資料に部門別の受注または売上見通しが記載され、かつ部門分けが業態に即していること等、説明資料における開示が充実している点が高く評価された。また、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報（単体の業績動向等を含む）が十分に開示されている点も高い評価を受けた。

フェアー・ディスクロージャーにおいては、ホーム・ページで決算説明会資料や月次の受注および入居率指標がタイムリーに入手できることのほか、英文による情報提供が充実している点等が高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、具体的な株主還元策の数値目標を明示してい

ることについて、他の多くの評価対象企業に比べ高い評価を受けた。

自主的情報開示においては、月次情報等期中の定量的データを十分に開示していることが高く評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

三菱地所（総合評価点：76.6 点、第 2 位←1 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（83%）が第 1 位、**説明会等**（76%）が第 3 位、**フェアー・ディスクロージャー**（75%）が 2 社同得点第 2 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（67%）が 2 社同得点第 4 位、**自主的情報開示**（75%）が第 2 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、社長が説明会およびミーティングに定例的に出席し、実質的な討議に参加していることで極めて高いトップの評価となったほか、外部への情報発信が積極的である等、経営陣の IR への取組姿勢が高く評価された。加えて、IR 部門に十分な情報が集積されており、担当者が迅速に対応していることや、有益なディスカッションができる点も高い評価を受けた。

説明会等においては、短信および説明資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明を行っていることに加え、説明会における質疑応答が十分満足できる点が高い評価を受けた。また、説明資料に部門別利益率の実績と見通しを十分に開示していることや、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報（単体の業績動向等を含む）を十分に開示している点も評価された。

フェアー・ディスクロージャーにおいては、経営陣および IR 部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分注意を払っている等、フェアー・ディスクロージャーへの取組姿勢が高く評価された。また、英文による情報提供が充実している点等も高い評価を受けた。

自主的情報開示においては、再開発プロジェクト見学会の積極的な開催や、期中の定量的データが開示され的確な説明が付加されている点も評価された。

長谷工コーポレーション（総合評価点：74.4 点、第 3 位←6 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（82%）および**説明会等**（80%）が第 2 位、**フェアー・ディスクロージャー**（74%）が 2 社同得点第 4 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（66%）が第 6 位、**自主的情報開示**（52%）が第 17 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、全体として経営陣が IR に熱心に取組んでいる点が評価されたほか、社長が説明会およびミーティングに出席し、業績の説明を正確に分かりやすく行い実質的な討議に参加していることが高い評価を受けた。また、IR 部門に十分な情報が蓄積されており、担当者と有益なディスカッションができることや、取材のアクセスの良さ等、同部門の体制・機能が充実している点が極めて高く評価された。このほか、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していることも高い評価を受けた。

説明会等においては、短信および説明資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説

明を行っていることに加え、説明会における質疑応答が十分満足できる点が高く評価された。また、説明資料に部門別利益率の実績と見通しを十分に開示しているほか、連結セグメント情報の分け方が業態に即していること等、説明資料における開示が充実している点が高く評価された。

フェアー・ディスクロージャーにおいては、ホーム・ページで決算説明会資料や期中のデータがタイムリーに入手できることや、英文による情報提供が充実している点等が高い評価を受けた。

三井不動産（総合評価点：71.4 点、第 4 位←2 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（74%）が第 5 位、**説明会等**（76%）が第 4 位、**フェアー・ディスクロージャー**（72%）が第 7 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（68%）が第 3 位、**自主的情報開示**（56%）が 2 社同得点第 10 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、全体として経営陣の IR への取組み姿勢が評価されたほか、IR 部門に十分な情報が集積されており、担当者と有益なディスカッションができることが高く評価された。

説明会等においては、短信および説明資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明を行っていることに加え、説明資料に部門別利益率の実績と見通しを十分に開示しているほか、連結セグメント情報の分け方が業態に即している点が高く評価された。さらに、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報を十分に開示している点も評価された。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

大成建設

（総合評価点：67.8 点、3 社同得点第 5 位←12 位、分野では、自主的情報開示（70%）第 3 位）

同社は、定期的に現場見学会を開催していることでトップの高い評価を受けた。また、短信および説明資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明を行っていることに加え、IR 部門の体制が十分で担当者の対応も良好であること等、同部門の機能が充実している点が評価された。

協和エクシオ

（総合評価点：67.8 点、3 社同得点第 5 位←14 位、分野では、フェアー・フェアディスクロージャー（74%）2 社同得点第 4 位、自主的情報開示（76%）第 1 位）

同社は、現場見学会を積極的に開催していることが高い評価を受けた。また、ホーム・ページで決算説明会資料や期中のデータがタイムリーに入手できることのほか、英文による情報提供が充実している点が高く評価された。このほか、IR 部門に十分な情報が集積されており、IR 担当者と有益なディスカッションができることも高い評価を受けた。

東急不動産（総合評価点：67.8 点、3 社同得点第 5 位←10 位）

同社は、IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができる点が高い評価を受けた。また、説明資料に部門別利益率の実績と見通しを十分に開示しているほか、連結セグメント情報の分け方が業態に即している点が評価された。さらに、本年度、新たに評価項目として設けた、説明会のリプレイについて、ウェブキャストで視聴ができることで、唯一2社同得点の満点評価となった。

上記のほか、次のように高い得点率でのトップ等の評価を受けた企業が見られた。

大和ハウス工業（2社同得点満点）：説明会のリプレイについて、ウェブキャストで視聴ができること（新規項目）。

住友林業（第1位、得点率87%）、**大和ハウス工業**（第2位、同83%）：環境報告書の内容が充実していること（新規項目）。

コムシスホールディングス（第1位、同87%）：資本政策、株主還元策が客観的かつ合理的に説明されていること。

住友不動産（第1位、同80%）：キャッシュフロー計算書の実績と見通しが分かりやすく説明されていること。

(4)　**部門別の上位評価企業**

【建設部門】

第1位←2位、大成建設　（総合評価点：67.8点）
第1位←4位、協和エクシオ　（総合評価点：67.8点）
第3位←1位、コムシスホールディングス　（総合評価点：67.3点）

【住宅・不動産部門】

第1位←2位、大東建託　（総合評価点：76.8点）
第2位←1位、三菱地所　（総合評価点：76.6点）
第3位←6位、長谷工コーポレーション（総合評価点：74.4点）

以　上

平成21年度　ディスクロージャー評価比較総括表（建設・住宅・不動産：全体）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス 評価項目4（配点25点）		2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目9（配点35点）		3. フェアー・ディスクロージャー 評価項目5（配点17点）		4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目3（配点10点）		5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目3（配点13点）		昨年度順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	大東建託	76.8	19.9	3	28.2	1	13.0	1	7.0	2	8.7	4	2
2	三菱地所	76.6	20.8	1	26.6	3	12.7	2	6.7	4	9.8	2	1
3	長谷工コーポレーション	74.4	20.5	2	28.1	2	12.5	4	6.6	6	6.7	17	6
4	三井不動産	71.4	18.6	5	26.5	4	12.2	7	6.8	3	7.3	10	2
5	大成建設	67.8	17.1	13	24.7	7	10.9	15	6.0	11	9.1	3	12
5	協和エクシオ	67.8	18.0	6	21.1	18	12.5	4	6.3	7	9.9	1	14
5	東急不動産	67.8	17.7	7	24.7	7	12.3	6	6.2	8	6.9	16	10
8	コムシスホールディングス	67.3	19.2	4	20.3	21	12.7	2	7.3	1	7.8	5	11
9	住友不動産	66.2	17.7	7	25.0	6	11.0	14	6.7	4	5.8	21	4
10	住友林業	65.7	17.2	11	23.8	11	11.2	10	5.7	16	7.8	5	9
11	東京建物	64.8	17.4	9	24.0	10	11.2	10	6.2	8	6.0	20	7
12	大和ハウス工業	64.6	17.2	11	21.5	16	12.1	8	6.1	10	7.7	7	5
13	大林組	63.7	15.5	17	24.2	9	10.7	16	5.7	16	7.6	8	18
14	積水ハウス	63.4	16.9	15	22.0	14	11.4	9	5.8	14	7.3	10	8
15	五洋建設	63.3	14.3	21	25.9	5	10.1	20	5.9	12	7.1	13	13
16	きんでん	62.8	17.3	10	21.4	17	11.2	10	5.8	14	7.1	13	16
17	清水建設	61.7	15.4	18	23.5	12	10.3	18	5.5	19	7.0	15	21
18	関電工	60.9	17.0	14	20.5	20	11.1	13	5.7	16	6.6	18	15
19	前田建設工業	60.5	16.0	16	21.8	15	10.4	17	5.9	12	6.4	19	18
20	鹿島建設	60.1	14.6	20	23.1	13	10.2	19	5.0	21	7.2	12	17
21	戸田建設	58.9	14.7	19	21.1	18	10.1	20	5.4	20	7.6	8	20
	評価対象企業評価平均点	66.0	17.3		23.7		11.4		6.1		7.5		

（注）評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は5.2点、昨年度は7.6点であった。

平成21年度　ディスクロージャー評価比較総括表
（建設部門）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス 評価項目4（配点25点）		2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目9（配点35点）		3. フェアー・ディスクロージャー 評価項目5（配点17点）		4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目3（配点10点）		5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目3（配点13点）		昨年度順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	大成建設	67.8	17.1	4	24.7	2	10.9	5	6.0	3	9.1	2	2
1	協和エクシオ	67.8	18.0	2	21.1	8	12.5	2	6.3	2	9.9	1	4
3	コムシスホールディングス	67.3	19.2	1	20.3	11	12.7	1	7.3	1	7.8	3	1
4	大林組	63.7	15.5	7	24.2	3	10.7	6	5.7	7	7.6	4	8
5	五洋建設	63.3	14.3	11	25.9	1	10.1	10	5.9	4	7.1	7	3
6	きんでん	62.8	17.3	3	21.4	7	11.2	3	5.8	6	7.1	7	6
7	清水建設	61.7	15.4	8	23.5	4	10.3	8	5.5	9	7.0	9	11
8	関電工	60.9	17.0	5	20.5	10	11.1	4	5.7	7	6.6	10	5
9	前田建設工業	60.5	16.0	6	21.8	6	10.4	7	5.9	4	6.4	11	8
10	鹿島建設	60.1	14.6	10	23.1	5	10.2	9	5.0	11	7.2	6	7
11	戸田建設	58.9	14.7	9	21.1	8	10.1	10	5.4	10	7.6	4	10
	評価対象企業評価平均点	63.2	16.3		22.5		10.9		5.9		7.6		

（注）評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は3.2点、昨年度は4.2点であった。

平成21年度　ディスクロージャー評価比較総括表
（住宅･不動産部門）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス 評価項目4（配点25点）		2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目9（配点35点）		3. フェアー・ディスクロージャー 評価項目5（配点17点）		4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目3（配点10点）		5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目3（配点13点）		昨年度順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	大東建託	76.8	19.9	3	28.2	1	13.0	1	7.0	1	8.7	2	2
2	三菱地所	76.6	20.8	1	26.6	3	12.7	2	6.7	3	9.8	1	1
3	長谷工コーポレーション	74.4	20.5	2	28.1	2	12.5	3	6.6	5	6.7	8	6
4	三井不動産	71.4	18.6	4	26.5	4	12.2	5	6.8	2	7.3	5	2
5	東急不動産	67.8	17.7	5	24.7	6	12.3	4	6.2	6	6.9	7	10
6	住友不動産	66.2	17.7	5	25.0	5	11.0	10	6.7	3	5.8	10	4
7	住友林業	65.7	17.2	8	23.8	8	11.2	8	5.7	10	7.8	3	9
8	東京建物	64.8	17.4	7	24.0	7	11.2	8	6.2	6	6.0	9	7
9	大和ハウス工業	64.6	17.2	8	21.5	10	12.1	6	6.1	8	7.7	4	5
10	積水ハウス	63.4	16.9	10	22.0	9	11.4	7	5.8	9	7.3	5	8
	評価対象企業評価平均点	69.2	18.4		25.0		12.0		6.4		7.4		

（注）評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は5.2点、昨年度は3.4点であった。

21年度評価項目および配点一覧（建設・住宅・不動産）

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点 (25)点
(1) 経営陣のIR姿勢	
① 全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどう評価しますか。	10
② 社長は説明会またはミーティングに出席し、実質的な討議に参加していますか。	5
(2) IR部門の機能	
・ IR部門に十分かつ正確な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。	5
(3) IRの基本スタンス	
・ 会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	5
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (35点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示	
① 短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。	5
② 質疑に対する会社側の回答は十分満足できるものですか。	5
(2) 説明資料等（短信およびその附属資料を含む）における開示	
① 部門別(注1)の受注または売上見通し(注2)が記載され、かつ部門分けは各々の業態に即したものですか。	5
② 部門別(注1)の利益率の実績と見通しは十分に開示されていますか。	3
③ 連結セグメント情報(注3)の分け方は各々の業態に即していますか。	3
④ 連結子会社・関係会社・SPC等の資産・負債・収益の状況が十分に説明されていますか。	6
⑤ キャッシュフロー計算書の実績と見通しは分かりやすく説明されていますか。	3
(3) 四半期情報開示	
① 四半期ごとに業績動向に関する説明会または電話会議を開催していますか。[開催あり:1点　開催なし:0点]	1
② 四半期決算の内容の理解に必要な補足情報（単体の業績動向等を含む）が十分に開示されていますか。	4
3. フェアー・ディスクロージャー	配点 (17点)
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
① 経営陣およびIR部門が情報開示に際し不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	4
② 投資家にとって重要と判断される事項(注4)の開示は迅速に行われていますか。	4
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
・ 決算説明会資料や期中のデータがタイムリーに入手が可能ですか。	5
(3) 説明会のリプレイは電話やウェブキャストで視聴等ができますか。[できる:1点　できない:0点]	1
(4) 英文による情報提供	
・ 英文による情報提供はタイムリーで、内容も充実していますか。	3
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (10点)
(1) 資本政策、株主還元策	
・ 資本政策、株主還元策が客観的かつ合理的に説明されていますか。	3
(2) 目標とする経営指標等	
・ 中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策が十分説明されていますか。	4
(3) 経営機構、経営資源について	
・ 経営機構、経営資源について十分な説明がなされていますか。	3
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (13点)
① 期中の定量的データは開示され、それについて的確な説明が付加されていますか。	5
② 生産・施工現場、研究開発施設および展示場、開発プロジェクトの見学会等を積極的に実施していますか。（前年7月から本年6月までの間）	5
③ 環境報告書の内容は充実していますか。	3

(注1)「部門別」については、業態により・・
ゼネコン:国内・海外および官・民・土・建・その他
住宅:戸建て・アパート・一般建築・分譲・賃貸・その他
不動産:分譲・賃貸・建設・委託業務・その他
専門工事:電気ないし第一種通信事業会社向け・一般向け設備工事・その他建設工事・サービス・その他
・・と読み替えて下さい

(注2)「受注または売上げ見通し」については、業態により・・
建設・住宅については受注・売上げの見通し
不動産については売上げの見通し
・・と読み替えて下さい

(注3)「連結セグメント情報」については、業態により・・
ゼネコン:建設、分譲、賃貸、その他
住宅:住宅建築、一般建築、分譲、賃貸、その他
不動産:分譲、賃貸、建設、委託業務、その他
専門工事:通信ないし電気工事、一般工事、サービス、その他
・・と読み替えて下さい

(注4)投資家にとって重要と判断される事項は、東証のTDネットへの登録を含む下記のような事項です。
例えば・・受注動向、指名停止、訴訟、労災、災害、環境汚染、取引先の倒産、海外市場での変動、大型プロジェクトの事業費概算、資産の取得・売却、新技術・新商品開発、雇用政策の変更、バランスシートおよび債務保証における大きな変動等である。

建設・住宅・不動産専門部会委員

部　会　長	髙木　　敦	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ証券
部会長代理	小林　俊二	住友信託銀行
	石本　哲也	三井住友ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	大谷　洋司	ｸﾚﾃﾞｨ・ｽｲｽ証券
	沖野　登史彦	UBS 証券会社
	中川　雅人	大和証券ｴｽｴﾑﾋﾞｰｼｰ
	水谷　敏也	三菱 UFJ 証券

評価実施アナリスト（34 名〈氏名等の掲載の承諾を得られていない 6 名を含む〉）

穴井　宏和	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券
石本　哲也	三井住友ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
伊藤　昌哉	みずほ投信投資顧問
大谷　洋司	ｸﾚﾃﾞｨ・ｽｲｽ証券
大室　友良	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ証券
岡田　さちこ	ｺﾞｰﾙﾄﾞﾏﾝ・ｻｯｸｽ証券
沖野　登史彦	UBS 証券会社
小澤　公樹	三菱 UFJ 証券
川嶋　宏樹	大和証券ｴｽｴﾑﾋﾞｰｼｰ
岸　　恭彦	みずほｲﾝﾍﾞｽﾀｰｽﾞ証券
木田　雅之	三井住友ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
木村　　勝	ｺｽﾓ証券
木村　義純	日興ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
小林　俊二	住友信託銀行
櫻本　　惠	みずほ信託銀行
下川　寿幸	立花証券
杉山　和宏	T&D ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
髙木　　敦	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ証券
竹内　和弥	みずほ証券
竹川　克彦	中央三井ｱｾｯﾄ信託銀行
中川　雅人	大和証券ｴｽｴﾑﾋﾞｰｼｰ
中村　昭彦	農林中金全共連ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
藤田　　武	ﾄﾞｲﾂ証券
水谷　敏也	三菱 UFJ 証券
村端　　誠	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
望月　政広	ｸﾚﾃﾞｨ・ｽｲｽ証券
山口　啓朗	大和証券投資信託委託
山本　守彦	新光投信

（注）　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

食　品

日本水産、日清製粉グループ本社、山崎製パン、ヤクルト本社、明治ホールディングス、日本ハム、アサヒビール、キリンホールディングス、宝ホールディングス、コカ･コーラウエスト、伊藤園、キッコーマン、味の素、キユーピー、ハウス食品、カゴメ、ニチレイ、東洋水産、日清食品ホールディングス、日本たばこ産業

（計 20 社）

1．評価方法等

(1)　評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	6	38
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	10	30
③フェアー･ディスクロージャー	**フェアー･ディスクロージャー**	5	12
④コーポレート･ガバナンスに関連する情報の開示	**コーポレート･ガバナンス関連**	2	10
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	3	10
計		26	100

（注）具体的な評価項目および配点は 25 頁参照

(2)　評価実施（スコアシート記入）アナリストは 24 社の 25 名である。

2．評価結果

(1)　**総括**

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 24 頁参照）。

本年度は、個別評価企業の総合評価点が昨年度を大幅に上回った企業もあったが、大半の企業が下回り、総合評価平均点は昨年度の 66.5 点より 3.2 点低い 63.3 点となった。本年度は、評価項目の配点の変更に加え、新たな評価項目として次の項目等を設けたが、いずれも平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）は 50%台の低水準にとどまった。

① キャッシュフロー計算書の実績と見通しは分かりやすく説明されているか（平均得点率 51%）

② 特殊要因を除いた実質的な利益の実績と予想が十分に記載されているか（同 55%）

ちなみに、各評価対象企業の総合評価点の標準偏差は、7.9 点で昨年度（7.6 点）とほぼ同水準であった。

評価項目の5分野について平均得点率を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が68%、**説明会等**が61%、**フェアー・ディスクロージャー**が81%、**コーポレート・ガバナンス関連**が53%、**自主的情報開示**が43%となり、**コーポレート・ガバナンス関連**と**自主的情報開示**は他の3分野に比べ平均得点率が低く、また、評価結果の格差が大きい。

具体的評価項目について見ると、5項目が平均得点率で80%を上回り、特に、ホーム・ページにおける有用な情報提供のうち、過去10年の長期財務データ（P／L、BS、セグメント情報）については、20社中17社が満点評価となった。そのほか、次の項目は一部の企業を除き、高い得点率（評価点／配点〈以下省略〉）の評価となった。

① 経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っているか（平均得点率89%、〔90%台：12社、80%台：8社〕）

② 決算短信およびアニュアルレポート等の英文情報は遅滞なく作成され、その内容は充実しているか（同84%、〔満点：8社、90%台：5社、80%台：2社〕）

一方、一部の企業を除き、今後総じて改善が強く望まれる点として、次の項目が挙げられる。

① 有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等の開催（平均得点率40%）

② 有益な月次情報のタイムリーかつ積極的な開示（同44%）

③ 重視する経営指標とその目標、それを採用する理由、目標達成の具体的方策と進捗状況、およびその監視体制等の十分な説明（同50%）

④ 四半期を含む決算発表の早期化（同50%）

⑤ ホーム・ページにおける有用な情報提供のうち、決算説明会等の状況（同50%）

(2) 上位個別企業の評価概要

アサヒビール（ディスクロージャー優良企業〔7回連続〕、総合評価点：83.1点、第1位）

同社は、分野別では、**経営陣のIR姿勢等**（得点率〈以下省略〉84%）、**説明会等**（85%）および**フェアー・ディスクロージャー**（96%）が第1位、**コーポレート・ガバナンス関連**（78%）が第2位、**自主的情報開示**（65%）が2社同得点第3位となった。

同社は、経営陣とIR部門が一体化して豊富で適切かつ公平な情報開示に努めており、この姿勢が総合的な高い評価につながった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣のIR姿勢等**においては、社長が説明会およびアナリストミーティングに出席し、投資家の関心事を踏まえた経営方針について明快に説明をしているほか、IR部門への情報集積支援が積極的である等、全体として経営陣のIRへの取組姿勢が高い評価を受けた。また、IR部門への権限委譲を背景に同部門の担当者が経営陣の代弁者として十分に機能している点が高く評価された。加えて、経営分析に必要な情報開示の継続性に配慮をしていることも極めて高い評価を受けた。

説明会等においては、カテゴリー別、チャンネル別、容器別、家庭用・業務用等の各社の実情に応じた売上区分の明示で唯一満点評価となる等、決算短信および同時配布資料が充実している点が高く評価された。このほか、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていることも高い評価を受けた。

フェアー・ディスクロージャーにおいては、その取組姿勢等、この分野全体について極めて高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、フリーキャッシュフローの使途を明確にしていること等が評価された。

自主的情報開示においては、有益な月次情報のタイムリーかつ積極的な開示で唯一満点評価を受けた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

キリンホールディングス（総合評価点：79.2 点、第 2 位←2 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（78%）および**説明会等**（76%）が第 2 位、**フェアー・ディスクロージャー**（93%）が 2 社同得点第 4 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（79%）および**自主的情報開示**（77%）が第 1 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、社長が説明会およびアナリストミーティングに出席し、今後の方向性や戦略等について明確に説明しているほか、投資家の意見に理解を示す等、全体として経営陣の IR への取組姿勢が評価された。また、IR 担当者が経営陣の代弁者として十分に機能していることや、同部門を通して他部門へのインタビューが容易である点等も高い評価を受けた。

説明会等においては、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていることが評価された。また、本年度新たに評価項目とした、キャッシュフロー計算書の実績と見通しが分かりやすく説明されていること等、決算短信および同時配布資料が充実している点が高く評価された。

フェアー・ディスクロージャーにおいては、ホーム・ページにおける有用な情報提供等が高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、業界に先駆けて資産の有効活用を経営目標として明確に打出していること等が引続き評価された。

自主的情報開示においては、有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等の開催の項目について、平均得点率が 40%と最も低い中で、相対的に高いトップの評価を受けた。また、業界動向等の積極的な開示も高く評価された。

日本たばこ産業

（総合評価点：68.8 点、第 3 位←14 位、分野では、説明会等（75%）第 3 位、コーポレート・ガバナンス関連（66%）3 社同得点第 3 位）

同社は、決算短信および同時配布資料で、本年度新たに評価項目とした、為替やのれん償却等の特殊要因を除いた実質的な利益の実績と予想が、十分に開示されている点で 2 社同得点のトップの評価を受けた。また、決算発表が決算期末後迅速に行われるようになったことが評価された。このほか、資本政策、株主還元策に対する考え方の説明や、重視する経営指標とその目標、それを採用する理由、目標達成の具体的方策と進捗状況、およびその監視体

制等についての説明も評価された。

伊藤園

（総合評価点：67.6 点、2 社同得点第 4 位←8 位、分野では、コーポレート･ガバナンス関連（66%）3 社同得点第 3 位、自主的情報開示（55%）第 5 位）

同社は、資本政策、株主還元策に対する考え方の説明や、重視する経営指標とその目標、それを採用する理由、目標達成の具体的方策と進捗状況、およびその監視体制等についての説明も評価された。また、有益な月次情報をタイムリーに、かつ積極的に開示している点も高い評価を受けた。このほか、経営陣が説明会で自ら説得力のある経営方針を語る等、IR への積極的な取組姿勢が評価された。

キユーピー

（総合評価点：67.6 点、2 社同得点第 4 位←4 位、分野では、説明会等（66%）第 5 位、フェアー･ディスクロージャー（95%）2 社同得点第 2 位、自主的情報開示（65%）2 社同得点第 3 位）

同社は、決算短信および同時配布資料で、実績および見通しの利益増減要因を分析に有用な形で分かりやすく、かつ十分に記載していることが評価された。また、フェアー・ディスクロージャーへの取組姿勢等、この分野全体について極めて高い評価を受けた。さらに、有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等の開催の項目について、平均得点率が 40%と最も低い中で、第 2 位の高い評価を受けたほか、業界動向等の積極的な開示も評価された。

(3)　上記以外の企業で昨年度に比し総合評価点が特にアップした企業

ハウス食品（総合評価点：63.9 点【昨年度比＋4.1 点】、第 10 位←17 位）

日清食品ホールディングス

（総合評価点：59.7 点【昨年度比＋7.2 点】、2 社同得点第 13 位←20 位）

特に、**ハウス食品**は、経営陣の IR への取組姿勢が改善されたことのほか、決算発表の早期化、および本決算の説明会が、決算発表日を含めて 3 営業日以内に実施されるようになった点が評価された。また、**日清食品ホールディングス**は、本年度新たに評価項目とした、年金数理差異の償却等の特殊要因を除いた実質的な利益の実績と予想が、十分に開示されている点で 2 社同得点のトップの評価を受けた。

以　上

平成21年度　ディスクロージャー評価比較総括表（食品）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス 評価項目6（配点38点）		2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目10（配点30点）		3. フェアー・ディスクロージャー 評価項目5（配点12点）		4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目2（配点10点）		5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目3（配点10点）		昨年度順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	アサヒビール	83.1	31.8	1	25.5	1	11.5	1	7.8	2	6.5	3	1
2	キリンホールディングス	79.2	29.8	2	22.7	2	11.1	4	7.9	1	7.7	1	2
3	日本たばこ産業	68.8	24.8	14	22.5	3	10.2	9	6.6	3	4.7	8	14
4	伊藤園	67.6	27.5	6	18.8	10	9.2	11	6.6	3	5.5	5	8
4	キユーピー	67.6	24.9	13	19.9	5	11.4	2	4.9	11	6.5	3	4
6	日本ハム	66.6	28.4	3	16.6	15	9.1	13	5.3	7	7.2	2	7
7	ニチレイ	65.7	27.8	4	19.0	6	9.2	11	5.9	6	3.8	10	3
8	ヤクルト本社	64.7	25.8	9	18.6	11	10.7	6	4.4	16	5.2	6	4
9	コカ・コーラウエスト	64.2	25.6	12	18.9	9	11.4	2	5.1	9	3.2	14	6
10	ハウス食品	63.9	26.4	7	19.0	6	11.1	4	4.9	11	2.5	18	17
11	キッコーマン	62.4	23.2	17	20.6	4	10.4	8	5.0	10	3.2	14	12
12	日清製粉グループ本社	61.6	27.8	4	13.3	19	8.9	14	6.6	3	5.0	7	10
13	宝ホールディングス	59.7	25.7	10	17.2	14	8.8	15	5.2	8	2.8	17	14
13	日清食品ホールディングス	59.7	25.7	10	18.5	12	7.2	19	4.9	11	3.4	11	20
15	味の素	57.8	21.7	19	17.4	13	10.7	6	4.7	14	3.3	12	13
16	カゴメ	56.8	21.8	18	19.0	6	10.2	9	4.0	19	1.8	20	11
17	山崎製パン	56.3	24.7	15	15.6	16	8.8	15	4.1	18	3.1	16	16
18	日本水産	55.9	26.4	7	13.1	20	8.6	17	4.5	15	3.3	12	9
19	東洋水産	53.6	24.2	16	15.0	17	8.0	18	4.0	19	2.4	19	19
20	明治ホールディングス	50.5	20.6	20	14.1	18	7.2	19	4.3	17	4.3	9	18
	評価対象企業評価平均点	63.3	25.7		18.3		9.7		5.3		4.3		

（注）評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は7.9点、昨年度は7.6点であった。

21年度評価項目および配点一覧(食品)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点(38点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
① 全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどう評価しますか。(情報集積の支援、IR部門への権限委譲等)	10
② 社長は説明会またはアナリストミーティングに出席し、投資家の関心事等について有意義なディスカッションができますか。	10
(2) IR部門の機能	
① IR担当者が経営陣の代弁者として十分に機能していますか。	8
② IR部門が経営トップおよび他部門へのインタビューに応じてくれましたか。[要請しなかった場合には満点評価とする。]	2
(3) IRの基本スタンス	
① 経営分析に必要な重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。	4
② 会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	4
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**配点(30点)**
(1) 決算発表等	
① 直近2回の決算発表(四半期決算を含む)は決算期末後迅速に行われていますか。【2回合算評価】[直前期=30日以内:2点、40日以内:1点、その他:0点] [前々期=30日以内:2点、40日以内:1点、その他:0点]	4
② 本決算の説明会が決算発表日を含めて3営業日以内に実施されていますか。[されている:3点 されていない:0点]	3
(2) 決算短信および同時配布資料における開示	
① 実績および見通しの利益増減要因は、分析に有用な形で分かりやすく、かつ十分に記載されていますか。	5
② カテゴリー別、チャンネル別、容器別、家庭用・業務用別等の各社の実情に応じた売上区分が明示されていますか。	2
③ 特殊要因(のれんや年金数理差異の償却、会計制度変更の影響等)を除いた実質的な利益の実績と予想が十分に記載されていますか。	4
④ 主な連結対象会社または詳細なセグメント別の売上、営業利益、経常利益等が十分に記載されていますか。	2
⑤ 次期の連結業績予想にかかわる営業外収支、特別損益、法人税等、少数株主損益の見通し、ならびに予想の主な根拠が十分に記載されていますか。	2
⑥ BSの主要項目に大きな変動がある場合の増減理由は十分に記載されていますか。	2
⑦ キャッシュフロー計算書の実績と見通しは分りやすく説明されていますか。	2
(3) 四半期情報開示	
・ 四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか。	4
3. フェアー・ディスクロージャー	**配点(12点)**
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
① 経営陣およびIR部門が情報開示に際し不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	3
② 投資家にとって重要と判断される事項(例えば、業績変動、合併・提携、事故・災害、リスク情報等)の開示は遅滞なく、かつ十分に説明されていますか。[当該事項の発生がなかったと思う場合には満点評価とする。]	3
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
・ ホームページを利用して次の項目について有用な情報の提供を行っていますか。	
A 過去10年の長期財務データ(P/L、BS、セグメント情報等)	2
B 決算説明会等の状況	2
(3) 英文による情報提供	
・ 決算短信およびアニュアルレポート等の英文情報は遅滞なく作成され、その内容は充実していますか。	2
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	**配点(10点)**
(1) 資本政策、株主還元策の開示	
・ 資本政策、株主還元策に対する考え方が十分に説明されていますか。	5
(2) 目標とする経営指標等	
・ 重視する経営指標とその目標、それを採用する理由、目標達成の具体的方策と進捗状況、およびその監視体制等が十分説明されていますか。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	**配点(10点)**
① 有益な月次情報がタイムリーかつ積極的に開示されていますか。(E-mail、FAX、ホームページ等で)	2
② 業界動向等を積極的に開示していますか。	2
③ 有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等を開催していますか。(前年7月から本年6月までの間)	6

食品専門部会委員

部　会　長	三浦　信義	日興ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
部会長代理	山崎　徳司	大和証券ｴｽｴﾑﾋﾞｰｼｰ
	沖平　吉康	ｸﾚﾃﾞｨ･ｽｲｽ証券
	佐治　　広	みずほ証券
	下田　曜弘	住友信託銀行
	ﾏｲｹﾙ ｼﾞｪｲｺﾌﾞｽ	JP ﾓﾙｶﾞﾝ･ｱｾｯﾄ･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	矢野　節子	みずほ信託銀行

評価実施アナリスト（25名〈氏名等の掲載の承諾を得られていない２名を含む〉）

池永　紗知子	日興ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
池野　智彦	ｴｰｽ経済研究所
岩田　俊幸	みずほ証券
大島　守雄	みずほｲﾝﾍﾞｽﾀｰｽﾞ証券
大島　有木子	ﾄﾞｲﾂ証券
大柳　　彩	三井住友ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
沖平　吉康	ｸﾚﾃﾞｨ･ｽｲｽ証券
佐治　　広	みずほ証券
ﾏｲｹﾙ ｼﾞｪｲｺﾌﾞｽ	JP ﾓﾙｶﾞﾝ･ｱｾｯﾄ･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
下田　曜弘	住友信託銀行
田中　克典	ｺﾞｰﾙﾄﾞﾏﾝ･ｻｯｸｽ証券
角田　成宏	損保ｼﾞｬﾊﾟﾝ･ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
角田　律子	ﾒﾘﾙﾘﾝﾁ日本証券
角山　智信	東海東京調査ｾﾝﾀｰ
勅使河原　充	朝日ﾗｲﾌｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
長﨑　真介	みずほ投信投資顧問
永島　　博	T&D ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
福島　礼子	ｽﾊﾟｰｸｽ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
藤田　　潤	大和住銀投信投資顧問
三浦　信義	日興ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
矢野　節子	みずほ信託銀行
山崎　徳司	大和証券ｴｽｴﾑﾋﾞｰｼｰ
横山　瑞穂	ｿｼｴﾃｼﾞｪﾈﾗﾙｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ

(注)　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

鉄鋼・非鉄金属

新日本製鐵、住友金属工業、神戸製鋼所、日新製鋼、ジェイ エフ イー ホールディングス、大同特殊鋼、日立金属、三井金属鉱業、三菱マテリアル、住友金属鉱山、DOWA ホールディングス、古河電気工業、住友電気工業、フジクラ、日立電線

（計 15 社）

1．評価方法等

(1)　評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	7	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	8	40
③フェアー・ディスクロージャー	**フェアー・ディスクロージャー**	3	10
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	**コーポレート・ガバナンス関連**	2	10
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	3	10
計		23	100

（注）具体的な評価項目および配点は 33 頁参照

(2)　評価実施（スコアシート記入）アナリストは 31 社の 34 名である。

2．評価結果

(1)　**総括**

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 32 頁参照）。

本年度は、評価項目の具体的内容および配点を昨年度と同一にして評価した。個別評価企業の総合評価点は、15 社中 14 社が昨年度を上回る改善（10 点以上が 5 社）がみられ、総合評価平均点は昨年度（70.9 点）より 5.8 点高い 76.7 点となった。ちなみに、評価対象企業の総合評価点の標準偏差は、5.2 点で昨年度（6.6 点）に比しやや縮小した。

評価項目の 5 分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 81%、**説明会等**が 78%、**フェアー・ディスクロージャー**が 75%、**コーポレート・ガバナンス関連**が 71%、**自主的情報開示**が 65%となり、昨年度より 15 ポイント改善が見られた。ただ、**経営陣の IR 姿勢等**が高い得点率の評価を受けている中で、この分野の経営陣の IR 姿勢の項目については、75%と昨年度の 71%より向上しているものの、他の項目に比し格差のある低い水準にとどまっている。当該項目は、全項目中、特に配点の

配分を最も重くしている観点からも、今後一層の改善の努力が強く望まれる。

業態別の総合評価平均点を見ると、鉄鋼（7社）の75.8点（昨年度74.1点）に比し、非鉄金属（8社）は77.6点（同67.9点）となり、鉄鋼と非鉄金属が逆転する結果となった。また、非鉄金属は、昨年度8社中5社が下位評価企業を占め、その平均点は全体の上位評価企業（5社）と比べかなりの格差（13.9点）があった。しかしながら、本年度は、7社の評価点が上位10社の中にあるほか、5社が昨年度に比べ10点以上上回っている等、大幅な改善の跡がうかがえる。その背景としては、非鉄金属の企業が特に次の点について、前向きに取組んだことが挙げられる。

① 四半期ごとの業績動向に関する説明会（電話会議を含む）を開始したこと（改善した5社全てが非鉄金属）

② 電話会議のリプレイを、終了後同日中に聴取できるようになったこと（同5社中4社が非鉄金属）

具体的評価項目について見ると、全評価項目23のうち11項目が平均得点率で80%を上回り、特に、次の3項目は全社が高い得点率（評価点／配点〈以下省略〉）の評価となった。

① 投資家にとって重要と判断される事項の遅滞のない開示（平均得点率 93%、〔全社90%台〕）

② ホーム・ページを利用した有用な情報提供（同88%、〔90%台：8社、80%台：7社〕）

③ ファクトブック、アニュアルレポート、環境報告書等の内容の充実性（同87%、〔90%台：6社、80%台：9社〕）

このほか、一部の企業を除き、次の項目も満点や高い得点率の評価を受けた。

① 四半期ごとの業績動向に関する説明会（電話会議を含む）の開催（同93%、〔満点：昨年度の9社から1社を除く14社に拡大〕）

② IR部門以外のセクションへのインタビュー等についての積極的な対応（同93%、〔満点：4社、90%台：8社、80%台：2社〕）

③ IR部門へのアクセスの容易性（同89%、〔満点：1社、90%台：11社、80%台：1社〕）

また、評価実施アナリストの意見を見ると、全般的に説明会資料やインタビューでの説明が充実しているとの声があった。

一方、以下の2項目は、①については一部の企業を除き全体的に、②については鉄鋼の多くの企業を中心に、改善が強く望まれる。

① 会社主催の工場見学会、事業部説明会、技術説明会等を実施し、その内容は充実しているか（平均得点率45%、〔得点率50%未満：10社〕）

② 説明会または電話会議のリプレイは、終了後同日中に電話やウェブキャストで視聴ができるか（同53%、〔満点：昨年度の3社から8社に拡大〕）

(2) 上位個別企業の評価概要

住友金属工業

（ディスクロージャー優良企業〔2回連続4回目〕、総合評価点：83.4点、第1位）

同社は、分野別では、**経営陣のIR姿勢等**（得点率〈以下省略〉84%）が第7位、**説明会**

等（82%）が第3位、**フェアー・ディスクロージャー**（95%）が3社同得点第3位、**コーポレート・ガバナンス関連**（81%）および**自主的情報開示**（80%）が第1位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**説明会等**においては、インタビューで説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明を行っていることが高い評価を受けた。また、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報のほか、決算短信・添付資料と同時に企業分析に必要かつ十分な補足資料がTDネット経由で入手ができる点が評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、資本政策、株主還元策や、中・長期経営方針を公表し、その後の進捗状況についての説明ぶりが評価された。

自主的情報開示においては、E-mailを利用して有用な情報提供を行っている点が評価された。

以上のほか、IR部門が経営陣の情報をタイムリーに入手できるような情報集積の支援等が高い評価を受けた。加えて、IR部門に豊富な情報が集積されており、担当者と有益なディスカッションができる等、同部門の機能が充実している点も高く評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

住友金属鉱山

（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点：81.4点〔昨年度比＋15.3点〕、第2位←12位、分野では、コーポレート・ガバナンス関連（74%）2社同得点第3位、自主的情報開示（75%）第2位）

同社は、23の評価項目中20項目において昨年度の得点率を上回る評価を受けた。特に、社長が説明会で、今後の経営方針や業界動向について自らの言葉で語っている点が有意義であるほか、IR部門の体制が格段に強化されたこと等、経営陣のIRへの取組姿勢が評価された。また、工場や鉱山等の見学会を積極的に実施しその内容が充実している点で、他社と格差のあるトップの評価を受けた。さらに、中・長期経営方針を公表し、その後の進捗状況についての説明ぶりも評価された。

このほか、四半期ごとの業績動向に関する説明会（電話会議を含む）を開催するようになったことや、電話会議のリプレイを、終了後同日中に聴取できるようになったことも、総合評価点および順位のアップにつながった。

同社は、以上のように多くの面でディスクロージャーの改善を図っており、同社のこのような努力は高く評価できるものと認められる。

日立電線（総合評価点：81.1点、第3位←3位、分野では、説明会等（84%）第2位）

同社は、経営分析に必要な重要な情報開示の継続性に配慮していること等、IRの基本スタンスについて高い評価を受けた。また、インタビューで説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明を行っている点も高く評価された。さらに、説明会資料で収益お

よび財務分析に必要な情報の開示が十分であることや、部門別情報等の実績および見通しのデータを投資家の関心に即して十分に記載していること等、説明会資料における開示が充実している点が高い評価を受けた。このほか、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報や、決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要かつ十分な補足資料が TD ネット経由で入手ができる点が評価された。

DOWA ホールディングス

（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点：80.9 点〔昨年度比＋14.0 点〕、第 4 位←11 位、分野では、経営陣の IR 姿勢等（84%）2 社同得点第 5 位、説明会等（81%）および自主的情報開示（71%）2 社同得点第 4 位）

同社は、23 の評価項目中 19 項目において昨年度の得点率を上回る評価を受けた。特に、社長が説明会およびアナリストミーティングで、自ら中期的課題や取組方針について述べているほか、取材での質疑応答も有意義である点等、経営陣の IR への前向きな取組姿勢が評価された。また、会社にとって都合の悪い情報も積極的に開示する姿勢や、経営分析に必要な重要な情報開示の継続性に配慮していること等、IR の基本スタンスについて高い評価を受けた。さらに、決算説明会における会社側の説明が十分であることに加え、部門別等の実績および見通しのデータを投資家の関心に即して十分に説明している点が評価された。

このほか、四半期ごとの業績動向に関する説明会（電話会議を含む）を開催するようになったことや、電話会議のリプレイを、終了後同日中に聴取できるようになったことも、総合評価点および順位のアップにつながった。

同社は、以上のように多くの面でディスクロージャーの改善を図っており、同社のこのような努力は高く評価できるものと認められる。

三菱マテリアル

（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点：80.4 点〔昨年度比＋11.2 点〕、第 5 位←9 位、分野では、経営陣の IR 姿勢等（85%）2 社同得点第 3 位、説明会等（81%）2 社同得点第 4 位、フェアー・ディスクロージャー（96%）2 社同得点第 1 位）

同社は、23 の評価項目中 17 項目において昨年度の得点率を上回る評価を受けた。特に、IR 部門に豊富な情報が集積されており、担当者の取材対応が優れていること等、同部門の機能が充実している点が高い評価を受けた。また、インタビューで説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明を行っていることも高く評価された。さらに、説明会資料で収益および財務分析に必要な情報の開示が十分であることや、部門別等の実績および見通しのデータを投資家の関心に即して十分に説明していること等、説明会資料における開示が充実している点が評価を受けた。

このほか、四半期ごとの業績動向に関する説明会（電話会議を含む）を開催するようになったことや、電話会議のリプレイを、終了後同日中に聴取できるようになったことも、総合評価点および順位のアップにつながった。

同社は、以上のように多くの面でディスクロージャーの改善を図っており、同社のこのような努力は高く評価できるものと認められる。

(3) 上記以外の企業で昨年度に比し総合評価点、順位の上昇が目立つ企業

住友電気工業（総合評価点：77.1 点〔昨年度比＋14.6 点〕、第 9 位←14 位）

同社は、特に、四半期ごとの業績動向に関する説明会（電話会議を含む）を開催するようになったことや、説明資料が充実している点等、**説明会等**における開示の改善が図られた。さらに、IR 部門の担当者が投資家の目線に立っており、担当者と有益なディスカッションができることに加え、電話会議のリプレイを、終了後同日中に聴取できる点も、総合評価点および順位のアップにつながった。

三井金属鉱業（総合評価点：77.0 点〔昨年度比＋11.1 点〕、第 10 位←13 位）

同社は、特に、社長がトップ IR を開催するようになったこと等、経営陣の IR への取組姿勢が前向きになった点が高い評価を受けた。さらに、工場見学会を積極的に開催していること等、**自主的情報開示**が評価されたことに加え、四半期ごとの業績動向に関する説明会（電話会議を含む）を開催するようになった点も、総合評価点および順位のアップにつながった。

以　上

平成21年度　ディスクロージャー評価比較総括表（鉄鋼・非鉄金属）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス 評価項目7（配点30点）		2 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目8（配点40点）		3. フェアー・ディスクロージャー 評価項目3（配点10点）		4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目2（配点10点）		5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目3（配点10点）		昨年度順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	住友金属工業	83.4	25.1	7	32.7	3	9.5	3	8.1	1	8.0	1	1
2	住友金属鉱山	81.4	25.0	8	32.2	7	9.3	7	7.4	3	7.5	2	12
3	日立電線	81.1	24.8	9	33.4	2	9.4	6	6.7	13	6.8	6	3
4	DOWAホールディングス	80.9	25.2	5	32.4	4	9.2	8	7.0	9	7.1	4	11
5	三菱マテリアル	80.4	25.4	3	32.4	4	9.6	1	6.9	10	6.1	10	9
6	日新製鋼	78.7	24.6	10	31.2	11	9.5	3	7.4	3	6.0	12	5
7	古河電気工業	78.5	25.4	3	31.0	12	9.6	1	6.9	10	5.6	13	4
8	神戸製鋼所	77.9	25.2	5	33.8	1	5.5	9	7.3	5	6.1	10	2
9	住友電気工業	77.1	23.6	11	31.3	9	9.5	3	7.2	7	5.5	14	14
10	三井金属鉱業	77.0	25.7	1	32.3	6	5.5	9	6.4	14	7.1	4	13
11	日立金属	76.4	25.5	2	31.7	8	5.5	9	7.2	7	6.5	7	6
12	新日本製鐵	73.5	22.3	14	31.3	9	5.2	15	7.5	2	7.2	3	8
13	ジェイ エフ イー ホールディングス	73.3	23.6	11	30.6	13	5.3	12	7.3	5	6.5	7	7
14	大同特殊鋼	67.6	23.5	13	25.8	15	5.3	12	6.8	12	6.2	9	10
15	フジクラ	64.3	20.3	15	27.7	14	5.3	12	6.4	14	4.6	15	15
	評価対象企業評価平均点	76.7	24.3		31.3		7.5		7.1		6.5		

（注）評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は5.2点、前回は6.6点であった。

21年度評価項目および配点一覧（鉄鋼・非鉄金属）

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点（30点）
(1) 経営陣のIR姿勢	
① 全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどう評価しますか。（十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援等）	8
② 社長が説明会またはアナリストミーティングに出席し、今後の経営方針等について有意義なディスカッションをしていますか。	8
(2) IR部門の機能	
① IR担当者と有益なディスカッションができますか。	3
② IR部門へのアクセスの容易性はどうですか。	3
③ IR部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していますか。［要請しなかった場合には満点評価とする］	3
(3) IRの基本スタンス	
① 会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	2
② 経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。	3
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**配点（40点）**
(1) 説明会、インタビューにおける開示	
① 決算説明会における会社側の説明は十分ですか。	5
② インタビューにおいて説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。	5
(2) 説明資料等（短信・添付資料および補足資料を含む）における開示	
① 決算短信・添付資料と同時に企業分析に必要かつ十分な補足資料がTDネット経由で入手できますか。	5
② 説明会資料等における実績および見通しの開示	
A 収益および財務分析に必要な情報は十分に記載されていますか。	5
B 部門別あるいは主要子会社別等の実績および見通しのデータが投資家の関心に即して十分に記載されていますか。	5
(3) 四半期情報開示	
① 四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか。	5
② 四半期ごとに業績動向に関する説明会(電話会議を含む)を開催していますか。［開催あり:5点　開催なし:0点］	5
(4) 業績修正時の開示	
・ 業績修正の理由が具体的に説明されていますか。［業績修正がなかった場合には満点評価とする］	5
3. フェアー・ディスクロージャー	**配点（10点）**
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
・ 投資家にとって重要と判断される事項（例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、新製品・新技術、合併・提携、リスク情報等）の開示は遅滞なく行われていますか。［当該事項の発生がなかった場合には満点評価とする］	3
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
・ ホーム・ページを利用して有用な情報提供（決算説明会の資料および内容、その他対外公表資料等）を行っていますか。	3
(3) その他	
・ 説明会または電話会議のリプレイは、終了後同日中に電話やウェブキャストで視聴等ができますか。［できる:4点　できない:0点］	4
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	**配点（10点）**
(1) 資本政策、株主還元策の開示	
・ 資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	5
(2) 目標とする経営指標等	
・ 中・長期経営計画(目標とする経営指標等)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていますか。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	**配点（10点）**
(1) 会社主催の工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容は充実していますか。（前年7月から本年6月までの間）	4
(2) ファクトブック、アニュアルレポート、環境報告書等の内容は充実していますか。	3
(3) E-mailを利用して有用な情報提供を行っていますか。	3

鉄鋼・非鉄金属専門部会委員

部　会　長	山口　　敦	UBS 証券会社
部会長代理	小枝　善則	ｿｼｴﾃｼﾞｪﾈﾗﾙｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	五老　晴信	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ証券
	齋野　洋子	JP ﾓﾙｶﾞﾝ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	竹元　宏和	みずほ信託銀行
	原田　一裕	三菱 UFJ 証券
	村田　　崇	大和証券ｴｽｴﾑﾋﾞｰｼｰ

評価実施アナリスト(34 名〈氏名等の掲載の承諾を得られていない 4 名を含む〉)

朝倉	香織	第一生命保険	高野	芳行	東海東京調査ｾﾝﾀｰ
荒木	廉太郎	住友信託銀行	高橋	一樹	三菱 UFJ 信託銀行
石飛	益徳	ｴｰｽ経済研究所	竹元	宏和	みずほ信託銀行
梶山	健	日興ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	常峰	隆一	ｽﾊﾟｰｸｽ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
喜多	徳明	明治安田生命保険	徳永	祐美	ﾆｯｾｲ ｱｾｯﾄ ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
小枝	善則	ｿｼｴﾃｼﾞｪﾈﾗﾙｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	中	英明	中央三井ｱｾｯﾄ信託銀行
小菅	一郎	ｺﾞｰﾙﾄﾞﾏﾝ・ｻｯｸｽ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	長谷川	稔	三井住友ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
五老	晴信	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ証券	服部	哲也	大和証券投資信託委託
齋藤	達哉	三井住友ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	原田	一裕	三菱 UFJ 証券
齋野	洋子	JP ﾓﾙｶﾞﾝ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	益田	英太郎	T&D ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
坂井	早苗	三井住友ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	松田	洋	みずほ証券
佐野	圭介	朝日ﾗｲﾌｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	村形	真樹子	損保ｼﾞｬﾊﾟﾝ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
辻	典秀	みずほ証券	村田	崇	大和証券ｴｽｴﾑﾋﾞｰｼｰ
城野	俊之	日興ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券	山口	敦	UBS 証券会社
鈴木	博行	みずほｲﾝﾍﾞｽﾀｰｽﾞ証券	山田	真也	ｸﾚﾃﾞｨ・ｽｲｽ証券

(注)　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

電気・精密機器

【産業エレクトロニクス部門】
日立製作所、東芝、三菱電機、オムロン、エルピーダメモリ、日本電気、富士通、NEC エレクトロニクス
【民生エレクトロニクス部門】
パナソニック、シャープ、ソニー、船井電機、カシオ計算機
【電子部品部門】イビデン、日本電産、TDK、アルプス電気、ローム、京セラ、村田製作所、日東電工
【精密機器部門】コニカミノルタホールディングス、セイコーエプソン、横河電機、アドバンテスト、ニコン、HOYA、キヤノン、リコー、東京エレクトロン
（計 30 社）

1．評価方法等

(1)　評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	6	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	8	36
③フェアー・ディスクロージャー	**フェアー・ディスクロージャー**	5	15
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	**コーポレート・ガバナンス関連**	2	10
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	2	9
計		23	100

（注）具体的な評価項目および配点は 46 頁参照

(2)　評価実施（スコアシート記入）アナリストは 45 社の 75 名である。

2．評価結果

(1)　**総括**

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」〈部門別を含む〉は 41～45 頁参照）。

本年度は、評価項目の具体的内容および配点を昨年度と同一にして評価した。個別評価企業の総合評価点は、30 社中 11 社において昨年度を上回る改善が見られたが、電気・精密機器全体（以下〈全体〉と省略）の総合評価平均点は 71.3 点と昨年度（71.6 点）とほぼ同じであった。

評価項目の5分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が74%（昨年度75%）、**説明会等**が75%（同74%）、**フェアー・ディスクロージャー**が86%（同79%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が64%（同69%）、**自主的情報開示**が32%（同40%）となり、**フェアー・ディスクロージャー**において大幅な改善が見られた反面、**コーポレート・ガバナンス関連**および**自主的情報開示**は昨年度を下回った。特に、**自主的情報開示**は昨年度を8ポイント下回り、昨年度に続き、他の分野との格差が拡大した。

また、評価対象企業を四つの各部門に分けて評価結果を比較して見ると、評価平均点の高い順に、精密機器（9社）が76.0点（昨年度73.6点）、産業エレクトロニクス（8社）が70.9点（同70.8点）、民生エレクトロニクス（5社）が70.4点（同71.4点）、電子部品（8社）が66.4点（同70.0点）となり、電子部品と他3部門との部門間格差が拡大した。ちなみに、全体の総合評価点の標準偏差は7.7点と昨年度と同じであったが、部門別（高い平均点の順）では、精密機器：4.7点（同7.7点）、産業：3.5点（同5.2点）、民生：5.5点（同7.2点）、電子部品：11.8点（同10.8点）と、電子部品内の格差が他の部門との比較においてさらに拡大している。

具体的評価項目について見ると、評価項目23のうち7項目が平均得点率で80%以上となり、特に次の3項目においては昨年度から大幅な改善が見られた。

① 決算短信あるいは添付資料（ＴＤネット掲載ベース）に関心度の高い数値（設備投資、減価償却費、研究開発費、為替レートの実績および予想、国内外従業員数の実績）が適切に記載されているか（平均得点率91%←昨年度71%、〔満点：6社、90%台：16社、80%台：7社〕）

② ホーム・ページにおける情報提供に関し、決算発表日を四半期末までに開示しているか（同87%←同68%、〔満点：26社←昨年度20社〕）

③ 同じく、過去１０年間のセグメント情報（部門別・製品別売上高等）を掲載しているか（同80%←同64%、〔満点：24社←同19社〕）

一方、今後、一部の企業を除き改善が強く望まれる点として、昨年度に引続き、次の2項目が挙げられる。

① 有益な工場見学会の開催（同26%←同39%、〔50%未満：26社←同23社〕）

② 有益な技術説明会・商品説明会の開催（同34%←同40%、〔50%未満：23社←同19社〕）

(2) 全体の上位個別企業の評価概要

日本電産（ディスクロージャー優良企業[3回連続]、総合評価点：87.7点、第1位）

同社は、分野別では、**経営陣のIR姿勢等**（得点率〈以下省略〉93%）が第1位、**説明会等**（87%）が第2位、**フェアー・ディスクロージャー**（97%）、**コーポレート・ガバナンス関連**（83%）および**自主的情報開示**（63%）が第1位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣のIR姿勢等**においては、社長が必ず説明会に出席して、会社の将来像を明確に示す等、投資家の目線に立った

積極的なIRへの取組姿勢が極めて高いトップの評価を受けた。また、IR部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供している点や、担当者と有益なディスカッションができる等、同部門の機能が充実していることも極めて高く評価された。加えて、低収益の事業等についても積極的な開示を行い、業績動向にかかわらずIR姿勢が一貫している点も高い評価を受けた。

説明会等においては、決算説明会における説明および質疑応答が十分満足できることが極めて高く評価された。また、主要商品の販売動向につき、数量・販売金額・構成比・成長率・収益性等をもって四半期ベースで十分な説明を行っていることや、次の四半期についての業績の方向性を説明している点等、インタビュー等における開示が高い評価を受けた。さらに、決算説明会におけるプレゼンテーション資料が充実し、かつ簡潔に要約されていることや、主要セグメントの売上高および営業利益を十分に記載している点も高く評価された。

フェアー・ディスクロージャーにおいては、その取組姿勢等、この分野全体について総じて高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、中期経営計画（目標とする経営指標等）を公表し、その後の進捗状況、達成のための具体的方策を説明していることが極めて高く評価された。

自主的情報開示においては、全体の平均得点率が低い中で、有益な技術説明会等の開催が相対的に評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

ニコン（総合評価点：84.2点、第2位←4位、精密機器部門：第1位←2位）

同社は、分野別では、**経営陣のIR姿勢等**（88%）および**説明会等**（86%）が第3位、**フェアー・ディスクロージャー**（96%）が第2位、**コーポレート・ガバナンス関連**（76%）が2社同得点第3位、**自主的情報開示**（56%）が第4位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣のIR姿勢等**においては、社長をはじめ経営陣が会社主催の説明会に揃って出席し、経営方針・中期計画等を十分に説明していること等、経営陣のIR姿勢が極めて高い評価を受けた。また、IR部門に十分な人員が配置され、取材が容易にでき、担当者と有益なディスカッションができる等、同部門の機能が充実している点も高く評価された。

説明会等においては、決算説明会におけるプレゼンテーション資料が充実し、かつ簡潔に要約されていることに加え、為替変動に対する売上高、営業利益の感応度が十分に記載されている点等、説明資料が充実していることが高い評価を受けた。また、インタビュー等で主要商品の販売動向につき、数量・販売金額・構成比・成長率・収益性等をもって四半期ベースで十分な説明を行っている点が高く評価された。

フェアー・ディスクロージャーにおいては、その取組姿勢等、この分野全体について総じて高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、中期経営計画（目標とする経営指標等）を公

表し、その後の進捗状況、達成のための具体的方策を説明していることが高く評価された。

自主的情報開示においては、全体の平均得点率が低い中で、有益な技術説明会・商品説明会の開催に関し、半導体露光装置技術セミナー等の開催により評価を受けた。

以上の結果同社は、精密機器部門において、第1位の評価を受けた。これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために当部門の他の企業の模範となると認められる。

東京エレクトロン（総合評価点：79.8点、第3位←3位、精密機器部門：第2位←1位）

同社は、分野別では、**経営陣のIR姿勢等**（88%）が第2位、**説明会等**（80%）が2社同得点第7位、**フェアー・ディスクロージャー**（94%）が7社同得点第9位、**コーポレート・ガバナンス関連**（67%）が2社同得点第9位、**自主的情報開示**（43%）が2社同得点第7位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣のIR姿勢等**においては、社長および会長が会社主催の説明会に出席し、経営方針・中期計画等を十分に説明していること等、経営陣のIR姿勢が極めて高い評価を受けた。また、IR部門に受注状況等十分な情報が集積され、担当者と有益なディスカッションができる点等、同部門の機能が充実していることも高く評価された。

以上のほか、決算説明会における会社側の説明および質疑応答が十分に満足できるものであることや、インタビュー等で次の四半期についての業績の方向性を説明している点も高く評価された。

コニカミノルタホールディングス

（総合評価点：79.7点、第4位←7位、精密機器部門：第3位←3位、分野では、説明会等（87%）第1位、コーポレートガバナンス関連（76%）2社同得点第3位、自主的情報開示（61%）第2位）

同社は、決算説明会におけるプレゼンテーション資料が充実しており、かつ簡潔に要約されていることに加え、主要セグメントの売上高および営業利益や為替変動に対する売上高、営業利益の感応度が十分に記載されている点等、説明資料について高い評価を受けた。また、インタビュー等で主要商品の販売動向を数量・販売金額・構成比・成長率・収益性等をもって四半期ベースで十分に説明していることもトップの極めて高い評価となった。さらに、決算説明会における会社側の説明および質疑応答についても高い評価を受けた。

このほか、中・長期経営計画(目標とする経営指標等)を公表し、その後の進捗状況を説明していることが評価された。また、全体の平均得点率が最も低い中で、有益な技術説明会・商品説明会の開催に関し、光ピックアップレンズ・POD 説明会等の開催によりトップの評価を受けた。

セイコーエプソン

（総合評価点：78.2 点、第 5 位←14 位、精密機器部門：第 4 位←5 位、分野では、経営陣の IR 姿勢等（81%）2 社同得点第 5 位、フェアー･ディスクロージャー（95%）5 社同得点第 3 位）

同社は、低収益の事業についても積極的な開示を行い、業績動向にかかわらず IR 姿勢は一貫しており、IR の基本スタンスについてトップの高い評価を受けた。加えて、経営陣および IR 部門が情報開示に際し不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っている点も極めて高く評価された。

このほか、インタビュー等で主要商品の販売動向を数量・販売金額・構成比・成長率・収益性等をもって四半期ベースで十分に説明していることも高い評価を受けた。

(3) 部門別（平均得点上位順）の上位個別企業の評価概要

【精密機器部門、平均得点：76.0 点】

ニコン（総合評価点：84.2 点、当部門第 1 位←2 位、全体：第 2 位）

同社の具体的評価概要は、上記（2）に記載のとおりである。

【産業エレクトロニクス部門、同：70.9 点】

富士通（総合評価点：76.3 点、当部門第 1 位←4 位、全体：第 7 位←12 位）

この部門における分野別の順位をみると、同社は、**経営陣の IR 姿勢等**（81%）が第 2 位、**説明会等**（74%）が 2 社同得点第 3 位、**フェアー･ディスクロージャー**（94%）が 4 社同得点第 2 位、**コーポレート･ガバナンス関連**（66%）および**自主的情報開示**（50%）が第 2 位となった。

同部門の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、社長が会社主催の説明会に出席し、経営方針・中期計画等を十分に説明していること等、経営陣の IR 姿勢が高い評価を受けた。また、IR の専門部署に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供している点や、担当者と有益なディスカッションができる等、同部門の機能が充実していることも高く評価された。

このほか、インタビュー等でサブセグメントの売上高および営業利益を四半期ベースで開示している点が評価された。

以上の結果同社は、産業エレクトロニクス部門において、第 1 位の評価を受けた。これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために当部門の他の企業の模範となると認められる。

【民生エレクトロニクス部門、同：70.4 点】

パナソニック（総合評価点：77.7 点、当部門第 1 位←1 位、全体：第 6 位←2 位）

この部門における分野別の順位をみると、同社は、**経営陣の IR 姿勢等**（80%）および**説明会等**（80%）が第 1 位、**フェアー･ディスクロージャー**（95%）が 2 社同得点第

1位、**コーポレート・ガバナンス関連**（81%）が第1位、**自主的情報開示**（30%）が2社同得点第3位となった。

同部門の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣のIR姿勢等**においては、社長が会社主催の説明会に出席し、経営方針・中期計画等を十分に説明している点が高い評価を受けた。

説明会等においては、決算説明会におけるプレゼンテーション資料が充実し、かつ簡潔に要約されていることに加え、決算短信あるいは添付資料に関心度の高い数値（設備投資、減価償却費、研究開発費、為替レートの実績および予想、国内外従業員数の実績）が適切に記載されている点が高く評価された。

フェアー・ディスクロージャーにおいては、その取組姿勢等、この分野全体について総じて高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、資本政策、株主還元策の説明、および中期経営計画（目標とする経営指標等）を公表し、その後の進捗状況、達成のための具体的方策についての説明が高く評価され、この分野においてトップの評価を受けた。

以上の結果同社は、民生エレクトロニクス部門において、第1位の評価を受けた。これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために当部門の他の企業の模範となると認められる。

【電子部品部門、同：66.4点】

日本電産（総合評価点：87.7点、当部門第1位←1位、全体：第1位）

同社の具体的評価概要は、上記（2）に記載のとおりである。

以　上

平成21年度　ディスクロージャー評価比較総括表（電気・精密機器：全体）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス 評価項目6（配点30点）		2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目8（配点36点）		3. フェアー・ディスクロージャー 評価項目5（配点15点）		4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目2（配点10点）		5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目2（配点9点）		昨年度順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	日本電産	87.7	27.9	1	31.3	2	14.5	1	8.3	1	5.7	1	1
2	ニコン	84.2	26.3	3	30.9	3	14.4	2	7.6	3	5.0	4	4
3	東京エレクトロン	79.8	26.4	2	28.7	7	14.1	9	6.7	9	3.9	7	3
4	コニカミノルタホールディングス	79.7	23.9	8	31.4	1	11.3	25	7.6	3	5.5	2	7
5	セイコーエプソン	78.2	24.4	5	30.2	6	14.3	3	6.8	8	2.5	18	14
6	パナソニック	77.7	23.9	8	28.7	7	14.3	3	8.1	2	2.7	15	2
7	富士通	76.3	24.4	5	26.7	16	14.1	9	6.6	11	4.5	5	12
8	エルピーダメモリ	74.6	25.2	4	27.1	11	13.7	21	4.9	29	3.7	9	6
9	キヤノン	74.4	21.8	17	30.4	5	11.4	23	7.5	5	3.3	11	8
10	TDK	73.8	23.2	13	27.4	10	14.0	16	6.5	12	2.7	15	5
10	横河電機	73.8	23.8	11	28.5	9	14.1	9	6.4	14	1.0	26	29
12	HOYA	72.7	24.3	7	26.9	12	14.3	3	6.3	16	0.9	29	24
13	オムロン	72.5	23.1	14	26.7	16	14.2	8	7.5	5	1.0	26	11
14	シャープ	72.1	22.7	16	26.1	20	14.3	3	5.9	22	3.1	13	19
15	日本電気	71.2	21.1	19	26.9	12	14.1	9	6.0	19	3.1	13	28
15	船井電機	71.2	21.1	19	26.5	18	14.0	16	6.1	18	3.5	10	25
17	NECエレクトロニクス	71.1	23.9	8	26.2	19	14.1	9	5.7	25	1.2	25	13
18	アドバンテスト	70.9	23.5	12	25.7	23	14.0	16	5.6	26	2.1	20	16
19	リコー	70.8	19.3	26	26.8	14	14.3	3	7.1	7	3.3	11	21
20	京セラ	69.4	21.3	18	25.8	22	14.1	9	5.8	23	2.4	19	20
21	イビデン	69.3	22.9	15	30.6	4	8.2	27	6.7	9	0.9	29	10
22	ソニー	68.2	19.6	23	26.0	21	13.9	20	6.0	19	2.7	15	17
23	日立製作所	67.7	19.6	23	23.4	29	14.1	9	5.5	27	5.1	3	27
24	東芝	67.1	20.8	22	24.8	24	13.6	22	6.4	14	1.5	23	9
25	三菱電機	66.9	18.9	27	24.1	27	14.0	16	6.0	19	3.9	7	23
26	村田製作所	66.3	19.6	23	26.8	14	11.4	23	6.5	12	2.0	22	17
27	カシオ計算機	62.8	20.9	21	24.2	26	10.9	26	5.5	27	1.3	24	26
28	日東電工	60.6	18.5	28	23.9	28	8.0	28	6.2	17	4.0	6	22
29	アルプス電気	55.0	16.1	29	24.4	25	7.7	30	4.7	30	2.1	20	30
30	ローム	49.7	13.1	30	21.8	30	8.0	28	5.8	23	1.0	26	31
	評価対象企業評価平均点	71.3	22.1		27.0		12.9		6.4		2.9		

（注）評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は7.7点、昨年度は7.7点であった。

平成21年度　ディスクロージャー評価比較総括表
（産業エレクトロニクス部門）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス 評価項目6（配点30点）		2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目8（配点36点）		3. フェアー・ディスクロージャー 評価項目5（配点15点）		4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目2（配点10点）		5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目2（配点9点）		昨年度順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	富士通	76.3	24.4	2	26.7	3	14.1	2	6.6	2	4.5	2	4
2	エルピーダメモリ	74.6	25.2	1	27.1	1	13.7	7	4.9	8	3.7	4	1
3	オムロン	72.5	23.1	4	26.7	3	14.2	1	7.5	1	1.0	8	3
4	日本電気	71.2	21.1	5	26.9	2	14.1	2	6.0	4	3.1	5	8
5	NECエレクトロニクス	71.1	23.9	3	26.2	5	14.1	2	5.7	6	1.2	7	5
6	日立製作所	67.7	19.6	7	23.4	8	14.1	2	5.5	7	5.1	1	7
7	東芝	67.1	20.8	6	24.8	6	13.6	8	6.4	3	1.5	6	2
8	三菱電機	66.9	18.9	8	24.1	7	14.0	6	6.0	4	3.9	3	6
	評価対象企業評価平均点	70.9	22.1		25.7		14.0		6.1		3.0		

（注）評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は3.5点、昨年度は5.2点であった。

平成21年度　ディスクロージャー評価比較総括表
（民生エレクトロニクス部門）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス 評価項目6（配点30点）		2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目8（配点36点）		3. フェアー・ディスクロージャー 評価項目5（配点15点）		4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目2（配点10点）		5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目2（配点9点）		昨年度順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	パナソニック	77.7	23.9	1	28.7	1	14.3	1	8.1	1	2.7	3	1
2	シャープ	72.1	22.7	2	26.1	3	14.3	1	5.9	4	3.1	2	4
3	船井電機	71.2	21.1	3	26.5	2	14.0	3	6.1	2	3.5	1	5
4	ソニー	68.2	19.6	5	26.0	4	13.9	4	6.0	3	2.7	3	3
5	カシオ計算機	62.8	20.9	4	24.2	5	10.9	5	5.5	5	1.3	5	6
	評価対象企業評価平均点	70.4	21.6		26.3		13.5		6.3		2.7		

（注）評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は5.5点、昨年度は7.2点であった。

平成21年度　ディスクロージャー評価比較総括表（電子部品部門）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス 評価項目6（配点30点）		2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目8（配点36点）		3. フェアー・ディスクロージャー 評価項目5（配点15点）		4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目2（配点10点）		5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目2（配点9点）		昨年度順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	日本電産	87.7	27.9	1	31.3	1	14.5	1	8.3	1	5.7	1	1
2	TDK	73.8	23.2	2	27.4	3	14.0	3	6.5	3	2.7	3	2
3	京セラ	69.4	21.3	4	25.8	5	14.1	2	5.8	6	2.4	4	5
4	イビデン	69.3	22.9	3	30.6	2	8.2	5	6.7	2	0.9	8	3
5	村田製作所	66.3	19.6	5	26.8	4	11.4	4	6.5	3	2.0	6	4
6	日東電工	60.6	18.5	6	23.9	7	8.0	6	6.2	5	4.0	2	6
7	アルプス電気	55.0	16.1	7	24.4	6	7.7	8	4.7	8	2.1	5	7
8	ローム	49.7	13.1	8	21.8	8	8.0	6	5.8	6	1.0	7	8
	評価対象企業評価平均点	66.4	20.3		26.5		10.7		6.3		2.6		

（注）評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は11.8点、昨年度は10.8点であった。

平成21年度　ディスクロージャー評価比較総括表（精密機器部門）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス 評価項目6（配点30点）		2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目8（配点36点）		3. フェアー・ディスクロージャー 評価項目5（配点15点）		4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目2（配点10点）		5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目2（配点9点）		昨年度順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	ニコン	84.2	26.3	2	30.9	2	14.4	1	7.6	1	5.0	2	2
2	東京エレクトロン	79.8	26.4	1	28.7	5	14.1	5	6.7	6	3.9	3	1
3	コニカミノルタホールディングス	79.7	23.9	5	31.4	1	11.3	9	7.6	1	5.5	1	3
4	セイコーエプソン	78.2	24.4	3	30.2	4	14.3	2	6.8	5	2.5	6	5
5	キヤノン	74.4	21.8	8	30.4	3	11.4	8	7.5	3	3.3	4	4
6	横河電機	73.8	23.8	6	28.5	6	14.1	5	6.4	7	1.0	8	9
7	HOYA	72.7	24.3	4	26.9	7	14.3	2	6.3	8	0.9	9	8
8	アドバンテスト	70.9	23.5	7	25.7	9	14.0	7	5.6	9	2.1	7	6
9	リコー	70.8	19.3	9	26.8	8	14.3	2	7.1	4	3.3	4	7
	評価対象企業評価平均点	76.0	23.7		28.8		13.6		6.8		3.1		

（注）評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は4.7点、昨年度は7.7点であった。

21年度評価項目および配点一覧(電気・精密機器)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点(30点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
① 社長または会長が会社主催の説明会(テレフォンカンファレンスを含む)に年何回出席していますか。(前年7月から本年6月までの間)　[4回以上:4点　3回:3点　2回:2点　1回:1点　なし:0点]	4
② 社長または会長が会社主催の説明会(テレフォンカンファレンスを含む)において、経営方針・中期計画等を十分に説明していますか。	6
(2) IR部門の機能	
① IRの専門部署があり取材が容易にできますか。	5
② IR部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供していますか。	5
③ IR担当者と有益なディスカッションができますか。	5
(3) IRの基本スタンス	
・ 会社にとって都合の悪い情報、低収益の事業についても積極的な開示を行い、業績動向にかかわらずIR姿勢は一貫していますか。	5
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点(36点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示	
・ 決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。	5
(2) 説明会資料等における開示	
① 決算説明会におけるプレゼンテーション資料は充実しており、かつ簡潔に要約されていますか。	5
② 決算短信あるいは添付資料(TDネット掲載ベース)に関心度の高い数値(**設備投資、減価償却費、研究開発費、為替レートの実績および予想、国内外従業員数の実績**)が適切に記載されていますか。	5
③ 主要セグメントの売上高および営業利益が十分に記載されていますか。	5
④ 為替変動に対する売上高、営業利益の感応度が十分に記載されていますか。	3
(3) インタビュー等における開示	
① 主要商品の販売動向が、数量・販売金額・構成比・成長率のいずれかをもって十分に説明されていますか。	5
② サブセグメントの売上高および営業利益が四半期ベースで開示されていますか。	5
③ 次の四半期についての業績の方向性を説明していますか。	3
3. フェアー・ディスクロージャー	配点(15点)
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
① 経営陣およびIR部門が情報開示に際し不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	3
② 業績変動の開示が遅滞なく、かつ公平に行われていますか。	3
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
① 決算発表日を四半期末までに開示していますか。[あり:3点　なし:0点]	3
② 過去10年間のセグメント情報(**部門別・製品別売上高等**)を掲載していますか。[あり:3点　なし:0点]	3
③ 過去3年間の決算説明会の配布資料およびプレゼンテーション資料がともに掲載されていますか。[あり:3点　なし:0点]	3
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点(10点)
(1) 資本政策、株主還元策の開示	
・ 資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	5
(2) 目標とする経営指標等	
・ 中・長期経営計画(目標とする経営指標等)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていますか。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点(9点)
(1) 有益な工場見学会が実施されていますか。(前年7月から本年6月までの間)	3
(2) 有益な技術説明会・商品説明会が実施されていますか。(前年7月から本年6月までの間)	6

電気・精密機器専門部会委員

部　会　長	石野　雅彦	三菱 UFJ 証券
部会長代理	澤嶋　裕希	中央三井ｱｾｯﾄ信託銀行
	相場　　繁	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	栗山　　史	ﾒﾘﾙﾘﾝﾁ日本証券
	後藤　文秀	UBS 証券会社
	佐渡　拓実	大和証券ｴｽｴﾑﾋﾞｰｼｰ
	山﨑　総一	富国生命投資顧問
	和田木 哲哉	野村證券

評価実施アナリスト（75 名〈氏名等の掲載の承諾を得られていない 5 名を含む〉）

相場　　繁	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
秋田　一太郎	ｽﾊﾟｰｸｽ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
秋山　貢一	岡三証券
浅井　真二	三井住友ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
浅尾　和也	損保ｼﾞｬﾊﾟﾝ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
石田　雄一	みずほｲﾝﾍﾞｽﾀｰｽﾞ証券
石野　雅彦	三菱 UFJ 証券
和泉　美治	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券
磯　　光裕	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
稲葉　章代	住友信託銀行
内野　晃彦	三菱 UFJ 証券
江沢　厚太	日興ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
及川　　慶	安田投信投資顧問
大竹　喜英	ｿｼｴﾃｼﾞｪﾈﾗﾙｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
岡田　真一	三菱 UFJ 信託銀行
岡部　和男	富国生命投資顧問
沖本　修朗	新光投信
小野　雅弘	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ証券
桂　　竜輔	みずほ証券
金森　一仁	大和住銀投信投資顧問
鎌田　重俊	立花証券
河口　洋一	三菱 UFJ 信託銀行
木谷　　亨	SMBC ﾌﾚﾝﾄﾞ調査ｾﾝﾀｰ
久保田　悟	中央三井ｱｾｯﾄ信託銀行
栗山　　史	ﾒﾘﾙﾘﾝﾁ日本証券
香西　隆弘	大和証券投資信託委託
小菅　一郎	ｺﾞｰﾙﾄﾞﾏﾝ・ｻｯｸｽ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
後藤　文秀	UBS 証券会社
後藤　幸博	ﾏｯｺｰﾘｰｷｬﾋﾟﾀﾙ証券会社
小林　正昭	三菱 UFJ 信託銀行
小林　守伸	ﾆｯｾｲ ｱｾｯﾄ ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
酒井　　洋	SMBC ﾌﾚﾝﾄﾞ調査ｾﾝﾀｰ
佐々木 健太郎	JP ﾓﾙｶﾞﾝ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
佐藤　春雄	東海東京調査ｾﾝﾀｰ
佐藤　弘康	大和証券ｴｽｴﾑﾋﾞｰｼｰ
佐藤　雅晴	大和証券ｴｽｴﾑﾋﾞｰｼｰ
佐渡　拓実	大和証券ｴｽｴﾑﾋﾞｰｼｰ
醒井　周太	ﾆｯｾｲ ｱｾｯﾄ ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
澤嶋　裕希	中央三井ｱｾｯﾄ信託銀行
嶋田　幸彦	三菱 UFJ 証券
嶋津　正明	農林中金全共連ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
嶋　　三裕	大和証券投資信託委託
清水　俊宏	DIAM ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
下井　尚則	日興ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
関口　雄一	住友信託銀行
高山　大樹	ｺﾞｰﾙﾄﾞﾏﾝ・ｻｯｸｽ証券
辻村　哲士	朝日ﾗｲﾌｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
土屋　直樹	大和証券投資信託委託
中根　康夫	ﾄﾞｲﾂ証券
中野　次朗	AIG ｲﾝﾍﾞｽﾄﾒﾝﾂ

中名生　正弘	ﾊﾞｰｸﾚｲｽﾞ・ｷｬﾋﾟﾀﾙ証券	松村　泰武	大和住銀投信投資顧問
西野　慶太	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ投信	三浦　和晴	大和証券ｴｽｴﾑﾋﾞｰｼｰ
野田　　聡	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	宮本　武郎	ﾄﾞｲﾂ証券
原田　慎司	日興ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券	村上　貴信	ﾗｻﾞｰﾄﾞ・ｼﾞｬﾊﾟﾝ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄ
日暮　善一	ﾄﾞｲﾂ証券	森山　久史	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券
廣瀬　　治	東海東京調査ｾﾝﾀｰ	安田　秀樹	ｴｰｽ経済研究所
福永　敬輔	住友信託銀行	山崎　総一	富国生命投資顧問
藤本　和敬	日本生命保険	山崎　雅也	野村證券
藤森　裕司	ｺﾞｰﾙﾄﾞﾏﾝ・ｻｯｸｽ証券	若林　惠太	水戸証券
堀井　浩之	住友信託銀行	和田木　哲哉	野村證券

(注)　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

自動車・同部品・タイヤ

トヨタ紡織、ブリヂストン、住友ゴム工業、豊田自動織機、デンソー、日産自動車、いすゞ自動車、トヨタ自動車、日野自動車、三菱自動車工業、NOK、アイシン精機、マツダ、ダイハツ工業、本田技研工業、スズキ、富士重工業、ヤマハ発動機、豊田合成
（計 19 社）

1．評価方法等

(1)　評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	3	20
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	12	36
③フェアー・ディスクロージャー	**フェアー・ディスクロージャー**	6	15
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	**コーポレート・ガバナンス関連**	3	15
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	4	14
計		28	100

（注）具体的な評価項目および配点は 54 頁参照

(2)　評価実施（スコアシート記入）アナリストは 29 社の 37 名である。

2．評価結果

(1)　**総括**

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 53 頁参照）。

本年度は、具体的評価項目の入替え（高い評価の項目等 13 項目を削除し、新たに 10 の項目を追加）や配点の見直しを行って、評価を実施した。

本年度の総合評価平均点は 60.1 点（昨年度 65.6 点）となった。評価項目の 5 分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 64%、**説明会等**が 63%、**フェアー・ディスクロージャー**が 65%、**コーポレート・ガバナンス関連**が 51%、**自主的情報開示**が 52%となり、**コーポレート・ガバナンス関連**と**自主的情報開示**は他の 3 分野に比べ平均得点率が低く、格差も見られる。

なお、評価対象企業の総合評価点の標準偏差は 7.3 点（昨年度 7.7 点）と昨年度とほぼ同水準であった。

具体的評価項目について見ると、次の 2 項目は一部の企業を除き総じて高い得点率（評価

点／配点〈以下省略〉）の評価となった。

① 決算説明会のホーム・ページでの公開について、配布資料の掲載は十分か（平均得点率84%、[90%台：4社、80%台：13社]）

② 四半期ごとに業績動向に関する説明会または電話会議を開催しているか （同 78%、[満点：15社←昨年度14社]）

一方、一部の企業を除き、今後総じて改善が強く望まれる点として、次の項目が挙げられる。

① 決算説明会のホーム・ページでの公開について、質疑応答の状況が十分に分かるようになっているか（平均得点率30%、[得点率50%未満：16社]）

② 会社主催の工場見学会・事業部説明会・技術説明会・商品説明会の内容は充実しているか（同41%、[同50%未満：14社]）

③ 説明資料等（短信およびその附属資料を含む）において、原材料の影響について分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されているか（同44%、[同50%未満：10社]）

④ 説明会のリプレイは、説明会終了後24時間以内に電話やウェブキャストで視聴等ができるか（同45%、[満点（4回すべてできる）：4社、0点：8社]）

また、業態別の総合評価平均点を見ると、自動車メーカーは62.7点、同部品メーカー、タイヤメーカーは56.8点となり、自動車メーカーと同部品メーカーおよびタイヤメーカーとの格差は依然として大きい。例えば、**自主的情報開示**の分野においては、引続き非常に大きな格差がみられ、今後の改善が強く望まれる。

なお、業績悪化で工場見学会の実施を取りやめたり、一部開示情報を省略する等、IR が後退した企業が見られたが、業績動向にかかわらず前向きなIRへの取組姿勢が望まれるとの意見が多くのアナリストから示された。

(2) 上位個別企業の評価概要

日産自動車（ディスクロージャー優良企業〔3回連続〕、総合評価点：74.5点、第1位）

同社は、分野別では、**経営陣のIR姿勢等**（得点率〈以下省略〉77%）が第1位、**説明会等**（70%）が第4位、**フェアー・ディスクロージャー**（83%）が2社同得点第1位、**コーポレート・ガバナンス関連**（68%）および**自主的情報開示**（80%）が第1位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣のIR姿勢等**においては、トップマネジメントが必ず通期決算説明会に参加するほか、様々なイベントに積極的に取組んでいる等、全体として経営陣のIR姿勢が高い評価を受けた。また、IR部門について、アクセスの容易性、担当者とのディスカッションの有益性および情報開示の手法等、同部門の機能が充実している点も評価された。

説明会等においては、連結の事業種類別セグメント情報や、実績ベースの利益増減要因が分析に有用な形で分かりやすく十分に記載されていることが極めて高い評価を受けたほか、キャッシュフロー計算書の実績と見通しを分かりやすく、十分に記載している点が評価された。また、短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明をしていることも評価された。

フェアー・ディスクロージャーにおいては、経営陣およびIR部門が情報開示に際し不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること等、その取組姿勢が高い評価を受けた。また、説明会のリプレイについて、説明会終了後24時間以内に電話で4回すべて聴取できる点で、4社同得点の満点評価となった。

コーポレート・ガバナンス関連においては、配当政策など株主還元策について積極的に十分な説明を行っていることが評価を受けた。また、中・長期経営計画（目標とする経営指標等）を公表し、その後の進捗状況、達成のための具体的方策についての説明ぶりが評価された。

自主的情報開示においては、E-mail を利用して有用な情報提供を行っていることが極めて高い評価を受けたほか、平均得点率が低かった（41%）、会社主催の工場見学会・事業部説明会・技術説明会・商品説明会の内容は充実しているかの項目について、先進技術説明会や工場見学会の開催により、他社と格差のあるトップの評価を受けた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

富士重工業

（総合評価点：69.0点、第2位←4位、分野では、説明会等（71%）およびフェアー・ディスクロージャー（83%）第3位、コーポレート・ガバナンス関連（55%）第4位、自主的情報開示（69%）2社同得点第2位）

同社は、連結および連結中間期の計画ベースの利益増減要因を分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載していること等、説明資料における開示が全般的に充実していることが評価された。また、決算説明会の質疑応答の状況がホーム・ページで十分に分かるようになっていることが評価された。加えて、説明会のリプレイについて、説明会終了後24時間以内に電話で4回すべて聴取できる点で、4社同得点の満点評価となった。このほか、**自主的情報開示**は、第2位の評価となった。特に、充実した工場見学会等の開催の項目については、全体的に得点率が低水準である中で、航空宇宙カンパニー事業説明会および工場見学会の内容が充実していた点が評価された。加えて、ファクトブックや統計補足情報等の内容が充実していることも高い評価を受けた。

本田技研工業

（総合評価点：67.4点、第3位←6位、分野では、経営陣のIR姿勢等（70%）第4位、説明会等（68%）第5位、フェアー・ディスクロージャー（81%）第4位、コーポレート・ガバナンス関連（59%）第2位）

同社は、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていること等、四半期情報開示が充実している点が高く評価された。また、説明資料で、連結の実績ベースの利益増減要因を分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載していることも高い評価を受けた。このほか、いち早く業績下方修正の説明会を開催する等、経営陣およびIR部門が情報開示に際し不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていることにより、フェアー・ディス

クロージャーへの取組姿勢が高い評価を受けた。加えて、説明会のリプレイについて、説明会終了後24時間以内にウェブキャストで4回すべて視聴できる点で、4社同得点の満点評価となった。さらに、配当政策・自社株買い等株主還元策について積極的に十分な説明を行っていることが評価された。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

ヤマハ発動機

（総合評価点：66.7点、第4位←2位、分野では、経営陣のIR姿勢等（70%）第3位、説明会等（71%）第2位、フェアー・ディスクロージャー（72%）第5位、コーポレート・ガバナンス関連（57%）第3位）

同社は、IR部門について、アクセスの容易性、担当者とのディスカッションの有益性および情報開示の手法等、同部門の機能が充実していること等が評価を受けた。また、低収益あるいは赤字の事業についても積極的に開示を行い、今後の改善の展望を示している点も評価された。このほか、説明資料に、連結の事業別・地域別セグメント情報を、分かりやすく十分に記載していること等、説明資料における開示が充実していることに加え、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されている等、四半期情報開示が充実している点も高い評価を受けた。

住友ゴム工業

（総合評価点：65.8点、第5位←3位、分野では、経営陣のIR姿勢等（75%）第2位、説明会等（78%）第1位）

同社は、低収益あるいは赤字の事業についても積極的に開示を行い、今後の改善の展望を示していること等、IRの基本スタンスについてトップの評価を受けたほか、全体としての経営陣のIR姿勢、ならびにIR部門の機能についても評価された。加えて、説明会、インタビューにおける開示（2項目）、四半期情報開示（4項目）のすべての項目、および説明資料における開示に関する8項目のうち5項目でトップの高い評価を受けた。

以　上

平成21年度　ディスクロージャー評価比較総括表（自動車・同部品・タイヤ）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス 評価項目3（配点20点）		2 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目12（配点36点）		3. フェアー・ディスクロージャー 評価項目6（配点15点）		4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目3（配点15点）		5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目4（配点14点）		昨年度順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	日産自動車	74.5	15.4	1	25.2	4	12.5	1	10.2	1	11.2	1	1
2	富士重工業	69.0	13.3	7	25.4	3	12.4	3	8.3	4	9.6	2	4
3	本田技研工業	67.4	13.9	4	24.4	5	12.2	4	8.8	2	8.1	7	6
4	ヤマハ発動機	66.7	14.0	3	25.7	2	10.8	5	8.6	3	7.6	8	2
5	住友ゴム工業	65.8	14.9	2	28.2	1	8.6	12	7.7	8	6.4	13	3
6	マツダ	64.7	13.5	6	22.7	10	10.7	6	8.2	5	9.6	2	8
7	トヨタ自動車	63.9	12.7	11	21.6	15	12.5	1	7.6	10	9.5	4	5
8	豊田自動織機	62.1	13.7	5	24.0	6	10.4	8	7.5	11	6.5	12	12
9	デンソー	60.6	13.3	7	23.6	7	10.6	7	7.7	8	5.4	16	10
10	いすゞ自動車	60.0	11.8	16	22.7	10	10.1	10	8.1	6	7.3	11	7
11	ダイハツ工業	59.9	12.6	12	23.3	8	8.5	14	6.8	16	8.7	5	11
12	アイシン精機	59.8	13.0	10	23.1	9	10.4	8	7.3	12	6.0	15	9
13	トヨタ紡織	58.5	13.3	7	22.6	12	8.1	16	6.9	15	7.6	8	13
14	三菱自動車工業	58.0	12.1	15	21.7	14	8.6	12	7.3	12	8.3	6	14
15	スズキ	56.8	12.6	12	22.0	13	8.2	15	7.8	7	6.2	14	15
16	NOK	50.4	12.3	14	20.5	16	7.3	19	6.5	17	3.8	19	18
17	日野自動車	49.3	10.1	18	20.5	16	7.5	18	6.4	18	4.8	17	17
18	豊田合成	49.1	10.8	17	19.7	18	7.6	17	6.2	19	4.8	17	16
19	ブリヂストン	47.7	8.2	19	15.1	19	9.7	11	7.2	14	7.5	10	19
	評価対象企業評価平均点	60.1	12.7		22.7		9.8		7.6		7.3		

（注）評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は7.3点、昨年度は7.7点であった。

21年度評価項目および配点一覧(自動車・同部品・タイヤ)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点(20点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
・ 全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどう評価しますか。	8
(2) IR部門の機能	
・ IR部門が十分に機能していますか。(アクセスの容易性、ディスカッションの有益性、情報開示の手法等)	8
(3) IRの基本スタンス	
・ 会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	4
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**配点(36点)**
(1) 説明会、インタビューにおける開示	
① 短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。	8
② 質疑に対する会社側の回答は十分満足できるものですか。	8
(2) 説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示	
① 連結の事業種類別セグメント情報は、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていますか。	2
② 連結の地域別セグメント情報は、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていますか。	2
③ 連結の実績ベースの利益増減要因は、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていますか。	2
④ 連結の計画ベースの利益増減要因は、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていますか。	2
⑤ 連結中間期の計画ベースの利益増減要因は、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていますか。	2
⑥ 原材料の影響について分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていますか。	2
⑦ キャッシュフロー計算書の実績と見通しは分かりやすく、十分に記載されていますか。	2
⑧ 売上を分析するのに有用な情報(注①)が十分に記載されていますか。	2
(3) 四半期情報開示	
① 四半期ごとに業績動向に関する説明会または電話会議を開催していますか。 [開催あり:1点 開催なし:0点]	1
② 四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか。	3
3. フェアー・ディスクロージャー	**配点(15点)**
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
① 経営陣およびIR部門が情報開示に際し不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	3
② 業績変動の開示が遅滞なく、かつ公平に行われていますか。	3
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
① ホーム・ページに過去の長期財務データ等、当該企業を分析するために必要な基本的情報が十分に掲載され、投資判断を行うライブラリーとしての機能を果たしていますか。	2
② 決算説明会のホーム・ページでの公開について	
A 配布資料の掲載は十分ですか。	2
B 質疑応答の状況が十分に分かるようになっていますか。	2
(3) 説明会のリプレイは、説明会終了後24時間以内に電話やウェブキャストで視聴等ができますか。[4回すべて視聴できる:3点 2回のみ視聴できる:2点 1回のみ視聴できる:1点 視聴できない:0点]	3
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	**配点(15点)**
(1) 資本政策、株主還元策の開示	
① 資本政策(資金調達、資本コスト、グループ持合政策、優先株、金庫株)に関し十分な説明がされていますか。	4
② 配当政策・自社株買い等株主還元策について積極的に、十分に説明していますか。	4
(2) 目標とする経営指標等	
・ 中・長期経営計画(目標とする経営指標等)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていますか。	7
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	**配点(14点)**
(1) 会社主催の工場見学会・事業部説明会・技術説明会・商品説明会の 内容は充実していますか。(前年7月から本年6月までの間)	8
(2) E-mailを利用して有用な情報提供を行っていますか。	3
(3) ファクトブックや統計補足情報等の内容は充実していますか。	2
(4) 日本語のアニュアルレポート(大幅な簡易版を除く)を作成していますか。 [作成:1点 なし:0点]	1

(注①)有用な情報については、業態毎に 【自動車メーカー】:地域別小売台数、輸出台数、生産台数等 【同部品メーカー】:ユーザー別および製品別売上高等 【タイヤメーカー】:地域別の本数出荷、新車・市販の内訳等

自動車・同部品・タイヤ専門部会委員

部　会　長	松島　憲之	日興ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
部会長代理	広川　孝一	JP ﾓﾙｶﾞﾝ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	川村　高司	ﾆｯｾｲｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	北山　信次	MDAM ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	栗生　　博	三菱 UFJ 証券
	中西　孝樹	ｱﾗｲｱﾝｽ・ﾊﾞｰﾝｽﾀｲﾝ
	持丸　強志	ﾊﾞｰｸﾚｲｽﾞ・ｷｬﾋﾟﾀﾙ証券

評価実施アナリスト（37 名〈氏名等の掲載の承諾を得られていない 4 名を含む〉）

石川　照夫	みずほ信託銀行
石飛　益徳	ｴｰｽ経済研究所
岩井　　徹	ｸﾚﾃﾞｨ・ｽｲｽ証券
岩元　泰晶	岡三証券
岡部　　史	ｸﾚﾃﾞｨ・ｽｲｽ証券
加藤　摩周	ｿｼｴﾃﾃﾞｪﾈﾗﾙｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
加藤　　守	東海東京調査ｾﾝﾀｰ
川村　高司	ﾆｯｾｲ ｱｾｯﾄ ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
北山　信次	MDAM ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
君島　重晴	大和住銀投信投資顧問
栗生　　博	三菱 UFJ 証券
坂口　大陸	みずほ証券
下森　　浩	住友信託銀行
島岡　　宏	住友信託銀行
鈴木　伸也	三菱 UFJ 投信
高橋　祐資	日本生命保険
田辺　　司	新光投信
中西　孝樹	ｱﾗｲｱﾝｽ・ﾊﾞｰﾝｽﾀｲﾝ
箱守　英治	大和証券ｴｽｴﾑﾋﾞｰｼｰ
林　　真吾	大和証券ｴｽｴﾑﾋﾞｰｼｰ
広川　孝一	JP ﾓﾙｶﾞﾝ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
古川　正幸	富国生命投資顧問
松島　憲之	日興ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
松村　　茂	SMBC ﾌﾚﾝﾄﾞ調査ｾﾝﾀｰ
松本　邦裕	UBS 証券会社
持丸　強志	ﾊﾞｰｸﾚｲｽﾞ・ｷｬﾋﾟﾀﾙ証券
森山　　茂	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ投信
森脇　　崇	野村證券
横山　泰史	東洋証券
吉田　有史	日興ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
吉田　達生	UBS 証券会社
渡辺　綾子	いちよし経済研究所
渡辺　嘉郎	みずほ証券

（注）　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

電力・ガス

東京電力、中部電力、関西電力、中国電力、北陸電力、東北電力、四国電力、九州電力、北海道電力、沖縄電力、電源開発、東京瓦斯、大阪瓦斯、東邦瓦斯、静岡瓦斯

（計 15 社）

1．評価方法等

(1)　評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	5	29
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	8	35
③フェアー・ディスクロージャー	**フェアー・ディスクロージャー**	4	18
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	**コーポレート・ガバナンス関連**	1	10
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	2	8
計		20	100

（注）具体的な評価項目および配点は 61 頁参照

(2)　評価実施（スコアシート記入）アナリストは 19 社の 20 名である。

2．評価結果

(1)　**総括**

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 60 頁参照）。

本年度の総合評価平均点は 72.6 点（昨年度 71.0 点）となった。評価対象企業 15 社のうち 12 社が昨年度を上回ったが、特に下位の評価企業において改善が見られた。ちなみに、総合評価点の標準偏差は、昨年度の 6.5 点に比し 5.1 点と縮小した。

また、電力（11 社）とガス（4 社）の総合評価平均点は、それぞれ 70.6 点（昨年度 68.8 点）と 77.5 点（同 77.0 点）となり、昨年度と同じくガスが電力を上回っているが、格差は縮小した。

評価項目の 5 分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 71%、**説明会等**が 73%、**フェアー・ディスクロージャー**が 82%、**コーポレート・ガバナンス関連**が 55%、**自主的情報開示**が 76%となり、**コーポレート・ガバナンス関連**は、昨年度と同様他の 4 分野を大きく下回る評価となった。

具体的評価項目について見ると、特に、説明会資料等を決算発表と同日にホーム・ページ

に開示しているか、の項目については、15社中14社が満点評価となった。そのほか、次の2項目は、評価対象企業の全社が80%を上回る高い得点率（評価点／配点〈以下省略〉）であった。

① 投資家にとって重要と判断される事項（業績変動、合併・提携・事業買収、事故・災害、リスク情報等）の開示は迅速に行われているか（平均得点率89%、[90%台：12社、80%台：3社]）

② 情報開示に際し不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っているか（同 87%、[90%台：2社、80%台：13社]）

他方、今後の資本政策、株主還元策が十分に説明されているか、の項目については、昨年度に比し得点率がアップした企業が多かったものの、全体としては昨年度と同じ平均得点率（55%）にとどまっており、引続き一層の改善が望まれる。

(2) 上位個別企業の評価概要

大阪瓦斯（ディスクロージャー優良企業〔新規〕、総合評価点：81.8点、第1位←2位）

同社は、分野別では、**経営陣のIR姿勢等**（得点率〈以下省略〉81%）が第1位、**説明会等**（86%）が第2位、**フェアー・ディスクロージャー**（86%）が第1位、**コーポレート・ガバナンス関連**（62%）が第4位、**自主的情報開示**（84%）が第2位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣のIR姿勢等**においては、IR部門に正確かつ十分な情報が集積されているほか、担当者の知見・習熟度が高く、レベルの高い有益なディスカッションができること等、同部門の機能が充実している点が高い評価を受けた。加えて、経営分析を行う上で必要かつ重要な情報の開示や継続性に配慮がなされている点も高く評価された。

説明会等においては、説明会資料等に、見通しの分析に必要な情報（販売量、主要費用項目等）や、主要子会社の収益見通し等、損益の分析に必要な情報が十分に記載され、資料の内容が充実していることが極めて高い評価を受けた。また、主要諸元の感応度、主要費用等関心の高い数値が決算短信添付資料に適切に記載されている点も高く評価された。

フェアー・ディスクロージャーにおいては、ホーム・ページで有用な情報提供を行っていること等、この分野全体について高い評価を受けた。

自主的情報開示においては、経営計画の説明が十分であること、ファクトブックやアニュアルレポート等の内容が充実している点が高く評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

東京瓦斯（総合評価点：81.5点、第2位←1位）

同社は、分野別では、**経営陣のIR姿勢等**（74%）が第5位、**説明会等**（86%）が第1位、**フェアー・ディスクロージャー**（84%）が第4位、**コーポレート・ガバナンス関連**（78%）および**自主的情報開示**（86%）が第1位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、説明会等において経営トップと中・長期的な会社のビジョン等今後の経営方針について有意義なディスカッションができることが評価された。

説明会等においては、説明会資料等に、収益および財務分析に必要な情報や、主要子会社等の実績データが投資家の関心に即して十分に記載され、資料の内容が充実していることが極めて高い評価を受けた。また、主要諸元の感応度、主要費用等関心の高い数値が決算短信添付資料に適切に記載されている点も高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、今後の資本政策や株主還元策の十分な説明の項目について、全体的に得点率が低い中で、トップの評価を受けた。

自主的情報開示においては、経営計画の説明が十分であること、およびファクトブックやアニュアルレポート等の内容が充実していることが高い評価を受けた。

東京電力（総合評価点：76.4 点、第 3 位←3 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（78%）が第 2 位、**説明会等**（75%）が第 6 位、**フェアー・ディスクロージャー**（84%）が 2 社同得点第 2 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（59%）が第 5 位、**自主的情報開示**（81%）が 2 社同得点第 3 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、IR 部門に十分かつ正確な情報が集積されていることや、IR 部門以外へのインタビュー等が容易である点が高い評価を受けた。加えて、経営分析を行う上で必要かつ重要な情報の開示や継続性に配慮がなされている点も高く評価された。

フェアー・ディスクロージャーにおいては、ホーム・ページで有用な情報提供を行っていること等、この分野全体について高い評価を受けた。

自主的情報開示においては、ファクトブックの内容が充実している点が高い評価を受けた。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

関西電力

（総合評価点：75.4 点、第 4 位←5 位、分野では、フェアー・ディスクロージャー（84%）2 社同得点第 2 位、コーポレート・ガバナンス関連（74%）第 2 位、自主的情報開示（80%）第 5 位）

同社は、今後の資本政策や株主還元策の十分な説明の項目について、全体的に得点率が低い中で、第 2 位の評価を受けた。また、**フェアー・ディスクロージャー**の分野全体についても高く評価された。さらに、経営計画の説明を十分に行っていることが高く評価されたほか、IR 担当部門と有益なディスカッションができる点も高い評価を受けた。

静岡瓦斯

（総合評価点：73.9 点、第 5 位←11 位、分野では、経営陣の IR 姿勢等（77%）第 3 位）

同社は、説明会等において社長自らが先頭に立って質疑にも積極的かつ真摯に対応していること等、経営陣の IR 姿勢について、他社と格差のある、トップの高い評価を受けた。こ

のほか、短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明をしている点や、フェアー・ディスクロージャーへの取組姿勢についてもトップの高い評価となった。

中国電力

（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点：73.8 **点【昨年度比**+6.9 **点】、第** 6 **位←**13 **位、分野では、説明会等**（76%）**第** 5 **位、フェアー・ディスクロージャー**（83%）3 **社同得点第** 5 **位）**

同社は、20 の評価項目中 17 項目において昨年度の得点率を上回る評価を受けた。特に、説明会資料の改善等が高く評価されたことをはじめ、多くの面でディスクロージャーの改善を図っており、同社のこのような努力は高く評価できるものと認められる。

以　上

平成21年度　ディスクロージャー評価比較総括表（電力・ガス）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス 評価項目5（配点29点）		2 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目8（配点35点）		3. フェアー・ディスクロージャー 評価項目4（配点18点）		4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目1（配点10点）		5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目2（配点8点）		昨年度順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	大阪瓦斯	81.8	23.5	1	30.0	2	15.4	1	6.2	4	6.7	2	2
2	東京瓦斯	81.5	21.6	5	30.1	1	15.1	4	7.8	1	6.9	1	1
3	東京電力	76.4	22.5	2	26.3	6	15.2	2	5.9	5	6.5	3	3
4	関西電力	75.4	20.8	8	25.6	8	15.2	2	7.4	2	6.4	5	5
5	静岡瓦斯	73.9	22.3	3	25.7	7	14.2	13	5.7	6	6.0	8	11
6	中国電力	73.8	21.1	7	26.6	5	15.0	5	5.1	9	6.0	8	13
7	東邦瓦斯	72.9	21.8	4	25.4	9	14.4	10	5.4	8	5.9	12	4
8	沖縄電力	72.3	21.5	6	26.8	3	13.3	15	4.7	12	6.0	8	7
9	電源開発	72.2	20.4	9	24.9	10	14.9	8	5.5	7	6.5	3	6
10	九州電力	70.9	19.1	13	26.8	3	14.8	9	4.6	13	5.6	13	8
11	東北電力	70.3	19.7	11	24.6	11	15.0	5	4.9	11	6.1	6	9
12	中部電力	68.2	17.6	14	24.5	12	15.0	5	5.1	9	6.0	8	10
13	北陸電力	67.5	19.6	12	24.1	13	14.1	14	4.3	14	5.4	14	14
14	四国電力	66.8	20.1	10	19.7	15	14.3	12	6.6	3	6.1	6	12
15	北海道電力	63.2	16.8	15	23.9	14	14.4	10	2.9	15	5.2	15	15
	評価対象企業評価平均点	72.6	20.6		25.7		14.7		5.5		6.1		

（注）評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は5.1点、昨年度は6.5点であった。

21年度評価項目および配点一覧(電力・ガス)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点 (29点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
① 説明会等において経営トップと今後の経営方針について有意義なディスカッションができますか。	7
② 経営トップのIR姿勢をあなたはどう評価しますか。	7
(2) IR部門の機能	
① IR部門に十分かつ正確な情報が集積されているか、あるいはIR部門以外へのインタビュー等は容易ですか。	5
② IR担当者等と有益なディスカッションができますか。	5
(3) IRの基本スタンス	
・ 経営分析を行ううえで必要かつ重要な情報の開示の継続性に配慮がなされていますか。	5
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (35点)
(1) 説明資料等における開示	
① 決算短信および添付資料(TDネット掲載ベース)	
・ 主要諸元の感応度、主要費用など関心度の高い数値が決算短信あるいは添付資料に適切に記載されていますか。	5
② 説明会資料の開示時期等	
A 決算発表と同日にホーム・ページに開示していますか。[同日に開示:2点、その他:0点]	2
B 同日ホーム・ページに開示された資料は決算の理解に有益ですか。	5
③ 説明会資料等における実績の開示	
A 収益および財務分析に必要な情報は十分に記載されていますか。	5
B 部門別あるいは主要子会社別等の実績データが投資家の関心に即して十分に記載されていますか。	3
④ 説明会資料等における見通しの開示	
A 見通しの分析に必要な情報(販売量、主要費用項目、設備計画等)が分かり易く、かつ十分に記載されていますか。	5
B 部門別あるいは主要子会社別等の収益見通し等、損益の分析に必要な情報は十分に記載されていますか。	3
(2) 説明会、インタビューにおける開示	
・ 短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。	7
3. フェアー・ディスクロージャー	配点 (18点)
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
① 情報開示に際し不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	4
② 投資家にとって重要と判断される事項(業績変動、合併・提携・事業買収、事故・災害、リスク情報等)の開示は迅速に行われていますか。	4
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
・ ホーム・ページで有用な情報提供を行っていますか。	5
(3) 英文による情報提供	
・ 英文による情報提供は充実していますか。	5
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (10点)
資本政策、株主還元策の開示	
・ 今後の資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	10
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (8点)
① 経営計画の説明は十分に行われていますか。	4
② ファクトブック、アニュアルレポート等の内容は充実していますか。	4

電力・ガス専門部会委員

部　会　長	阿部　聖史	大和証券ｴｽｴﾑﾋﾞｰｼｰ
部会長代理	酒井田　浩之	ｺﾞｰﾙﾄﾞﾏﾝ・ｻｯｸｽ証券
	伊藤　敏憲	UBS 証券会社
	角田　樹哉	みずほ証券
	又吉　由香	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ証券
	圓尾　雅則	ﾊﾞｰｸﾚｲｽﾞ・ｷｬﾋﾟﾀﾙ証券
	望陀　謙智	MDAM ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ

評価実施アナリスト（20 名〈氏名等の掲載の承諾を得られていない 1 名を含む〉）

阿部　聖史	大和証券ｴｽｴﾑﾋﾞｰｼｰ
伊藤　敏憲	UBS 証券会社
大谷　章夫	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ投信
荻野　零児	三菱 UFJ 証券
近藤　将人	中央三井ｱｾｯﾄ信託銀行
酒井田　浩之	ｺﾞｰﾙﾄﾞﾏﾝ・ｻｯｸｽ証券
佐野　圭介	朝日ﾗｲﾌｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
清水　さくら	UBS 証券会社
為我井　純一	住友信託銀行
角田　樹哉	みずほ証券
服部　哲也	大和証券投資信託委託
又吉　由香	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ証券
圓尾　雅則	ﾊﾞｰｸﾚｲｽﾞ・ｷｬﾋﾟﾀﾙ証券
三木　泰二	みずほ信託銀行
宮﨑　高志	日興ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
望陀　謙智	MDAM ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
矢野　裕久	三井住友ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
山崎　慎一	国際投信投資顧問
山本　恵嗣	JP ﾓﾙｶﾞﾝ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ

（注）　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

運　輸

東京急行電鉄、京王電鉄、東日本旅客鉄道、西日本旅客鉄道、東海旅客鉄道、日本通運、ヤマトホールディングス、福山通運、セイノーホールディングス、日立物流、日本郵船、商船三井、川崎汽船、全日本空輸、日本航空、三菱倉庫、三井倉庫、郵船航空サービス、近鉄エクスプレス　（計 19 社）

1．評価方法等

(1)　評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	5	28
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	6	33
③フェアー･ディスクロージャー	**フェアー･ディスクロージャー**	6	12
④コーポレート･ガバナンスに関連する情報の開示	**コーポレート･ガバナンス関連**	2	13
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	3	14
計		22	100

（注）具体的な評価項目および配点は 68 頁参照

(2)　評価実施（スコアシート記入）アナリストは 21 社の 23 名である。

2．評価結果

(1)　**総括**

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 67 頁参照）。

本年度の総合評価平均点は、個別評価企業 19 社のうち 16 社の総合評価点が昨年度を上回り、67.1 点（昨年度 65.5 点）となった。ただ、上位の 5 社は 80 点台の高得点の評価となった反面、下位の 5 社は 50 点台以下の評価にとどまっており、企業間格差は縮まっていない。ちなみに、総合評価点の標準偏差は 13.6 点と昨年度（13.7 点）とほぼ同水準であった。

評価項目の 5 分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 71%、**説明会等**が 70%、**フェアー･ディスクロージャー**および**コーポレート･ガバナンス関連**が 63%、**自主的情報開示**が 61%となり、**自主的情報開示**を除く 4 分野はまずまずの評価となった。

さらに、具体的評価項目について見ると、次の 2 項目については、いずれも、各社総じて高い得点率（評価点／配点〈以下省略〉）の評価を受けた。

① 業績動向にかかわらずIR姿勢は一貫しているか(平均得点率95%、[満点:8社、90%台:9社、80%台:2社])

② 経営陣およびIR部門が情報開示に際し不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っているか(同95%、[満点:12社、90%台:5社、80%台:2社])

一方、一部の企業を除き、今後、改善が望まれる点として、次の項目が挙げられる。

① ホーム・ページで決算説明会等での質疑応答の内容が分かるようになっているか(平均得点率26%)

② ホーム・ページで決算説明会等での会社の説明内容が分かるようになっているか(同32%)

③ 四半期ごとの説明会(電話会議を含む)を開催しているか(同37%)

また、業態別の総合評価平均点を比較して見ると、高得点順に、空運(2社)82.3点、海運(3社)80.1点、陸運(10社)63.0点、倉庫・運輸(4社)60.3点となっており、陸運および倉庫・運輸の下位評価企業の改善努力が期待される。

(2) 上位個別企業の評価概要

東日本旅客鉄道(ディスクロージャー優良企業〔4回連続〕、総合評価点:86.0点、第1位)

同社は、分野別では、**経営陣のIR姿勢等**(得点率〈以下省略〉89%)が第2位、**説明会等**(81%)が第3位、**フェアー・ディスクロージャー**(98%)が3社同得点第1位、**コーポレート・ガバナンス関連**(85%)および**自主的情報開示**(84%)が第1位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣のIR姿勢等**においては、IR部門に豊富な情報が集積されていることに加え、経営陣とのコミュニケーションも図れていることから、IR担当者と経営面での議論までできること等、同部門の機能が充実している点が極めて高く評価された。さらに、決算説明会に経営トップ等が自ら出席して経営方針等を十分に説明している点も高い評価を受けた。

説明会等においては、説明資料に、実績や見通しの分析に必要なデータを十分に記載していることや、決算短信および同時配布資料における開示が定性的かつ定量的に十分に行われている等、説明資料が充実している点が極めて高い評価を受けた。また、決算説明会における説明および質疑応答が満足できるものであることや、期中において連結ベースの有益な情報を開示している点についても高く評価された。

フェアー・ディスクロージャーにおいては、決算説明会の状況に関するホーム・ページでの公開が充実していること等、この分野全体について極めて高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、キャッシュの使途や株主還元の考え方についての説明が高く評価された。

自主的情報開示においては、日本語版のアニュアルレポート、ファクトシートおよび会社要覧の内容が充実している点や、有益な月次情報をタイムリーかつ継続的に開示していること等が高い評価を受けた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範

となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

全日本空輸（総合評価点：83.4 点、第 2 位←2 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（87%）が第 3 位、**説明会等**（83%）が 2 社同得点第 1 位、**フェアー・ディスクロージャー**（98%）が 3 社同得点第 1 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（68%）が第 8 位、**自主的情報開示**（79%）が第 4 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、IR 部門に十分かつ正確な情報が集積されており、IR 担当者が事業全般について十分把握し、説明も詳細、クリアである等、同部門の機能が充実している点が極めて高く評価された。また、業績動向にかかわらず IR 姿勢が一貫していることについても満点評価となった。

説明会等においては、四半期ごとの説明会を開催していることで満点評価となったほか、期中において各事業部門の有益な情報を十分に開示していること等、説明会、インタビューにおける開示が高く評価された。

フェアー・ディスクロージャーにおいては、決算説明会の状況に関するホーム・ページでの公開が充実していること等、この分野全体について極めて高い評価を受けた。

自主的情報開示においては、施設見学会・事業説明会等を積極的に実施していることが評価された。

西日本旅客鉄道（総合評価点：81.2 点、第 3 位←5 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（86%）が第 4 位、**説明会等**（78%）が第 8 位、**フェアー・ディスクロージャー**（76%）が第 6 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（85%）が第 2 位、**自主的情報開示**（81%）が第 3 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、決算説明会に経営トップ等が自ら出席して経営方針等を十分に説明していることが高く評価された。また、業績動向にかかわらず IR 姿勢が一貫している点についても満点評価となった。

コーポレート・ガバナンス関連においては、財務キャッシュフローの見通しや配当の考え方を明示していることについて高い評価を受けた。

自主的情報開示においては、有益な月次情報がタイムリーかつ積極的に開示されていることや、ファクト・シートの内容が充実している点が高く評価された。

以上のほか、決算短信および同時配布資料における開示が定性的かつ定量的に十分に行われていること等、説明資料等における開示、ならびに期中において連結ベースの有益な情報を開示している点についても高い評価を受けた。

日本航空（総合評価点：81.1 点、2 社同得点第 4 位←7 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（84%）が第 6 位、**説明会等**（79%）が第 5 位、**フェアー・ディスクロージャー**（98%）が 3 社同得点第 1 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（64%）が第 9 位、**自主的情報開示**（82%）が第 2 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**説明会等**においては、四半期ごとの説明会を開催していることが満点評価となった。

フェアー・ディスクロージャーにおいては、決算説明会の状況に関するホーム・ページでの公開が充実していること等、この分野全体について極めて高い評価を受けた。

自主的情報開示においては、施設見学会を積極的に実施していることが高い評価を受けた。

以上のほか、決算説明会に経営トップ等が自ら出席して経営方針等を十分に説明している点や、経営トップが決算説明会以外に有益なミーティングの場を設定していること等、経営陣のIR姿勢が高く評価された。

商船三井（総合評価点：81.1点、2社同得点第4位←4位）

同社は、分野別では、**経営陣のIR姿勢等**（91%）が第1位、**説明会等**（83%）が2社同得点第1位、**フェアー・ディスクロージャー**（65%）が第8位、**コーポレート・ガバナンス関連**（78%）が第5位、**自主的情報開示**（75%）が3**社同得点第6位**となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣のIR姿勢等**においては、決算説明会に経営トップ等が自ら出席して経営方針等を十分に説明しているほか、質疑応答の対応等が優れている点や、決算説明会以外においても、有益なミーティングの場を設定し、社長自らが積極的に説明していること等、経営陣のIR姿勢が極めて高く評価された。また、IR部門に十分かつ正確な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができること等、同部門の機能が充実している点も高い評価を受けた。

説明会等においては、四半期ごとの説明会を開催していることで満点評価となったほか、決算説明会における会社側の説明および質疑応答が高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、資本政策について十分に説明していることが高い評価を受けた。

以上のほか、日本語版のアニュアルレポート、インベスターガイドブックの内容が充実していることが極めて高く評価された。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

以上のほか、**東京急行電鉄**は、説明資料等に実績の分析に必要なデータを十分に記載していることで、**東海旅客鉄道**、**日本通運**、**ヤマトホールディングス**は、有益な月次情報がタイムリーかつ積極的に開示されていることで、**日本郵船**は、施設見学会・事業説明会等を積極的に実施していることで、**川崎汽船**は、決算説明会の状況に関するホーム・ページでの公開が充実していることで、それぞれトップの高い評価を受けた。

以　上

平成21年度　ディスクロージャー評価比較総括表（運輸）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1. 経営陣のIR姿勢、IRの基本スタンス 評価項目5（配点28点）		2 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目6（配点33点）		3. フェアー・ディスクロージャー 評価項目6（配点12点）		4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目2（配点13点）		5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目3（配点14点）		昨年度順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	東日本旅客鉄道	86.0	24.8	2	26.7	3	11.7	1	11.1	1	11.7	1	1
2	全日本空輸	83.4	24.4	3	27.3	1	11.7	1	8.9	8	11.1	4	2
3	西日本旅客鉄道	81.2	24.0	4	25.7	8	9.1	6	11.0	2	11.4	3	5
4	商船三井	81.1	25.4	1	27.3	1	7.8	8	10.1	5	10.5	6	4
4	日本航空	81.1	23.6	6	26.0	5	11.7	1	8.3	9	11.5	2	7
6	川崎汽船	80.3	22.8	7	25.8	6	11.5	4	9.6	7	10.6	5	6
7	日本郵船	78.8	23.9	5	24.8	10	9.7	5	9.9	6	10.5	6	3
8	ヤマトホールディングス	70.8	20.3	8	26.1	4	6.4	14	7.5	11	10.5	6	11
9	東京急行電鉄	70.7	19.8	10	25.8	6	6.8	9	10.5	4	7.8	12	8
10	三井倉庫	67.6	20.2	9	24.9	9	6.7	12	10.6	3	5.2	16	9
11	近鉄エクスプレス	62.1	19.3	11	20.4	14	6.8	9	8.0	10	7.6	13	12
12	京王電鉄	61.9	17.0	15	22.7	11	6.5	13	6.4	16	9.3	11	14
13	日本通運	61.8	17.7	13	21.6	13	6.2	15	6.9	15	9.4	10	10
14	郵船航空サービス	60.3	17.9	12	19.3	16	8.6	7	7.5	11	7.0	14	13
15	東海旅客鉄道	57.4	14.9	17	20.1	15	6.8	9	5.9	17	9.7	9	15
16	福山通運	51.6	17.3	14	22.0	12	2.4	19	5.1	18	4.8	18	17
17	三菱倉庫	51.0	16.5	16	18.9	17	3.5	18	7.0	13	5.1	17	16
18	日立物流	44.7	14.3	18	14.3	19	5.2	16	7.0	13	3.9	19	18
19	セイノーホールディングス	43.9	12.6	19	16.7	18	4.0	17	4.9	19	5.7	15	19
	評価対象企業評価平均点	67.1	19.8		23.0		7.5		8.2		8.6		

（注）評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は13.6点、昨年度は13.7点であった。

21年度評価項目および配点一覧（運輸）

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点（28点）
(1) 経営陣のIR姿勢	
① 決算説明会に経営トップ等が自ら出席して経営方針等を十分に説明していますか。	6
② 経営トップ等が決算説明会以外に有益なミーティングの場を設定していますか。	8
(2) IR部門の機能	
① IR部門に十分かつ正確な情報が集積されていますか。	6
② IR担当者と有益なディスカッションができますか。	6
(3) IRの基本スタンス	
・ 業績動向にかかわらずIR姿勢は一貫していますか。	2
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**配点（33点）**
(1) 説明会、インタビューにおける開示	
① 四半期ごとの説明会（電話会議を含む）を開催していますか。[開催あり:3点　開催なし:0点]	3
② 決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。	6
③ 期中において連結ベースの有益な情報が十分に開示されていますか。	4
(2) 説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
① 実績の分析に必要なデータ(バランスシートおよびキャッシュフローを含む)は十分に記載されていますか。	7
② 見通しの分析に必要なデータ(前提条件、バランスシートおよびキャッシュフローを含む)は十分に記載されていますか。	7
③ 決算短信および同時配布資料における開示が定性的かつ定量的に十分行われていますか。	6
3. フェアー・ディスクロージャー	**配点（12点）**
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
・ 経営陣およびIR部門が情報開示に際し不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	1
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
① ホーム・ページに過去の長期財務データ等、当該企業を分析するために必要な基本的情報が十分に掲載され、投資判断を行うライブラリーとしての機能を果たしていますか。	3
② 決算説明会の状況のホーム・ページでの公開について	
A 決算説明会等での会社側の説明内容がホーム・ページでも分かるようになっていますか。	2
B 決算説明会等で配布された資料はホーム・ページでも入手が可能ですか。	2
C 決算説明会等での質疑応答の内容がホーム・ページでも分かるようになっていますか。	2
(3) 英文による情報提供	
・ 外国人投資家にも配慮した情報提供に努めていますか。（ホーム・ページ、説明会資料、アニュアルレポート等）	2
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	**配点（13点）**
(1) 資本政策、株主還元策等の開示	
・ 資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達について十分に説明されていますか。	8
(2) 目標とする経営指標等	
・ 中・長期経営計画(目標とする経営指標等)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていますか。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	**配点（14点）**
① 有益な月次情報がタイムリーかつ積極的に開示されていますか。(E-mail、FAX、ホーム・ページ等で)	4
② 施設見学会・事業説明会・IR部門以外とのミーティング等を積極的に実施していますか。（前年7月から本年6月までの間）	5
③ 日本語版のアニュアルレポート、ファクトブックの内容は充実していますか。	5

運輸専門部会委員

部　会　長	手塚　裕一	住友信託銀行
部会長代理	板﨑　王亮	ｸﾚﾃﾞｨ･ｽｲｽ証券
	尾坂　拓也	ﾓﾙｶﾞﾝ･ｽﾀﾝﾚｰ証券
	國枝　　哲	みずほ証券
	原田　　潤	UBS 証券会社
	一柳　　創	大和証券ｴｽｴﾑﾋﾞｰｼｰ
	松本　直子	日興ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券

評価実施アナリスト（23 名）

安藤	誠悟	ﾄﾞｲﾂ証券	手塚	裕一	住友信託銀行
石飛	益徳	ｴｰｽ経済研究所	西山	雄二	ｸﾚﾃﾞｨ･ｽｲｽ証券
板﨑	王亮	ｸﾚﾃﾞｨ･ｽｲｽ証券	原田	潤	UBS 証券会社
尾坂	拓也	ﾓﾙｶﾞﾝ･ｽﾀﾝﾚｰ証券	一柳	創	大和証券ｴｽｴﾑﾋﾞｰｼｰ
岸	恭彦	みずほｲﾝﾍﾞｽﾀｰｽﾞ証券	姫野	良太	三菱 UFJ 証券
國枝	哲	みずほ証券	松本	直子	日興ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
坂井	早苗	三井住友ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	三木	泰二	みずほ信託銀行
重松	揮響	中央三井ｱｾｯﾄ信託銀行	村形	真樹子	損保ｼﾞｬﾊﾟﾝ･ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
下川	寿幸	立花証券	矢野	裕久	三井住友ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
杉村	康晴	ｺﾞｰﾙﾄﾞﾏﾝ･ｻｯｸｽ証券	山崎	慎一	国際投信投資顧問
高橋	輝晃	MU 投資顧問	山本	将	三菱 UFJ 信託銀行
土谷	康仁	ﾒﾘﾙﾘﾝﾁ日本証券			

(注)　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

通　信

インターネットイニシアティブ、スカパーJSAT ホールディングス、イー・アクセス、日本電信電話、KDDI、光通信、エヌ・ティ・ティ・ドコモ、ソフトバンク
（計 8 社）

1．評価方法等

本年度は、評価対象企業として新たに**インターネットイニシアティブ**、**光通信**を追加し、計 8 社のディスクロージャー状況を評価した。

(1)　評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	4	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	6	30
③フェアー・ディスクロージャー	**フェアー・ディスクロージャー**	5	12
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	**コーポレート・ガバナンス関連**	5	20
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	3	8
計		23	100

（注）具体的な評価項目および配点は 74 頁参照

(2)　評価実施（スコアシート記入）アナリストは 27 社の 29 名である。

2．評価結果

(1)　**総括**

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 73 頁参照）。

本年度の総合評価平均点は 66.1 点（昨年度 68.8 点）となった。各評価対象企業の総合評価点の標準偏差は、上位 3 社の評価点が平均 3. 3 点低下したこともあり、昨年度の 7.9 点から 5.7 点に縮小した。

評価項目の 5 分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 69%、**説明会等**が 68%、**フェアー・ディスクロージャー**が 72%、**コーポレート・ガバナンス関連**が 57%、**自主的情報開示**が 60%であった。

さらに、具体的評価項目について見ると、次の 2 項目については、8 社中それぞれ異なる 2 社を除き満点となった。

①　会社主催の説明会に社長が出席しているか〔4 回以上は満点〕（平均得点率 87%）

② 説明会のオンデマンド配信のリプレイは説明会終了後 24 時間以内に閲覧ができるか（同 75%）

そのほか、E-mail を利用した有用な情報提供についても、各社総じて高い得点率（評価点／配点〈以下省略〉）の評価となった（同 84%）。

一方、一部の企業を除き今後一層改善が望まれる点として、昨年度と同様に次の 2 項目が挙げられる。

① 会社の注目されるサービスないし施設を紹介する機会を設けており、それは有益であったか（同 45%、昨年度 50%）

② 資本政策の具体的な目標が明示され、かつその内容は十分であるか（同 53%、同 54%）。

(2) 上位個別企業の評価概要

エヌ・ティ・ティ・ドコモ

（ディスクロージャー優良企業〔2 回目〕、総合評価点：75.8 点、第 1 位←2 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（〈得点率〈以下省略〉79%）が第 1 位、**説明会等**（78%）が第 2 位、**フェアー・ディスクロージャー**（81%）および**コーポレート・ガバナンス関連**（66%）が第 1 位、**自主的情報開示**（76%）が第 3 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、全体として経営陣の IR への積極的な取組姿勢が評価されたほか、IR 部門に十分な情報が集積されており、担当者とのディスカッションが有益である点が評価された。また、会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点等の開示を行っていることも評価を受けた。

説明会等においては、決算説明会での会社側の説明および質疑応答が満足できる点が評価された。また、決算発表日（四半期を含む）に決算内容の理解に必要な補足情報が付属資料等で開示されていることなど、説明資料等における開示が充実している点が高い評価を受けた。

フェアー・ディスクロージャーにおいては、その取組姿勢等、この分野全体について総じて高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、配当政策や自社株買、自社株消却が客観的かつ合理的に説明されている点が評価されたほか、目標とする経営指標等を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策についての十分な説明など、資本政策、目標とする経営指標等の開示でトップの評価を受けた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

KDDI（総合評価点：73.1 点、第 2 位←1 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（74%）が第 2 位、**説明会等**（78%）が第 1 位、**フェアー・ディスクロージャー**（80%）が第 2 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（56%）が第 6 位、**自主的情報開示**（84%）が第 1 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、会社主催の経営幹部とのミーティングにおいて有益なディスカッションができることが評価された。加えて、IR 部門に十分な情報が集積されており、担当者と有益なディスカッションができる点が高い評価を受けた。

説明会等においては、決算説明会での会社側の説明および質疑応答が十分満足できる点が評価された。また、オペレーションデータの四半期ごとの実績および見通しを十分に開示していることなど、説明資料等における開示が充実している点が高い評価を受けた。

フェアー・ディスクロージャーにおいては、その取組姿勢等、この分野全体について総じて高い評価を受けた。

自主的情報開示においては、会社の注目されるサービスないし施設を紹介する機会を設け、それが有益であったかの項目について、平均得点率が 45%と最も低い中で、技術セミナー等の開催により他社と格差のある、トップの高い評価を受けた。このほか、社長の定例記者会見の内容が迅速かつ十分に開示されていることや、IR 関連のリリースの配信など E-mail を利用して有用な情報提供を行っている点も高く評価された。

日本電信電話（総合評価点：65.9 点、第 3 位←3 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（59%）が第 8 位、**説明会等**（68%）が第 4 位、**フェアー・ディスクロージャー**（79%）および**コーポレート・ガバナンス関連**（60%）が第 3 位、**自主的情報開示**（80%）が第 2 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**フェアー・ディスクロージャー**においては、その取組姿勢等、この分野全体について総じて高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、資本政策の具体的な目標が明示されていることなど、資本政策、目標とする経営指標等の開示や、経営機構、経営資源についての説明が評価された。

自主的情報開示においては、社長の定例記者会見の内容が迅速かつ十分に開示されていることや、E-mail を利用して有用な情報提供を行っている点が極めて高い評価を受けた。

このほか、決算発表日（四半期を含む）に決算内容の理解に必要な補足情報が付属資料等で開示されていることなど、説明資料等における開示が充実している点が評価された。

以　上

平成21年度　ディスクロージャー評価比較総括表（通信）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス 評価項目4（配点30点）		2 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目6（配点30点）		3. フェアー・ディスクロージャー 評価項目5（配点12点）		4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目5（配点20点）		5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目3（配点8点）		昨年度順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	エヌ・ティ・ティ・ドコモ	75.8	23.6	1	23.3	2	9.7	1	13.1	1	6.1	3	2
2	KDDI	73.1	22.3	2	23.4	1	9.6	2	11.1	6	6.7	1	1
3	日本電信電話	65.9	17.8	8	20.3	4	9.5	3	11.9	3	6.4	2	3
4	インターネットイニシアティブ	65.5	20.6	5	21.0	3	7.6	7	12.3	2	4.0	5	未実施
5	イー・アクセス	64.1	20.8	4	19.3	5	8.7	5	11.8	4	3.5	6	4
6	ソフトバンク	63.7	20.1	6	18.5	7	8.8	4	11.0	7	5.3	4	6
7	スカパーJSATホールディングス	60.5	19.0	7	18.9	6	8.2	6	11.3	5	3.1	8	5
8	光通信	59.6	21.1	3	18.5	7	7.3	8	9.4	8	3.3	7	未実施
	評価対象企業評価平均点	66.1	20.7		20.4		8.7		11.5		4.8		

（注）評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は5.7点、昨年度は7.9点であった。

21年度評価項目および配点一覧(通信)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点(30点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
① 会社主催のIR説明会に社長が出席していますか。[4回以上:5点　3回:3点　2回:2点　1回:1点　なし:0点]	5
② 会社主催の経営幹部とのミーティングにおいて、有益なディスカッションができますか。	10
(2) IR部門の機能	
・ IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。	10
(3) IRの基本スタンス	
・ 会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	5
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**配点(30点)**
(1) 説明会、インタビューにおける開示	
・ 決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。	15
(2) 説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示	
① 事業別もしくは会社別に原価・販売費および一般管理費(人件費、顧客獲得・維持費用、通信設備使用料、端末原価等)の実績および見通しは、十分に開示されていますか。	3
② 決算発表日(四半期を含む)に決算内容の理解に必要な補足情報(サービス別売上・加入者、主な関係会社の業績、設備投資・減価償却費、サービス別EBITDA、セグメント別営業損益等の実績および予測値等)が、付属資料等で開示されていますか。	3
③ オペレーションデータ(契約数、ARPU、トラフィック、解約率・買換率、端末販売・在庫台数等)の四半期ごとの実績および見通しは、開示されていますか。	3
④ キャッシュフロー計算書の実績および見通しは、分かりやすく説明されていますか。	3
⑤ 会計基準の変更・セグメント見直し等があった場合においても一貫性のある財務諸表比較ができるよう配慮されていますか。	3
3. フェアー・ディスクロージャー	**配点(12点)**
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
① 経営陣およびIR部門が情報開示に際し不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	4
② 投資家にとって重要と判断される事項(例えば業績修正発表、新サービス・新技術、設備投資計画の変更、料金改定、法改正の影響等)のディスクロージャーは、タイムリーかつ十分でしたか。	3
③ 国内外における合併・出資・提携・事業の統廃合等がP/LおよびBSに与える影響について迅速かつ十分に開示されていますか。	3
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
・ 説明会のオンデマンド配信のリプレイは説明会終了後24時間以内に閲覧ができますか。[できる:1点　できない:0点]	1
(3) 英語による情報提供の即時性	
・ 説明会資料、アニュアルレポート、ファクトブック等は英語で同時に作成され、また、説明会会場における和英同時通訳体制が完備されていますか。[十分である:1点　やや不十分:0.5点　その他:0点]	1
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	**配点(20点)**
(1) 株主還元策の開示	
① 配当政策が客観的かつ合理的に説明されていますか。	4
② 自社株買、自社株消却が客観的かつ合理的に説明されていますか。	4
(2) 資本政策、目標とする経営指標等の開示	
① 資本政策の具体的な目標が明示され、かつその内容は十分なものですか。	4
② 目標とする経営指標等を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていますか。	4
(3) 経営機構、経営資源について	
・ 経営機構、経営資源について十分な説明がなされていますか。	4
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	**配点(8点)**
① 会社の注目されるサービスないし施設を紹介する機会を設けており、それは有益でしたか。(前年7月から本年6月までの間)	3
② 社長の定例記者会見の内容は、迅速かつ十分な内容で開示されていますか。	3
③ E-mailを利用して有用な情報(記者発表資料等)提供を行っていますか。	2

通信専門部会委員

部　会　長	乾　牧夫	UBS 証券会社
部会長代理	忍足　大介	JP ﾓﾙｶﾞﾝ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	佐分　博信	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券
	高橋　篤朗	みずほ証券
	田中　宏典	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ証券
	増野　大作	野村證券

評価実施アナリスト（29 名〈氏名等の掲載の承諾を得られていない 1 名を含む〉）

伊藤　彰洋	三井住友ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
乾　牧夫	UBS 証券会社
大谷　章夫	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ投信
忍足　大介	JP ﾓﾙｶﾞﾝ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
梶本　浩平	UBS 証券会社
小菅　一郎	ｺﾞｰﾙﾄﾞﾏﾝ・ｻｯｸｽ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
小林　加世子	ｿｼｴﾃｼﾞｪﾈﾗﾙｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
小山　洋美	国際投信投資顧問
佐野　圭介	朝日ﾗｲﾌｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
佐分　博信	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券
島田　秀明	富国生命投資顧問
杉山　和宏	T&D ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
鈴木　達也	中央三井ｱｾｯﾄ信託銀行
高橋　篤朗	みずほ証券
高橋　圭	ﾒﾘﾙﾘﾝﾁ日本証券
田嶋　由利子	住友信託銀行
田中　宏典	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ証券
津坂　徹郎	ﾊﾞｰｸﾚｲｽﾞ・ｷｬﾋﾟﾀﾙ証券
寺島　正	大和証券投資信託委託
徳永　祐美	ﾆｯｾｲ ｱｾｯﾄ ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
中村　昭彦	農林中金全共連ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
滑川　晃	ｼｭﾛｰﾀﾞｰ証券投信投資顧問
納　博司	いちよし経済研究所
早川　仁	ｸﾚﾃﾞｨ・ｽｲｽ証券
増野　大作	野村證券
箕浦　信夫	第一生命保険
山科　拓	日興ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
米島　慶一	ﾊﾞｰｸﾚｲｽﾞ・ｷｬﾋﾟﾀﾙ証券

(注)　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

小売業

ローソン、J. フロント リテイリング、三越伊勢丹ホールディングス、セブン&アイ・ホールディングス、良品計画、オンワードホールディングス、ファミリーマート、しまむら、髙島屋、丸井グループ、イオン、ユニー、ヤマダ電機、ニトリ、ファーストリテイリング　（計 15 社）

1．評価方法等

(1)　評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	5	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	10	30
③フェアー・ディスクロージャー	**フェアー・ディスクロージャー**	4	11
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	**コーポレート・ガバナンス関連**	4	20
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	3	9
計		26	100

（注）具体的な評価項目および配点は 82 頁参照

(2)　評価実施（スコアシート記入）アナリストは 32 社の 37 名である。

2．評価結果

(1)　**総括**

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 81 頁参照）。

本年度は、26 の評価項目中 1 項目を除き、評価項目の具体的内容と配点は昨年度と同じで評価した。個別評価企業の総合評価点は、15 社中 11 社が昨年度を上回り、本年度の総合評価平均点は昨年度（69.3 点）を若干上回る 71.2 点となった。ちなみに、評価対象企業の総合評価点の標準偏差は、9.4 点で昨年度（9.1 点）とほぼ同水準であった。

評価項目の 5 分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 69%、**説明会等**が 79%、**フェアー・ディスクロージャー**が 81%、**コーポレート・ガバナンス関連**が 65%、**自主的情報開示**が 55%となり、**自主的情報開示**を除く他の 4 分野は比較的高い評価であった。

また、具体的評価項目について見ると、7 項目が平均得点率で 80%台となり、特に、次の説明資料の 4 項目およびホーム・ページにおける情報提供は、一部の企業を除き総じて高い

得点率（評価点／配点<以下省略>）の評価となった。

① 出退店についての実績および計画（売上高、設備投資額、売り場面積、総面積、開閉店時期等）は、十分に記載（コンビニエンスストアについては地域別およびタイプ別に）されているか（平均得点率88%、〔90%台：10社、80%台：3社〕）

② 主要セグメント別の売上高、営業利益、資産、設備投資額、減価償却費について、十分に記載されているか（同86%、〔90%台：8社、80%台：3社〕）

③ 次期の事業計画（営業利益、売上利益率、設備投資額、減価償却費等）は、十分に記載されているか（同85%、〔90%台：9社、80%台：2社〕）

④ 地域別、商品部門別、顧客別（外商等）売上高は、詳細に記載されているか（同85%、〔90%台：6社、80%台：5社〕）

⑤ 決算説明会資料や月次のデータがホーム・ページでも入手が可能か（同83%、〔90%台：8社、80%台：2社〕）

一方、一部の企業を除き今後一層の改善が望まれる点として、昨年度に引続き次の2項目が挙げられる。

① 店舗や商品展示見学会を積極的に実施しているか（平均得点率39%、昨年度43%）

② 中期計画（3年程度）の具体的な数値目標を定め、積極的に開示しているか（同57%、同49%）

さらに、業態別に総合評価平均点を比較して見ると、高得点順に、コンビニエンス・ストア（2社）：83.6点、百貨店（4社）：76.7点、スーパー（3社）：68.2点、専門店（6社）：64.7点となり、本年度も、コンビニエンス・ストア、百貨店の業態とスーパー、専門店の業態との間で評価結果に格差が見られ、やや拡大した。なお、スーパーと専門店の格差はやや縮小したが、スーパーについては、特に**経営陣のIR姿勢等**の改善が望まれる。また、専門店においては、多くの項目で評価が低水準にあり、今後、ディスクロージャー全体の底上げが強く望まれる。

(2) 上位個別企業の評価概要

ローソン（ディスクロージャー優良企業〔4回連続〕、総合評価点：84.6点、第1位）

同社は、分野別では、**経営陣のIR姿勢等**（得点率〔評価点／配点〕〈以下省略〉86%）が第1位、**説明会等**（88%）が2社同得点第3位、**フェアー・ディスクロージャー**（92%）および**コーポレート・ガバナンス関連**（83%）が第1位、**自主的情報開示**（66%）が2社同得点第5位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣のIR姿勢等**においては、経営トップが、決算説明会で経営方針について明確に説明している等、経営陣のIRへの前向きな取組姿勢が高い評価を受けた。また、四半期ごとの電話会議の開催等IR部門へのアクセスが容易で、かつ十分な情報が集積されており、担当者と有益なディスカッションが可能である等、同部門の機能が充実している点が極めて高く評価された。加えて、ディスクロージャー・IR全体を通じて企業理念・中長期ビジョンが明確に打出されている等、IRの基本スタンスについても評価された。

説明会等においては、決算説明会での説明および質疑応答が十分満足できることや、説明資料等における開示が充実している点が高い評価を受けた。

フェアー・ディスクロージャーにおいては、その取組姿勢等、この分野全体について極めて高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、資本政策や株主還元策について十分に説明しているほか、経営目標についての説明が高く評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

ファミリーマート（総合評価点：82.6 点、第 2 位←3 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（81%）が第 3 位、**説明会等**（87%）が 2 社同得点第 5 位、**フェアー・ディスクロージャー**（91%）が第 2 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（73%）が第 3 位、**自主的情報開示**（84%）が第 1 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営トップが、決算説明会で経営方針について明確に説明していることが高く評価された。また、IR 部門へのアクセスが容易で、かつ十分な情報が集積されており、担当者と有益なディスカッションが可能である等、同部門の機能が充実している点が極めて高い評価を受けた。さらに、ディスクロージャー・IR 全体を通じて企業理念・中長期ビジョンが明確に打出されている点も評価された。

説明会等においては、決算説明会での説明および質疑応答が十分満足できることや、説明資料等における開示が充実している点が高い評価を受けた。

フェアー・ディスクロージャーにおいては、その取組姿勢等、この分野全体について高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、資本政策や株主還元策についての説明ぶりが評価された。

自主的情報開示においては、テーマ別説明会を積極的に実施している点が高い評価を受けたほか、日本語のアニュアル・レポートや、ファクトブックの内容が充実していることが評価される等、当分野は各社と格差のある高い得点率となった。

J. フロント リテイリング（総合評価点：78.7 点、第 3 位←2 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（82%）が第 2 位、**説明会等**（90%）が第 1 位、**フェアー・ディスクロージャー**（87%）が 2 社同得点第 5 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（69%）が第 6 位、**自主的情報開示**（41%）が 2 社同得点第 11 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営トップが決算説明会で経営方針について分かりやすく、十分に説明していること等、経営陣の積極的な IR 姿勢が高い評価を受けた。また、IR 部門へのアクセスが容易で、かつ十分な情報が集積されており、担当者と有益なディスカッションが可能な点も高く評価された。このほか、ディスクロージャー・IR 全体を通じて企業理念・中長期ビジョンが明

確に打出されている等、IR の基本スタンスについても評価された。

説明会等においては、決算説明会での説明および質疑応答が十分満足できる点が極めて高い評価を受けた。加えて、説明資料等の開示で、七つの評価項目すべてが 90%台の極めて高い得点率となった。

フェアー・ディスクロージャーにおいては、その取組姿勢が高い評価を受けた。

以上のほか、現在採用している経営機構について十分な説明をしている点でトップの評価となった。

高島屋（総合評価点：77.9 点、第 4 位←4 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（78%）が第 4 位、**説明会等**（90%）が第 2 位、**フェアー・ディスクロージャー**（87%）が 2 社同得点第 5 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（66%）および**自主的情報開示**（53%）が第 7 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、IR 部門へのアクセスが容易で、かつ十分な情報が集積されており、担当者と有益なディスカッションが可能な点が高く評価された。また、全体的に評価が低かった、中期計画の具体的な数値目標を定め、積極的に開示しているかの項目について、トップの評価を受けた。

説明会等においては、説明資料等の開示で、七つの評価項目すべてが 90%台の極めて高い得点率となった。そのほか、四半期の動向を理解するために必要な基本的なセグメント情報の開示が高く評価された。

フェアー・ディスクロージャーにおいては、その取組姿勢が高い評価を受けた。

良品計画（総合評価点：76.5 点、第 5 位←5 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（71%）が 2 社同得点第 8 位、**説明会等**（88%）が 2 社同得点第 3 位、**フェアー・ディスクロージャー**（89%）が第 4 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（64%）が第 9 位、**自主的情報開示**（70%）が第 3 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**説明会等**においては、四半期の動向を理解するために必要な詳細なファクトブックを作成していること等、四半期情報開示が充実している点でトップの評価を受けた。また、説明資料等における開示が充実している点も高く評価された。

フェアー・ディスクロージャーにおいては、その取組姿勢が高い評価を受けた。

自主的情報開示においては、全体の平均得点率が 39%と最も低かった項目の、商品展示見学会の積極的な実施が評価された。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

三越伊勢丹ホールディングス

（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点：76.4 点【昨年度比＋8.3 点】、第 6 位←10 位、分野では、経営陣の IR 姿勢等（77%）第 5 位、説明会等（87%）2 社同得点

第5位）

同社は、26の評価項目のうち、内容の微修正があったものを除く25項目中18項目において昨年度の得点率を上回る評価を受けた。特に、合併後IRが積極化し、IR部門へのアクセスが容易で、かつ十分な情報が集積されており、担当者と有益なディスカッションが可能な点が高く評価された。また、全体的に評価が低かった、中期計画の具体的な数値目標を定め、積極的に開示しているかの項目について、昨年度の得点率（40%）を大幅に上回る得点率（68%）で第2位の評価を受けた。このほか、説明資料等の開示で、七つの評価項目すべてが90%台の極めて高い得点率となった。

同社は、以上のように多くの面でディスクロージャーの改善を図っており、同社のこのような努力は高く評価できるものと認められる。

以　上

平成21年度　ディスクロージャー評価比較総括表（小売業）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス 評価項目5（配点30点）		2 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目10（配点30点）		3. フェアー・ディスクロージャー 評価項目4（配点11点）		4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目4（配点20点）		5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目3（配点9点）		昨年度順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	ローソン	84.6	25.8	1	26.3	3	10.1	1	16.5	1	5.9	5	1
2	ファミリーマート	82.6	24.4	3	26.1	5	10.0	2	14.5	3	7.6	1	3
3	J. フロント リテイリング	78.7	24.7	2	27.0	1	9.6	5	13.7	6	3.7	11	2
4	高島屋	77.9	23.4	4	26.9	2	9.6	5	13.2	7	4.8	7	4
5	良品計画	76.5	21.4	8	26.3	3	9.8	4	12.7	9	6.3	3	5
6	三越伊勢丹ホールディングス	76.4	23.2	5	26.1	5	9.4	7	13.1	8	4.6	8	10
7	ファーストリテイリング	76.0	21.8	7	24.3	9	9.9	3	13.8	5	6.2	4	7
8	丸井グループ	73.9	21.9	6	24.7	7	9.2	8	14.4	4	3.7	11	8
9	セブン＆アイ・ホールディングス	73.2	21.4	8	21.8	11	8.4	10	14.7	2	6.9	2	6
10	ユニー	68.1	19.6	10	24.1	10	8.7	9	11.9	10	3.8	10	9
11	しまむら	65.6	18.2	11	24.5	8	8.2	12	11.1	13	3.6	13	11
12	イオン	63.2	17.6	12	19.8	14	8.4	10	11.5	12	5.9	5	12
13	ヤマダ電機	59.8	17.4	13	20.6	12	7.4	14	11.0	14	3.4	14	13
14	ニトリ	55.9	13.5	15	19.9	13	7.7	13	11.8	11	3.0	15	15
15	オンワードホールディングス	54.5	15.5	14	18.0	15	6.8	15	9.6	15	4.6	8	14
	評価対象企業評価平均点	71.2	20.7		23.8		8.9		12.9		4.9		

（注）評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は9.4点、昨年度は9.1点であった。

21年度評価項目および配点一覧(小売業)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点(30点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
・ 経営トップが決算説明会等において経営方針等を十分に説明していますか。	10
(2) IR部門の機能	
① IR部門に十分な情報がタイムリーに集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。	5
② IR部門へのアクセスの容易性はどうですか。	5
(3) IRの基本スタンス	
① 中期計画(3年程度)の具体的な数値目標を定め、積極的に開示していますか。	5
② 当該企業のディスクロージャー・IR全体を通じて、企業理念・中長期ビジョンが明確に打ち出されていますか。	5
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点(30点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示	
・ 決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。	3
(2) 説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示　〔以下①－⑦については、持株会社の場合、主要事業会社についての記載を評価する〕	
① 主要セグメント別の売上高、営業利益、資産、設備投資額、減価償却費について、十分に記載されていますか。	3
② 次期の事業計画(**営業利益、売上利益率、設備投資額、減価償却費等**)は、十分に記載されていますか。	3
③ 出退店についての実績および計画(**売上高、設備投資額、売り場面積、総面積、開閉店時期等**)は、十分に記載されていますか。(**コンビニエンスストアについては地域別およびタイプ別に記載されているか**)	3
④ 販売費および一般管理費の主要項目(**人件費、地代家賃、広告宣伝費等**)の実績と見通しは、十分に記載されていますか。	3
⑤ 地域別、商品部門別、顧客別(外商等)売上高は、詳細に記載されていますか。	3
⑥ 月次の売上状況(**既存店・全店増収率、部門別増収率、客数、客単価等**)および次期見通しは、十分に記載されていますか。	3
⑦ 部門別または何らかの区分で粗利益率が十分に記載されていますか。	3
(3) 四半期情報開示	
① 四半期の数値を理解するために必要な事業に係る季節変動等の説明が十分にされていますか。	3
② 四半期の動向を理解するために必要な基本的なセグメント情報が開示されていますか。	3
3. フェアー・ディスクロージャー	配点(11点)
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
① 経営陣が公平な情報開示につき十分な注意を払い、重要な事項が発生した場合迅速に開示していますか。	3
② 投資家にとって重要と判断される事項(例えば、業績変動、合併・提携等)が発生した場合、収益への影響について十分に説明されていますか。	3
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
・ 決算説明会資料や月次のデータがホーム・ページでも入手が可能ですか。	3
(3) 英文による情報提供	
・ 英文による情報提供は充実していますか。	2
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点(20点)
(1) 資本政策、株主還元策の開示	
① 資本政策(資金調達、グループ持合政策、優先株、金庫株)について十分な説明がされていますか。	5
② 配当政策・自社株買い等株主還元策について積極的に、十分に説明していますか。	5
(2) 目標とする経営指標等	
・ 目標とする経営指標、それを採用する理由、目標達成のための取り組み等について十分説明されていますか。	5
(3) 経営機構について	
・ 現在採用している経営機構について十分な説明がされていますか。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点(9点)
① 店舗や商品展示の見学会を積極的に実施していますか。(前年7月から本年6月までの間)	3
② ファクトブックは作成され、内容が充実していますか。	3
③ 日本語のアニュアル・レポートは作成され、内容が充実していますか。	3

小売業専門部会委員

部　会　長	正田　雅史	野村證券
部会長代理	小場　啓司	三菱 UFJ 証券
	高橋　俊雄	みずほ証券
	朝永　久見雄	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券
	宮田　仁光	中央三井ｱｾｯﾄ信託銀行
	村田　大郎	ｸﾚﾃﾞｨ･ｽｲｽ証券
	山手　剛人	UBS 証券会社

評価実施アナリスト（37 名〈氏名等の掲載の承諾を得られていない 2 名を含む〉）

青木　英彦	ﾒﾘﾙﾘﾝﾁ日本証券	田中　　俊	SMBC ﾌﾚﾝﾄﾞ調査ｾﾝﾀｰ
石飛　益徳	ｴｰｽ経済研究所	津田　和徳	大和証券ｴｽｴﾑﾋﾞｰｼｰ
上野　賢司	損保ｼﾞｬﾊﾟﾝ･ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	勅使河原　充	朝日ﾗｲﾌｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
小田　幸美	ﾓﾙｶﾞﾝ･ｽﾀﾝﾚｰ証券	手塚　裕一	住友信託銀行
小畑　　博	MU 投資顧問	朝永　久見雄	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券
金森　淳一	三菱 UFJ 証券	鳥濱　伸八	岡三証券
倉内　清和	安田投信投資顧問	長﨑　真介	みずほ投信投資顧問
栗島　理恵	水戸証券	仲西　恭子	DIAM ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
栗山　乾一	住友信託銀行	畠山　ゆかり	日興ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
小場　啓司	三菱 UFJ 証券	福島　礼子	ｽﾊﾟｰｸｽ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
斉藤　　太	ｿｼｴﾃｼﾞｪﾈﾗﾙｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	松岡　珠美	新光投信
櫻井　　亮	三菱 UFJ 証券	宮田　仁光	中央三井ｱｾｯﾄ信託銀行
正田　雅史	野村證券	村田　大郎	ｸﾚﾃﾞｨ･ｽｲｽ証券
髙木　美香	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ投信	森岡　秀樹	三井住友ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
高田　訓弘	三菱 UFJ 投信	森　　清	岡三証券
高橋　俊雄	みずほ証券	山手　剛人	UBS 証券会社
竹林　正喜	大和証券投資信託委託	和久井　一隆	T&D ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
武久　緩美	JP ﾓﾙｶﾞﾝ･ｱｾｯﾄ･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ		

(注)　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

銀　行

新生銀行、あおぞら銀行、三菱UFJフィナンシャル･グループ、りそなホールディングス、中央三井トラスト･ホールディングス、三井住友フィナンシャルグループ、千葉銀行、横浜銀行、常陽銀行、ふくおかフィナンシャルグループ、静岡銀行、京都銀行、ほくほくフィナンシャルグループ、住友信託銀行、みずほフィナンシャルグループ

（計15社）

1．評価方法等

本年度は、評価対象企業として新たに**京都銀行、ほくほくフィナンシャルグループ**を追加し、計15社のディスクロージャー状況を評価した。

(1)　評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	**経営陣のIR姿勢等**	3	23
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	6	39
③フェアー･ディスクロージャー	**フェアー･ディスクロージャー**	4	14
④コーポレート･ガバナンスに関連する情報の開示	**コーポレート･ガバナンス関連**	2	16
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	2	8
計		17	100

（注）具体的な評価項目および配点は90頁参照

(2)　評価実施（スコアシート記入）アナリストは28社の31名である。

2．評価結果

(1)　総括

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は89頁参照）。

本年度の総合評価平均点は71.7点（昨年度70.9点）となり、新規対象企業を除く大半の企業の評価点が昨年度を上回った。評価項目の5分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が70%、**説明会等**が72%、**フェアー･ディスクロージャー**が84%、**コーポレート･ガバナンス関連**が67%、**自主的情報開示**が61%となり、**自主的情報開示**を除いた他の4分野はまずまずの評価となった。

当業界の特徴は総じて総合評価点格差が小さいということであるが、本年度は下位3社の昨年度比総合評価点がその他の企業に比べて大幅に改善したことから、全体として格差の縮

小が見られ、評価対象企業の総合評価点の標準偏差は 4.5 点となり昨年度（5.8 点）を下回った。評価実施アナリストの意見を見ると、総じて IR 部門の機能が充実し、あるいは改善している点を評価する声が多かった。

なお、主要銀行（8 社）と地方銀行（7 社）の総合評価平均点は、それぞれ 70.9 点（昨年度 69.8 点）と 72.5 点（同 72.9 点）となり、昨年度と同じく地方銀行が主要銀行を上回っているが、格差はやや縮小した。

具体的評価項目について見ると、6 項目が平均得点率で 80%以上となり、特に、次の 3 項目は全社的に極めて高い得点率（評価点／配点〈以下省略〉）の評価となった。

① 経営陣および IR 部門が公平な情報開示につき十分な注意を払っているか（平均得点率 93%、〔全社 90%台〕）

② ホーム・ページを利用して有用な情報提供（過去の長期財務データ、決算説明会の資料、質疑応答の状況）を行っているか（同 87%、〔90%台：5 社、80%台：9 社〕）

③ アニュアルレポート、ディスクロージャー誌、ファクトブックの内容は充実しているか（同 81%、〔80%台：13 社〕）

一方、今後総じて一層の改善の努力が望まれる点として、昨年度に引き続き、事業説明会、施設見学会等 IR 部門以外とのミーティングの積極的な実施（平均得点率 50%、昨年度 57%）が挙げられる。またこのほか、中・長期経営計画（目標とする経営指標等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策の十分な説明（同 63%）についても、一部の企業を除き改善が望まれる。

(2) 上位個別企業の評価概要

りそなホールディングス

（ディスクロージャー優良企業〔新規〕、総合評価点：77.6 点、第 1 位←2 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率〈以下省略〉80%）が第 1 位、**説明会等**（73%）が第 7 位、**フェアー・ディスクロージャー**（89%）が第 1 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（78%）が 2 社同得点第 1 位、**自主的情報開示**（74%）が第 1 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営トップが決算説明会等において、経営課題等の説明や質疑応答を「自分の言葉」で明確に理解しやすく行っていることでトップの評価を受ける等、経営陣の IR への積極的な取組姿勢が高い評価を受けた。加えて、IR 部門がアナリスト・投資家へ積極的に情報開示している姿勢も評価された。

フェアー・ディスクロージャーにおいては、投資家にとって重要と判断される事項の開示を遅滞なく十分に行っていること等、その取組姿勢が高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、資本政策を十分に説明している点が高い評価を受けたほか、中期経営計画を公表し、その後の進捗状況についての説明ぶりも評価された。

自主的情報開示においては、IR 部門以外とのミーティングの積極的な実施の項目につ

いて、店舗の見学、傘下銀行の取材等の実施によりトップの評価となった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

住友信託銀行（総合評価点：77.1 点、第 2 位←1 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（77%）が第 3 位、**説明会等**（76%）および**フェアー・ディスクロージャー**（88%）が 2 社同得点第 2 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（78%）が 2 社同得点第 1 位、**自主的情報開示**（64%）が第 6 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、IR 部門に十分な情報が集積され開示姿勢も積極的であり、担当者と有益なディスカッションができること等、同部門の機能が充実している点でトップの高い評価を受けた。また、会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点についても積極的に開示する姿勢が見られることも評価された。

説明会等においては、部門別に損益の分析に必要なデータを一貫して十分に開示・説明している点や、主な連結子会社・関連会社の財務状況を十分に説明していることが評価を受けた。加えて、四半期の開示資料の内容が十分である点も評価された。

フェアー・ディスクロージャーにおいては、投資家にとって重要と判断される事項の開示を遅滞なく十分に行っていること等、その取組姿勢が高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、連結ベースでの配当性向を公約している点が高い評価を受けたほか、中期経営計画（目標とする経営指標等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策についての説明ぶりも評価された。

千葉銀行（総合評価点：76.2 点、第 3 位←4 位、地方銀行第 1 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（79%）が第 2 位、**説明会等**（77%）が第 1 位、**フェアー・ディスクロージャー**（84%）が 4 社同得点第 9 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（71%）が第 6 位、**自主的情報開示**（65%）が第 5 位となった。

なお、同社は総合評価点で全体の第 3 位であるが、地方銀行（7 社）の中にあっては 2 年連続トップの評価を受けた。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営トップが、決算説明会等において経営方針等を十分に説明していることが高く評価された。また、IR 部門に十分な情報が集積され、担当者の説明が明確で分かりやすいこと等、同部門の機能が充実している点が高い評価を受け、加えて、会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点についても積極的に開示する姿勢が見られることも評価された。

説明会等においては、セグメント別に損益の分析に必要なデータを一貫して十分に開示・説明していることのほか、財務上のリスク情報を十分に開示している点でいずれもトップの高い評価となった。

以上のほか、**コーポレート・ガバナンス関連**においては、中期経営計画（目標とする経

営指標等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策についての説明ぶりが評価された。

静岡銀行（総合評価点：75.7 点、第 4 位←7 位、地方銀行第 2 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（77%）が第 5 位、**説明会等**（75%）が第 4 位、**フェアー・ディスクロージャー**（84%）が 4 社同得点第 9 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（71%）が第 5 位、**自主的情報開示**（71%）が第 2 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営トップが、決算説明会等で経営方針等を「自らの言葉」で十分に説明しているほか、質疑に対してもその意図を汲んで的確に応答している等、IR への積極的な取組姿勢が高い評価を受けた。

説明会等においては、財務上のリスク情報を十分に開示している点のほか、主な連結子会社・関連会社の状況を説明していること等が評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、中期経営計画（目標とする経営指標等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策についての説明ぶりが評価された。

自主的情報開示においては、IR 部門以外とのミーティングや施設見学会等の積極的な実施により第 2 位の評価を受けた。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

三井住友フィナンシャルグループ

（総合評価点：75.1 点、第 5 位←3 位、分野では、経営陣の IR 姿勢等（77%）第 4 位、説明会等（74%）第 5 位、フェアー・ディスクロージャー（88%）2 社同得点第 2 位）

同社は、**経営陣の IR 姿勢等**において、経営トップが決算説明会等で経営方針等を十分に説明していることや、IR 部門に十分な情報が集積され、担当者と有益なディスカッションができる点が高い評価を受けた。

このほか、**説明会等**において、部門別に損益の分析に必要なデータを一貫して十分に開示・説明していることや、主な連結子会社・関連会社の損益、財務および資本関係等の状況を十分に説明している点が評価された。また、**フェアー・ディスクロージャー**において、投資家にとって重要と判断される事項の開示を遅滞なく十分に行っていること等、その取組姿勢が高い評価を受けた。

横浜銀行

（総合評価点：74.5 点、第 6 位←5 位、地方銀行第 3 位、分野では、説明会等（76%）2 社同得点第 2 位、コーポレート・ガバナンス関連（76%）第 3 位）

同社は、**説明会等**において、財務上のリスク情報を十分に開示していることが評価された。また、**コーポレート・ガバナンス関連**において、株主還元策についての説明ぶりが高い評価を受けた。

以上のほか、**常陽銀行**は、財務上のリスク情報を十分に開示していることや、株主還元策についての説明ぶりが評価された。

また、**新生銀行**は、決算発表および説明会を迅速に行っていること、ならびに英文による情報提供が迅速でかつ充実している点が、特に高く評価された。加えて、四半期の開示資料の内容が十分であることでトップの評価を受けた。**あおぞら銀行**は、英文による情報提供が迅速でかつ充実していることが、2社同得点で特に高く評価された。

以　上

平成21年度　ディスクロージャー評価比較総括表（銀行）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価(100点)	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス 評価項目3 (配点23点)		2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目6 (配点39点)		3. フェアー・ディスクロージャー 評価項目4 (配点14点)		4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目2 (配点16点)		5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目2 (配点8点)		昨年度順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	りそなホールディングス	77.6	18.4	1	28.5	7	12.4	1	12.4	1	5.9	1	2
2	住友信託銀行	77.1	17.8	3	29.5	2	12.3	2	12.4	1	5.1	6	1
3	千葉銀行	76.2	18.1	2	29.9	1	11.7	9	11.3	6	5.2	5	4
4	静岡銀行	75.7	17.6	5	29.3	4	11.7	9	11.4	5	5.7	2	7
5	三井住友フィナンシャルグループ	75.1	17.7	4	28.9	5	12.3	2	11.2	7	5.0	7	3
6	横浜銀行	74.5	16.6	8	29.5	2	11.9	6	12.1	3	4.4	12	5
7	常陽銀行	73.5	17.1	7	27.7	9	11.7	9	11.6	4	5.4	3	9
8	中央三井トラスト・ホールディングス	73.0	17.5	6	27.9	8	11.9	6	10.7	9	5.0	7	5
9	ふくおかフィナンシャルグループ	70.6	15.1	11	28.8	6	11.5	13	11.0	8	4.2	14	10
10	京都銀行	69.1	15.7	9	27.3	11	11.1	15	10.6	10	4.4	12	未実施
11	みずほフィナンシャルグループ	68.0	14.5	12	26.9	13	11.9	6	9.8	13	4.9	9	8
11	ほくほくフィナンシャルグループ	68.0	15.4	10	27.5	10	11.2	14	10.0	12	3.9	15	未実施
13	三菱UFJフィナンシャル・グループ	67.7	14.2	13	25.9	15	12.0	4	10.3	11	5.3	4	11
14	新生銀行	65.1	13.0	15	27.1	12	12.0	4	8.3	14	4.7	10	13
15	あおぞら銀行	63.6	13.7	14	26.1	14	11.7	9	7.5	15	4.6	11	12
	評価対象企業評価平均点	71.7	16.2		28.1		11.8		10.7		4.9		

（注）評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は4.5点、昨年度は5.8点であった。

21年度評価項目および配点一覧（銀行）

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点（23点）
(1) 経営陣のIR姿勢	
・ 経営トップが決算説明会等において経営方針等を十分に説明していますか。	10
(2) IR部門の機能	
・ IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。	6
(3) IRの基本スタンス	
・ 会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点についても積極的に開示する姿勢が見られますか。	7
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**配点（39点）**
(1) 説明会、インタビューにおける開示（連・単の両決算）	
① 部門別・項目別等、損益の分析に必要なデータは一貫して十分に開示・説明されていますか。	10
② 事業または財務上のリスク情報の開示が十分になされていますか。	10
③ 主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況は十分に説明されていますか。	7
(2) 説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
① 決算短信の同時配布資料の内容は十分ですか。	4
② 四半期の開示資料の内容は十分ですか。	5
(3) 決算発表	
・ 決算発表および説明会は迅速に行われていますか。	3
3. フェアー・ディスクロージャー	**配点（14点）**
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
① 経営陣およびIR部門が公平な情報開示につき十分な注意を払っていますか。	3
② 投資家にとって重要と判断される事項の開示は、遅滞なく、十分に行われていますか。	5
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
・ ホーム・ページを利用して有用な情報提供（過去の長期財務データ、決算説明会の資料、質疑応答の状況）を行っていますか。	3
(3) 英文による情報提供	
・ 英文による情報提供は迅速かつ充実していますか。	3
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	**配点（16点）**
(1) 資本政策、株主還元策の開示	
・ 資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	8
(2) 目標とする経営指標等	
・ 中・長期経営計画（目標とする経営指標等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていますか。	8
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	**配点（8点）**
① 事業説明会、施設見学会等IR部門以外とのミーティングを積極的に実施していますか。（前年7月から本年6月までの間）	5
② アニュアルレポート、ディスクロージャー誌、ファクトブックの内容は充実していますか。	3

銀行専門部会委員

部　会　長	高井　　晃	大和証券ｴｽｴﾑﾋﾞｰｼｰ
部会長代理	笹島　勝人	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券
	鮫島　豊喜	ｺﾞｰﾙﾄﾞﾏﾝ・ｻｯｸｽ証券
	田村　晋一	ﾄﾞｲﾂ証券
	西村　英一郎	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	野﨑　浩成	日興ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
	守山　啓輔	野村證券

評価実施アナリスト（31 名〈氏名等の掲載の承諾を得られていない 3 名を含む〉）

荒木　健次	中央三井ｱｾｯﾄ信託銀行	高井　　晃	大和証券ｴｽｴﾑﾋﾞｰｼｰ
幾代　孝四郎	AIG ｲﾝﾍﾞｽﾄﾒﾝﾂ	高宮　　健	みずほ証券
石橋　　剛	三井住友ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	田村　晋一	ﾄﾞｲﾂ証券
伊勢　和正	みずほ信託銀行	永本　成克	MU 投資顧問
伊奈　伸一	ｸﾚﾃﾞｨ・ｽｲｽ証券	西村　英一郎	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
大槻　奈那	UBS 証券会社	野﨑　浩成	日興ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
岡崎　淳一	大和証券投資信託委託	花岡　宏行	JP ﾓﾙｶﾞﾝ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
笠谷　　亘	MDAM ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	藤原　悟史	野村證券
久保　達哉	ﾒﾘﾙﾘﾝﾁ日本証券	古舘　克明	朝日ﾗｲﾌｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
河野　晃人	ＪＰﾓﾙｶﾞﾝ証券	前田　善三	ｺﾞｰﾙﾄﾞﾏﾝ・ｻｯｸｽ証券
小林　　研	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ投信	宮本　太郎	みずほ投信投資顧問
笹島　勝人	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券	守山　啓輔	野村證券
鮫島　豊喜	ｺﾞｰﾙﾄﾞﾏﾝ・ｻｯｸｽ証券	籔谷　和子	ｼｭﾛｰﾀﾞｰ証券投信投資顧問
相馬　正欣	住友信託銀行	和久井　一隆	T&D ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ

（注）　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

コンピューターソフト

（NECフィールディング、新日鉄ソリューションズ、ITホールディングス、
野村総合研究所、オービック、トレンドマイクロ、日本オラクル、
オービックビジネスコンサルタント、伊藤忠テクノソリューションズ、大塚商会、
ネットワンシステムズ、日本ユニシス、エヌ・ティ・ティ・データ、
日立ソフトウェアエンジニアリング、住商情報システム、日立情報システムズ、
富士ソフト　（計17社））

1．評価方法等

(1)　評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	**経営陣のIR姿勢等**	7	32
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	9	34
③フェアー・ディスクロージャー	**フェアー・ディスクロージャー**	4	16
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	**コーポレート・ガバナンス関連**	2	10
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	2	8
計		24	100

（注）具体的な評価項目および配点は97頁参照

(2)　評価実施（スコアシート記入）アナリストは26社の28名である。

2．評価結果

(1)　**総括**

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は96頁参照）。

本年度の総合評価平均点は昨年度（61.9点）とほぼ同水準の61.3点となった。総合平均点が上位の企業では大半が昨年度を上回った反面、下位の企業では大半が昨年度を下回り、評価対象企業の総合評価点の標準偏差は7.9点と昨年度（6.0点）より拡大した。

評価項目の5分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が60%、**説明会等**が64%、**フェアー・ディスクロージャー**が69%、**コーポレート・ガバナンス関連**が53%、**自主的情報開示**が51%となり、**説明会等**および**フェアー・ディスクロージャー**の2分野は昨年度を上回ったものの、その他の3分野は昨年度を

下回った。

具体的評価項目について見ると、次の2項目は一部の企業を除き総じて高い得点率（評価点／配点〈以下省略〉）の評価となった。

① ホーム・ページに過去の長期財務データ等、当該企業を分析するために必要な基本的情報が十分に掲載され、投資判断を行うライブラリーとしての機能を果たしているか（平均得点率81%、〔90%台：7社、80%台：6社〕）

② 説明会資料等の付属資料が短信と同日に閲覧できるか（同76%、〔満点：13社〕）

一方、一部の企業を除き、今後総じて改善が強く望まれる点として、次の項目が挙げられる。

① E-mailを使って有用な情報の提供を行っているか（同39%、〔得点率50%未満：12社〕）

② IR部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応しているか（同49%、〔同：14社〕）

③ 目標とする経営指標等、それを採用する理由、目標達成のための取り組み等について十分説明しているか（同49%、〔同：9社〕）

④ 説明資料等に費用の主要項目（労務費、外注費、機器販売原価等）の実績および計画を十分に記載しているか（同50%、〔同：10社〕）

(2) 上位個別企業の評価概要

野村総合研究所

（ディスクロージャー優良企業［6回目］、総合評価点：74.4点、第1位←4位）

同社は、分野別では、**経営陣のIR姿勢等**（得点率〈以下省略〉73%）が第1位、**説明会等**（77%）が第2位、**フェアー・ディスクロージャー**（88%）が第1位、**コーポレート・ガバナンス関連**（60%）が2社同得点第1位、**自主的情報開示**（60%）が2社同得点第2位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣のIR姿勢等**においては、決算説明会に経営トップが自ら出席して、自身の実感を踏まえて自分の言葉で経営戦略等を十分に説明している点が高い評価を受けた。また、経営幹部とのミーティングで非常に率直なディスカッションをしていること等、総じて経営陣のIR姿勢が積極的である点も評価された。

説明会等においては、説明資料に、受注・売上げの分析に必要なデータが十分に記載されていること等、説明資料における開示が充実している点が高く評価された。

フェアー・ディスクロージャーにおいては、ホーム・ページにおける情報提供が充実している点や、ホーム・ページ、説明会資料、アニュアルレポート、海外IR等で外国人投資家にも配慮した情報提供に努めていることが極めて高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、資本政策、株主還元策についての説明が評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

日立情報システムズ（総合評価点：73.5 点、第 2 位←2 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（71%）が第 2 位、**説明会等**（80%）が第 1 位、**フェアー・ディスクロージャー**（83%）が第 4 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（56%）が 2 社同得点第 6 位、**自主的情報開示**（60%）が 2 社同得点第 2 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、主要事業および主要取引先に関し、その収益性や将来性について積極的に開示する姿勢のほか、低収益事業についても積極的に開示する姿勢が見られる等、IR の基本スタンスについて評価された。また、IR 部門が同部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応している点も評価された。

説明会等においては、説明資料に、設備投資、減価償却費、研究開発費の計画や、受注・売上げ・キャッシュフローの分析に必要なデータを十分に記載する等、説明資料における開示が充実している点が高く評価された。さらに、説明会、インタビューで、事業および財務上のリスク情報を十分に開示していることも評価された。

フェアー・ディスクロージャーにおいては、ホーム・ページにおける情報提供が充実している点が評価されたほか、経営陣および IR 部門のフェアー・ディスクロージャーへの取組姿勢についても評価された。

自主的情報開示においては、受注や売上等の期中データの開示および状況説明が評価された。

住商情報システム（総合評価点：69.1 点、第 3 位←1 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（70%）、**説明会等**（69%）および**フェアー・ディスクロージャー**（83%）が第 3 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（52%）が 4 社同得点第 9 位、**自主的情報開示**（56%）が 2 社同得点第 4 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、IR 担当役員と取材で議論できることのほか、IR 部門の人員配置や情報集積が十分であり、IR 担当者と有益なディスカッションができる点が評価された。また、業績動向にかかわらず IR 姿勢が一貫していることも高い評価を受けた。

説明会等においては、利益増減要因を明確かつ十分に説明していることや、事業および財務上のリスク情報を十分に開示していること等、説明会、インタビューにおける開示が十分である点が評価された。

フェアー・ディスクロージャーにおいては、ホーム・ページにおける情報提供が充実している点が評価されたほか、経営陣および IR 部門のフェアー・ディスクロージャーへの取組姿勢についても評価された。

自主的情報開示においては、受注や売上等の期中の状況説明が評価された。

(3)　**上記以外の企業についての特記事項**

日本ユニシス

（総合評価点：67.2 点、第 4 位←6 位、分野では、経営陣の IR 姿勢等（69%）第 4 位、フェアー･ディスクロージャー（85%）第 2 位）

同社は、決算説明会に経営トップが自ら出席して経営戦略等を十分に説明している点や、経営幹部とのミーティングにおいて有益なディスカッションができること等、経営陣の IR への取組姿勢が評価を受けた。また、IR 部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応している点も評価された。このほか、ホーム・ページ、説明会資料、アニュアルレポート等で外国人投資家にも配慮した情報提供に努めていることも極めて高い評価を受けた。

IT ホールディングス

（総合評価点：66.8 点、第 5 位←7 位、分野では、経営陣の IR 姿勢等（66%）第 5 位、説明会等（69%）第 4 位、コーポレート･ガバナンス関連（58%）2 社同得点第 3 位）

同社は、主要事業および主要取引先に関し、その収益性や将来性について積極的に開示する姿勢が見られることが評価された。また、説明資料に、設備投資、減価償却費、研究開発費、従業員数等の計画を十分に記載していることが高い評価を受けた。さらに、説明会および説明資料において、主要な連結会社あるいは関連会社の業績の実績と計画を十分に説明している点が高く評価された。このほか、目標とする経営指標等、それを採用する理由、目標達成のための取組み等についての説明も評価された。

ネットワンシステムズ（総合評価点：58.6 点【昨年度比＋7.0 点】、第 11 位←18 位）は、特に、**経営陣の IR 姿勢等**などの改善が見られた。

以　上

平成21年度　ディスクロージャー評価比較総括表（コンピューターソフト）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス 評価項目7（配点32点）		2 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目9（配点34点）		3. フェアー・ディスクロージャー 評価項目4（配点16点）		4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目2（配点10点）		5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目2（配点8点）		昨年度順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	野村総合研究所	74.4	23.5	1	26.1	2	14.0	1	6.0	1	4.8	2	4
2	日立情報システムズ	73.5	22.6	2	27.3	1	13.2	4	5.6	6	4.8	2	2
3	住商情報システム	69.1	22.5	3	23.6	3	13.3	3	5.2	9	4.5	4	1
4	日本ユニシス	67.2	22.1	4	22.0	11	13.6	2	5.2	9	4.3	7	6
5	ITホールディングス	66.8	21.0	5	23.5	4	12.8	7	5.8	3	3.7	13	7
6	伊藤忠テクノソリューションズ	63.4	18.4	12	23.1	6	12.9	5	5.2	9	3.8	11	9
7	トレンドマイクロ	63.2	18.6	11	23.2	5	11.3	9	6.0	1	4.1	9	11
8	日立ソフトウェアエンジニアリング	61.9	19.2	8	22.9	7	8.8	14	5.8	3	5.2	1	5
9	新日鉄ソリューションズ	61.8	19.6	7	21.7	12	11.1	10	5.0	13	4.4	6	8
10	エヌ・ティ・ティ・データ	61.7	16.3	15	22.3	10	12.9	5	5.7	5	4.5	4	3
11	ネットワンシステムズ	58.6	19.2	8	22.9	7	7.1	16	5.6	6	3.8	11	18
12	NECフィールディング	58.5	17.3	14	22.5	9	10.3	11	4.1	17	4.3	7	12
13	日本オラクル	58.2	15.4	16	21.7	12	12.5	8	5.2	9	3.4	15	15
14	大塚商会	57.6	20.6	6	18.2	14	10.2	12	5.5	8	3.1	17	10
15	オービックビジネスコンサルタント	52.9	19.2	8	16.8	15	8.3	15	4.5	16	4.1	9	16
16	富士ソフト	47.4	14.7	17	15.1	16	9.6	13	4.6	15	3.4	15	13
17	オービック	46.0	18.1	13	14.8	17	4.8	17	4.7	14	3.6	14	17
	評価対象企業評価平均点	61.3	19.3		21.6		11.0		5.3		4.1		

（注）評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は7.9点、昨年度は6.0点であった。

21年度評価項目および配点一覧(コンピューターソフト)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点(32点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
① 決算説明会に経営トップが自ら出席して経営戦略等を十分に説明していますか。	4
② 経営幹部とのミーティングにおいて、有益なディスカッションができますか。	6
(2) IR部門の機能	
① IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。	6
② IR部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していますか。	4
(3) IRの基本スタンス	
① 主要事業および主要取引先に関し、その収益性や将来性について積極的に開示する姿勢が見られますか。	4
② 自社の都合の悪い情報や低収益事業についても積極的に開示する姿勢が見られますか。	4
③ 業績動向にかかわらずIR姿勢は一貫していますか。	4
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**配点(34点)**
(1) 説明会、インタビューにおける開示　〔連結中心(連結対象会社がない場合は「単独」と読み替える)〕	
① 利益増減要因は明確かつ十分に説明されていますか。	4
② 主要な連結会社あるいは関連会社の経営動向が十分に説明されていますか。[連結対象会社あるいは関連会社がない場合は満点評価とする]	4
③ 事業または財務上のリスク情報の開示が十分になされていますか。	4
(2) 説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示　〔連結中心(連結対象会社がない場合は「単独」と読み替える)〕	
① 説明会資料等の付属資料が短信と同日に閲覧できますか。[閲覧できる:3点　閲覧できない:0点]	3
② セグメントの分類は的確であり、かつ売上高および売上利益が四半期ベースで十分に開示されていますか。	4
③ 設備投資、減価償却費、研究開発費、従業員数等の計画は十分に記載されていますか。	2
④ 費用の主要項目(労務費、外注費、機器販売原価等)の実績および計画は十分に記載されていますか。	5
⑤ 受注・売上げ・キャッシュフローの分析に必要なデータ(顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客名等)は十分に記載されて いますか。	4
⑥ 四半期ごとに業績動向に関する説明会(電話会議を含む)を開催していますか。[全て開催:4点　その他:0点]	4
3. フェアー・ディスクロージャー	**配点(16点)**
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
・ 経営陣およびIR部門が情報開示に際し不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	6
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
① ホーム・ページに過去の長期財務データ等、当該企業を分析するために必要な基本的情報が十分に掲載され、投資判断を行うライブラリーとしての機能を果たしていますか。	2
② 決算説明会の状況が終了後同日中に電話やウェブキャストで視聴等ができますか。[終了後同日中にできる:4点　後日できる:2点　できない:0点]	4
(3) 英文による情報提供	
・ 外国人投資家にも配慮した情報提供に努めていますか。(ホーム・ページ、説明会資料、アニュアルレポート、海外IR等)	4
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	**配点(10点)**
(1) 資本政策、株主還元策の開示	
・ 資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	5
(2) 目標とする経営指標等	
・ 目標とする経営指標等、それを採用する理由、目標達成のための取り組み等について十分説明されていますか。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	**配点(8点)**
① 受注や売上等の期中データの開示・状況説明は十分ですか。	5
② E－mailを使って有用な情報の提供を行っていますか。	3

コンピューターソフト専門部会委員

部　会　長	上野　　真	大和証券ｴｽｴﾑﾋﾞｰｼｰ
部会長代理	宮地　正治	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ証券
	菊池　　悟	ﾄﾞｲﾂ証券
	鈴木　達也	中央三井ｱｾｯﾄ信託銀行
	寺島　　正	大和証券投資信託委託
	丸山　祐子	野村證券
	森本　展正	ｸﾚﾃﾞｨ・ｽｲｽ証券

評価実施アナリスト（28名）

秋田　一太郎	ｽﾊﾟｰｸｽ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	杉山　和宏	T&D ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
伊藤　彰洋	三井住友ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	鈴木　達也	中央三井ｱｾｯﾄ信託銀行
岩渕　啓介	岡三証券	諏訪　哲朗	三菱 UFJ 信託銀行
上野　　真	大和証券ｴｽｴﾑﾋﾞｰｼｰ	相馬　正欣	住友信託銀行
大谷　章夫	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ投信	田中　秀明	三菱 UFJ 証券
川崎　朝映	ｺｽﾓ証券	寺島　　正	大和証券投資信託委託
菊池　　悟	ﾄﾞｲﾂ証券	中村　昭彦	農林中金全共連ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
栗原　智也	住友信託銀行	中村　哲也	大和証券ｴｽｴﾑﾋﾞｰｼｰ
黒木　文明	ﾆｯｾｲ ｱｾｯﾄ ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	福川　　勲	MDAM ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
小林　加世子	ｿｼｴﾃｼﾞｪﾈﾗﾙｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	堀　　雄介	みずほ証券
小山　洋美	国際投信投資顧問	丸山　祐子	野村證券
佐野　圭介	朝日ﾗｲﾌｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	箕浦　信夫	第一生命保険
重政　啓之	JP ﾓﾙｶﾞﾝ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	宮地　正治	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ証券
島田　秀明	富国生命投資顧問	森本　展正	ｸﾚﾃﾞｨ・ｽｲｽ証券

（注）　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

新興市場銘柄

ミクシィ、フルスピード、GCA サヴィアングループ、エス・エム・エス、オプト、
メッセージ、日本マクドナルドホールディングス、日本風力開発、フィールズ、
スタートトゥデイ、ワークスアプリケーションズ、サイバーエージェント、楽天、ACCESS、
ジュピターテレコム、ハドソン、USEN、エン・ジャパン、エヌ・ピー・シー、
ハーモニック・ドライブ・システムズ、メイコー、日本マイクロニクス、フェローテック、
第一興商、ナカニシ、フルヤ金属、マネーパートナーズグループ、沖縄セルラー電話、
エムティーアイ

（計 29 社）

1．評価対象企業の選定

本新興市場銘柄の個別企業の評価対象は、ジャスダック、マザーズ、ヘラクレス、セントレックス、Q-Board およびアンビシャスの六つの市場に上場している企業（注 1）の中で、時価総額上位（注 2）であって、かつその企業を調査対象としているアナリストの数（注 3）が一定以上の 29 社（注 4）とした。なお、29 社中、20 社は昨年度からの継続評価対象企業、2 社は 19 年度以来再対象企業、7 社は新たな評価対象企業である。

（注 1）アナリストが評価を実施する本年 6 月時点で上場後 1 年未満の企業は対象から除いている。
（注 2）本年度の対象企業の選定にあたって基準とした時価総額は、本優良企業選定のための準備作業開始直前の、昨年 12 月下旬時点のものである。
（注 3）本年 1 月に当協会で実施した、新興市場銘柄をカバーしているアナリストについての調査結果を参考とした。
（注 4）本年 2 月に本優良企業選定評価対象企業を決定し、各対象企業にその旨をお知らせした時点では 30 社であったが、その後、当初対象企業の 1 社に上場廃止予定となる見込みがあることから、同社は評価対象企業から除外することとし、最終的には 29 社となった。

2．評価方法等

(1)　評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢・IR 部門の機能・IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	3	35
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	4	30
③フェアー・ディスクロージャー	**フェアー・ディスクロージャー**	2	15
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	**コーポレート・ガバナンス関連**	2	20
計		11	100

（注）具体的な評価項目および配点は 105 頁参照

(2)　評価実施（スコアシート記入）アナリストは 36 社の 91 名である。

3．評価結果

(1)　総括

評価結果の概要は次のとおりである(ディスクロージャー評価比較総括表は104頁参照)。

総合評価平均点は61.3点（昨年度56.1点）となり、評価点が70点台の水準となった企業は3社（昨年度2社)、60点台が12社（昨年度13社）で、本年度は半数の企業が60点台以上の評価となった。評価対象企業数が昨年度の48社から本年度は29社に絞られたこともあり、昨年度は、50点未満の企業が7社あったが、本年度は1社のみとなり、本年度総合評価点の標準偏差は6.9点で、昨年度の7.5点より縮小した。また、第1位企業の評価点と最下位企業の評価点を比較して見ても、1位の73.2点（昨年度71.7点）に対し最下位は41.4点（同36.1点）であり、その格差（1位企業の評価点／最下位企業の評価点）は1.8倍（同2.0倍）と本年度もかなり開きはあるが若干縮小した。評価項目の4分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が64%（昨年度57%)、**説明会等**が63%（同56%)、**フェアー・ディスクロージャー**が65%（同59%)、**コーポレート・ガバナンス関連**が53%（同52%）で、いずれも昨年度を上回り、**コーポレート・ガバナンス関連**を除き、まずまずの評価結果となった。

11の具体的評価項目について見ると、平均得点率が相対的に高かった項目は、次の項目である。

① 四半期の情報開示は経営実態に即して十分に行われているか（71%、〔得点率《評価点/配点〈以下省略〉》90%台：1社、80%台：5社、70%台：11社〕、昨年度：70%）

② ホーム・ページに当該企業を分析するために必要な基本的情報が十分に掲載されているか（68%、〔同80%台：3社、70%台：10社〕、昨年度：63%）

③ IR部門が経営陣と情報を共有することにより、経営陣の代弁者として十分に機能しているか（67%、〔同80%台：2社、70%台：14社〕、昨年度：67%）

また、多くの企業で、経営トップが、自ら説明会等に出席するなどIRの重要性について認識していることがうかがえる点や、IR部門については、一部の企業で人員不足の状況が見られるものの、総じて、情報の集積や開示姿勢は十分であること等を評価するアナリストの意見があった。

一方、特に次の2項目については、大半の企業の得点率が総合評価平均点（61.3点）を下回る、50%台以下となっており今後の改善が強く望まれる。

① 経営機構、経営資源および内部統制について十分に説明しているか（平均得点率50%、〔50%台以下：26社〕、昨年度：52%）

② 資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達について十分に説明しているか（同56%、〔同：22社〕、同：52%）

(2)　上位個別企業の評価概要

日本マイクロニクス

（ディスクロージャー優良企業〔3回連続〕、総合評価点：73.2点、第1位）

同社は、分野別では、**経営陣のIR姿勢等**（得点率〈以下省略〉77%）および**説明会等**（75%）

が第2位、**フェアー・ディスクロージャー**（73%）が第3位、**コーポレート・ガバナンス関連**（63%）が第2位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣のIR姿勢等**においては、経営陣がIR活動の重要性を認識し、情報開示が積極的であり業界情報の収集にも有益である等、経営陣の意欲的なIR姿勢が評価された。また、IR部門の担当者と経営トップとの意思疎通が十分であるほか、IR担当者が営業現場や開発部門の情報を的確に把握している等、経営陣の代弁者として十分に機能していることがトップの高いの評価となった。加えて、自社に不利な情報等も積極的に開示する姿勢も高い評価を受けた。

説明会等においては、今期業績計画について、事業別に細かく前提を開示し整合性のある十分な説明をしていることや、説明資料に、収益および財務分析に必要なデータを十分記載している点が評価された。また、四半期の補足資料が充実している等、四半期情報開示で、極めて高いトップの評価を受けた。

フェアー・ディスクロージャーにおいては、経営陣が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていることや、ホーム・ページで分析するために必要な基本的情報等を十分に掲載している点も評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、平均得点率が低かった、資本政策、株主還元策についての説明や、経営機構、経営資源および内部統制についての説明も高順位の評価となった。

エス・エム・エス

（ディスクロージャー優良企業〔新規〕、総合評価点：72.2点、第2位・新規評価対象企業）

同社は、分野別では、**経営陣のIR姿勢等**（78%）および**説明会等**（76%）が第1位、**フェアー・ディスクロージャー**（65%）が3社同得点第13位、**コーポレート・ガバナンス関連**（62%）が第4位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣のIR姿勢等**においては、経営陣がIR活動の重要性を認識し、社長が自らミーティングに出席して経営戦略等を十分に説明していること等、経営陣の積極的な姿勢が高い評価を受けた。また、IR部門が経営陣と経営戦略等の情報を共有し、経営陣の代弁者として十分に機能している点が評価された。加えて、自社の弱点についても積極的に説明する姿勢も高く評価された。

説明会等においては、今期業績計画について、整合性のある説明をしているほか、中・長期の経営戦略について、根拠を示し整合性のある十分な説明をしていること等、説明会、インタビューにおける開示でトップの高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、資本政策、株主還元策についての説明がトップの評価を受けた。

ジュピターテレコム

（ディスクロージャー優良企業〔新規〕、総合評価点：71.5点、第3位←7位）

同社は、分野別では、**経営陣のIR姿勢等**（74%）が第4位、**説明会等**（71%）が第5位、**フェアー・ディスクロージャー**（77%）が第2位、**コーポレート・ガバナンス関連**（64%）

が第1位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣のIR姿勢等**においては、経営陣がIR活動の重要性を認識し、決算説明会等において、社長が自ら経営戦略を簡潔に述べていることに加え、事業説明会や施設見学会等を積極的に開催する等、経営陣のIRへの取組姿勢が評価された。また、自社の苦戦している事業や買収先の損益状況等も明確に開示している点も評価された。

説明会等においては、四半期情報開示を経営実態に即して十分行っていることが高い評価を受けた。

フェアー・ディスクロージャーにおいては、経営陣が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていることがトップの評価を受けたほか、ホーム・ページで分析するために必要な基本的情報等を十分に掲載している点も評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、経営機構、経営資源および内部統制についての説明がトップの評価となったことに加え、資本政策、株主還元策についての説明も評価された。

上記の**日本マイクロニクス**、**エス・エム・エス**および**ジュピターテレコム**の3社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、これら3社を本年度の新興市場銘柄における優良企業として推薦する。

エヌ・ピー・シー（総合評価点：69.0点、第4位・新規評価対象企業）

全社の中で同社の得点率が上位にある分野は、**経営陣のIR姿勢等**（71%）が3社同得点第5位、**説明会等**（73%）および**コーポレート・ガバナンス関連**（62%）が第3位であった。

経営陣のIR姿勢等においては、経営陣がIR活動の重要性を認識し、社長が経営戦略を明確に示し、分かりやすく説明する工夫が見られる等、経営陣のIRへの取組姿勢が評価された。

説明会等においては、社長が示す中期計画が明確で説得力があることが高く評価されたほか、業界動向を含め事業環境に関する詳細な情報を開示している等、説明資料が充実している点でトップの評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、経営機構、経営資源および内部統制についての説明や、資本政策、株主還元策についての説明も評価された。

サイバーエージェント（総合評価点：68.7点、第5位←2位）

全社の中で同社の得点率が上位にある分野は、**経営陣のIR姿勢等**（71%）が3社同得点第5位、**説明会等**（72%）が第4位、**フェアー・ディスクロージャー**（71%）が第5位であった。

経営陣のIR姿勢等においては、IR部門が社長と情報を十分に共有しており、経営者の考え方を相当に代弁できる等、担当者との有益なディスカッションが高く評価された。

説明会等においては、四半期説明会および説明資料が充実していることが高い評価を受けたほか、説明会資料が事業セグメントごとにポイントを分かりやすくまとめられている点も

評価された。

フェアー・ディスクロージャーにおいては、ホーム・ページで市場データ等を含め、分析するために必要な基本的情報等を十分に掲載している点が高い評価を受けた。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

マネーパートナーズグループ（総合評価点：67.1 点、第 7 位・新規評価対象企業）

同社は、特に、経営陣が IR 活動の重要性を認識し、社長が取材への対応を十分に行うほか、個別訪問を積極的に実施する等、経営陣の IR への取組姿勢が第 2 位以下と格差のある高い評価を受けた。加えて、ホーム・ページで月次データ等を含め、分析するために必要な基本的情報等を十分に掲載している点もトップの高い評価となった。

以　上

平成21年度　ディスクロージャー評価比較総括表（新興市場銘柄）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス 評価項目3（配点35点）		2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目4（配点30点）		3. フェアー・ディスクロージャー 評価項目2（配点15点）		4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目2（配点20点）	
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位
1	日本マイクロニクス	73.2	27.1	2	22.5	2	11.0	3	12.6	2
2	エス・エム・エス	72.2	27.3	1	22.8	1	9.8	13	12.3	4
3	ジュピターテレコム	71.5	25.8	4	21.4	5	11.6	2	12.7	1
4	エヌ・ピー・シー	69.0	24.7	5	22.0	3	9.9	11	12.4	3
5	サイバーエージェント	68.7	24.7	5	21.7	4	10.7	5	11.6	6
6	沖縄セルラー電話	67.9	24.3	9	21.2	7	10.5	7	11.9	5
7	マネーパートナーズグループ	67.1	26.9	3	18.5	14	11.7	1	10.0	19
8	フェローテック	66.7	24.7	5	21.3	6	9.8	13	10.9	8
9	楽天	66.4	24.4	8	19.9	9	10.6	6	11.5	7
10	エムティーアイ	64.7	23.4	12	20.7	8	10.1	8	10.5	12
11	スタートトゥデイ	62.8	23.8	10	18.6	13	9.7	16	10.7	10
12	ミクシィ	62.4	23.8	10	19.1	10	9.9	11	9.6	25
13	メッセージ	61.7	22.6	14	18.9	11	9.8	13	10.4	15
14	ACCESS	61.1	22.6	14	18.9	11	9.6	18	10.0	19
15	ハーモニック・ドライブ・システムズ	60.0	23.4	12	17.3	22	9.1	21	10.2	17
16	日本マクドナルドホールディングス	59.5	20.6	21	17.2	24	10.9	4	10.8	9
17	ナカニシ	59.3	20.7	20	18.4	15	9.7	16	10.5	12
18	オプト	59.0	21.4	17	18.4	15	9.1	21	10.1	18
19	ワークスアプリケーションズ	58.8	21.0	18	17.8	18	10.1	8	9.9	23
20	フィールズ	58.7	21.5	16	17.8	18	8.8	25	10.6	11
21	フルスピード	58.5	21.0	18	17.7	21	9.3	20	10.5	12
22	フルヤ金属	58.2	20.2	23	17.9	17	10.1	8	10.0	19
23	第一興商	56.5	19.9	24	17.8	18	9.0	23	9.8	24
24	GCAサヴィアングループ	56.4	19.4	25	17.2	24	9.4	19	10.4	15
25	メイコー	54.2	19.2	26	17.3	22	8.5	28	9.2	27
26	日本風力開発	53.9	18.1	28	17.2	24	8.6	26	10.0	19
27	エン・ジャパン	53.7	19.0	27	16.5	27	9.0	23	9.2	27
28	ハドソン	53.6	20.3	22	15.3	28	8.6	26	9.4	26
29	USEN	41.4	15.3	29	12.6	29	6.6	29	6.9	29
	評価対象企業評価平均点	61.3	22.3		18.8		9.7		10.5	

（注）評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は6.9点、昨年度は7.5点であった。

21年度評価項目および配点一覧(新興市場銘柄)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点(35点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
・ 経営陣がIR活動の重要性を認識し、ミーティング等を通じて自ら経営戦略を十分に説明していますか。	15
(2) IR部門の機能	
・ IR部門が経営陣と情報を共有することにより、経営陣の代弁者として十分に機能していますか。	10
(3) IRの基本スタンス	
・ 会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的に開示を行っていますか。	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点(30点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示	
① 今期業績計画について、根拠を示し整合性のある説明をしていますか。	10
② 中・長期の見通しについて、根拠を示し整合性のある説明をしていますか。	5
(2) 説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示	
・ 収益および財務分析に必要なデータは十分に記載されていますか。	10
(3) 四半期情報開示	
・ 四半期の情報開示は経営実態に即して十分に行われていますか。	5
3. フェアー・ディスクロージャー	配点(15点)
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
・ 経営陣が情報開示に際し不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	10
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
・ ホーム・ページ(ウエッブ・サイト)に当該企業を分析するために必要な基本的情報が十分に掲載されていますか。	5
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点(20点)
(1) 資本政策、株主還元策等の開示	
・ 資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達について十分に説明されていますか。	8
(2) 経営機構、経営資源および内部統制について	
・ 経営機構、経営資源および内部統制について十分に説明されていますか。	12

新興市場銘柄専門部会委員

部　会　長	齋藤　　剛	ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄﾘｻｰﾁｼﾞｬﾊﾟﾝ
部会長代理	納　　博司	いちよし経済研究所
	蛯原　健史	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	椛島　裕介	大和証券投資信託委託
	河野　逸郎	日興ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	熊井　泰明	みずほｲﾝﾍﾞｽﾀｰｽﾞ証券
	田阪　克之	野村證券
	得能　　修	ｲﾝﾍﾞｽｺ投信投資顧問
	中川　雅嗣	国際投信投資顧問

評価実施アナリスト（91名〈氏名等の掲載の承諾を得られていない7名を含む〉）

新井　勝己	三菱UFJ証券
石口　政樹	富国生命投資顧問
石飛　益徳	ｴｰｽ経済研究所
伊藤　彰洋	三井住友ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
梅林　秀光	大和証券ｴｽｴﾑﾋﾞｰｼｰ
蛯原　健史	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
大石　益美	いちよし経済研究所
大石　透功	三菱UFJ証券
大杉　直人	大和証券ｴｽｴﾑﾋﾞｰｼｰ
大平　光行	東海東京調査ｾﾝﾀｰ
大谷　章夫	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ投信
岡田　真一	三菱UFJ信託銀行
奥川　智彦	みずほ証券
忍足　大介	JPﾓﾙｶﾞﾝ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
椛島　裕介	大和証券投資信託委託
河口　洋一	三菱UFJ信託銀行
河野　逸郎	日興ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
木下　　博	三木証券
熊井　泰明	みずほｲﾝﾍﾞｽﾀｰｽﾞ証券
栗島　理恵	水戸証券
栗原　智也	住友信託銀行
高口　伸一	住友信託銀行
香西　隆弘	大和証券投資信託委託
小山　洋美	国際投信投資顧問
坂井　ゆかり	三菱UFJ信託銀行
佐藤　　仁	MDAMｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
鮫島　誠一郎	いちよし経済研究所
佐分　博信	JPﾓﾙｶﾞﾝ証券
下森　　浩	住友信託銀行
清水　文彦	大和証券ｴｽｴﾑﾋﾞｰｼｰ
下川　寿幸	立花証券
白石　幸毅	大和証券ｴｽｴﾑﾋﾞｰｼｰ
諏訪　哲朗	三菱UFJ信託銀行
相馬　宏幸	みずほｲﾝﾍﾞｽﾀｰｽﾞ証券
相馬　正欣	住友信託銀行
高世　智明	ｲﾝﾍﾞｽｺ投信投資顧問
高橋　篤朗	みずほ証券
竹内　織絵	ｲﾝﾍﾞｽｺ投信投資顧問
多功　英貴	日興ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
田阪　克之	野村證券
田崎　　僚	野村證券
田嶋　由利子	住友信託銀行
田村　悦子	みずほｲﾝﾍﾞｽﾀｰｽﾞ証券
土田　康輔	三菱UFJ信託銀行
土屋　直樹	大和証券投資信託委託
寺岡　秀明	大和証券ｴｽｴﾑﾋﾞｰｼｰ
寺島　　正	大和証券投資信託委託
徳永　祐美	ﾆｯｾｲ ｱｾｯﾄ ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
得能　　修	ｲﾝﾍﾞｽｺ投信投資顧問
中川　真紀子	富国生命投資顧問

中川　雅嗣	国際投信投資顧問
仲西　恭子	DIAM ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
中野　次朗	AIG ｲﾝﾍﾞｽﾄﾒﾝﾂ
長野　義隆	三菱 UFJ 信託銀行
中村　哲也	大和証券ｴｽｴﾑﾋﾞｰｼｰ
納　博司	いちよし経済研究所
根間　尚志	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ証券
早川　仁	ｸﾚﾃﾞｨ・ｽｲｽ証券
樋口　夏子	住友信託銀行
兵庫　真一郎	三菱 UFJ 信託銀行
廣瀬　治	東海東京調査ｾﾝﾀｰ
黄　楽　平	野村證券
福川　勲	MDAM ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
福永　敬輔	住友信託銀行
藤井　真由美	ｲﾝﾍﾞｽｺ投信投資顧問
藤野　敬太	日興ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
藤本　琢哉	国際投信投資顧問
堀　雄介	みずほ証券
増野　大作	野村證券
松枝　誠	DIAM ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
丸山　祐子	野村證券
水元　英正	みずほｲﾝﾍﾞｽﾀｰｽﾞ証券
南　利昭	中央三井ｱｾｯﾄ信託銀行
三並　正則	いちよし経済研究所
宮崎　充	SMBC ﾌﾚﾝﾄﾞ調査ｾﾝﾀｰ
安田　秀樹	ｴｰｽ経済研究所
山崎　慎一	国際投信投資顧問
山科　拓	日興ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
山本　将	三菱 UFJ 信託銀行
山本　守彦	新光投信
弓削　嘉毅	大和証券ｴｽｴﾑﾋﾞｰｼｰ
米島　慶一	ﾊﾞｰｸﾚｲｽﾞ・ｷｬﾋﾟﾀﾙ証券
和田木　哲哉	野村證券
渡辺　洋之	三井住友ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ

（注）　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

個人投資家向け情報提供

長谷工コーポレーション、大東建託、エス・エム・エス、アサヒビール、キリンホールディングス、ローソン、野村総合研究所、ジュピターテレコム、住友金属工業、住友金属鉱山、日本電産、日本マイクロニクス、日産自動車、富士重工業、ニコン、ファミリーマート、東京エレクトロン、りそなホールディングス、住友信託銀行、三菱地所、東日本旅客鉄道、全日本空輸、エヌ・ティ・ティ・ドコモ、東京瓦斯、大阪瓦斯、日立情報システムズ　（計 26 社）

1．評価対象企業の選定

本優良企業選定の評価対象企業は、本年度のディスクロージャー優良企業選定対象である各業種（11 業種）および新興市場銘柄についての選定結果における上位 1 割の企業（小数点切上げ）の 26 社とした。なお、本年度の評価対象企業のうち、本選定を開始した 17 年度以降 5 回連続対象は 7 社、4 回目 6 社（4 回連続 2 社、3 回連続 2 社、2 回連続 1 社）、3 回目 3 社（3 回連続 1 社、2 回連続 1 社）、2 回連続 4 社、新規が 6 社である。

2．評価方法等

(1)　評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	本文中の略称	評価項目数	配点
①個人投資家向け会社説明会の開催等	**個人投資家向け会社説明会**	4	21
②ホーム・ページにおける開示等	**ホーム・ページ**	8	59
③事業報告書等の内容（注）	**事業報告書等**	3	20
計		15	100

（注）直近事業年度の事業報告書（または報告書）、株主通信（または株主の皆様へ等）、日本語版アニュアルレポート等で、事業・業績等の概況について、分かりやすく解説がされているいずれか一種類の資料を対象企業から提供を頂き、同資料を評価対象とした。

(2)　具体的評価項目と配点および評価方法

具体的な評価項目および配点は 114 頁に記載したとおりであるが、このうち、個人投資家向け会社説明会の開催の有無等 5 項目についての評価は、各評価対象企業にアンケート調査を実施し、その回答結果を基に評点を付した。残りの 10 項目の評価は、ディスクロージャー研究会「個人投資家向け情報提供専門部会」の委員（15 名）が行い、最終評価は両者の評点を合算して行った。

3．評価結果

(1)　**総括**

評価結果の概要は次のとおりである（個人投資家向け情報提供における評価比較総括表は

113 頁参照)。

総合評価平均点は 61.7 点で、上位 4 社の評価点は 80 点台（昨年度 2 社）の高い評価となり、続く上位 9 位までの 5 社が 70 点台（同 9 社）の好評価となった。評価項目の 3 分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**個人投資家向け会社説明会**が 35%、**ホーム･ページ**が 70%、**事業報告書等**が 65%となった。**個人投資家向け会社説明会**においては、説明会を開催していない 10 社（全体の 38%）は、この分野の評点が 0 点となること等から、全体の平均得点率は他の分野と格差が大きく、また平均得点率も低い結果となった。

評価対象企業へのアンケート結果を基に評価した 5 項目について見ると、個人投資家向け会社説明会の開催回数は、本年度の本優良企業評価開始時点（7 月 24 日）以前の過去 1 年間に説明会を開催している企業 16 社の平均で 6.1 回（昨年度：全 32 社中の 22 社で 4.2 回）であった。また、説明会に社長等代表役員が参加して説明を行っている企業は、16 社中 8 社（50%、昨年度：22 社中 18 社 82%）であり、昨年度に比べ割合が大幅に低くなっている。さらに、個人投資家向け会社説明会の内容をホーム･ページに掲載している企業は、16 社中 10 社（63%、昨年度 22 社中 15 社 68%）であり、説明会の内容を掲載する企業の比率も若干ではあるが低下している。この 10 社について見ると、配布資料に加え動画で視聴できる企業は、8 社（80%、昨年度：15 社中 6 社 40%）、資料のみは 2 社であり、動画配信の割合が大幅に増加している。

次に、**ホーム･ページ**に関しては、個人投資家向けサイトを設けている企業は、全社中 17 社（65%、昨年度：19 社 59%）であり、その割合が昨年度を上回った。また、ホーム･ページに、「よくある質問と回答（FAQ、説明会時の質疑応答を除く）を掲載しているか」の項目については、22 社（85%、昨年度：26 社 81%）が行っている。なお、「ニュースリリースは全てホーム・ページに掲載しているか」の項目については、全社が行っているとしている。

また、専門部会委員による評価は 10 項目について行った。その評価は、開示内容が、一般投資家に理解できるように具体的に分かりやすく説明･記載されているか、また、利用しやすいように工夫がされているかといった観点から行った。

これらの項目についての評価結果は次のとおりである。本年度は 10 項目とも概ね昨年度と同様の評価結果であった（個人投資家向け会社説明会、個人投資家向けサイトおよびよくある質問と回答（FAQ）の充実度等は、ホーム･ページに掲載された企業についての評価点での比較)。

【個人投資家向け会社説明会】

・ ホーム･ページに掲載された個人投資家向け会社説明会の充実度と分かりやすさ：平均得点率〈以下省略〉29%（昨年度：36%）

《開催なし･内容の掲載なしの 16 社は 0 点の評価。なお、内容を掲載している 10 社で見ると 75%（同 77%）である。》

【ホーム･ページ】

① 画面構成、探しやすさなどを含めた、全体としての IR に関するホーム･ページの充実度：71%（同 71%）

② 個人投資家向けサイトの画面構成、探しやすさ、分かりやすさ等を含めた充実度：51%（同47%）

《同サイト設定なしの9社は0点の評価。なお、内容を掲載している17社で見ると79%（同79%）である。》

③ 事業内容（主力商品、主力サービス等）の説明の分かりやすさ：72%（同73%）

④ 決算資料（短信、説明会資料、補足資料等）について

A. 業績動向の説明の具体性と分かりやすさ：72%（同71%）

B. 経営目標、経営戦略の説明の具体性と分かりやすさ：67%（同66%）

⑤ よくある質問と回答（FAQ）の充実度と分かりやすさ：58%（同53%）

《掲載されていない4社は0点の評価。なお、掲載している22社で見ると68%（同65%）である。》

【事業報告書等】

① 全体として、図表を用いることや適切な文字の大きさにするなど、読み手が理解しやすいように十分に工夫されているか：69%（同70%）

② 経営方針、中・長期経営ビジョンの説明の簡潔度と分かりやすさ：60%（同62%）

③ 業績の動きの説明の分かりやすさ：68%（同68%）

(2) 優良企業の評価概要

アサヒビール（総合評価点：87.2点、第1位←7位、〔新規優良企業・評価対象5回連続〕）

同社は、分野別では、**個人投資家向け会社説明会**（得点率〔評価点／配点〕〈以下省略〉93%）が2社同得点第1位、**ホーム・ページ**（86%）が第2位、**事業報告書等**〈同社はアサヒスーパーレポート〉（84%）が2社同得点第2位となった。

同社は、個人投資家説明会の内容を動画配信するようになったこと等、多くの項目で評価点が上昇し、高順位の評価につながった。

具体的評価項目の評価概要は次のとおりである。

個人投資家向け会社説明会は、評価対象期間中に34回開催され、（この項目の評点は、開催回数に応じ、4回以上：4点、2回～3回：2点、1回：1点、なし：0点の4段階とした。）社長等が参加して説明を行っている。説明会の内容はホーム・ページで動画配信され、個人投資家を意識して業界環境や業績を丁寧にまとめて、分かりやすく説明しているほか、説明資料は、グラフ、図表、写真中心に難しい表現を避けて作成されている等、質・量的に充実していることで高い評価を受けた。

ホーム・ページにおいては、図表、写真、動画、フラッシュ等を多用して、親しみやすくなっているほか、IR説明会資料、質疑応答の状況、月次販売データ等、内容も十分で構成も良く、全体として利用しやすく、かつ分かりやすく工夫されていることが高く評価された。また、IR説明会資料に業績推移やシェア動向、海外展開等、経営戦略・会社の強みが分かりやすく説明されていることや、グループ会社を含めて事業内容を丁寧に説明していることが高い評価を受けた。加えて、よくある質問と回答（FAQ）について、経営戦略のほか、自社の強み弱み等をトップ項目でアピールする等、自社の状況の把握が容易であるように工夫

されている点が高い評価を受けた。

事業報告書等については、社長インタビューの形式で経営戦略全般、業績、株主還元策等を分かりやすく説明していることや、グラフ・写真と文字がバランス良く配置されている等、全体として、読みやすく、また分かりやすい構成になっている点が極めて高い評価を受けた。また、業績変動要因がグラフとともにコンパクトなコメント付きで説明されている上、ポイントとなる数字を強調表示する等、一目で分かるような工夫が見られることが高く評価された。

日本電産（総合評価点：84.5 点、第 2 位←2 位、〔3 回連続 4 回目の優良企業・評価対象 3 回連続 4 回目〕）

同社は、分野別では、**個人投資家向け会社説明会**（70%）が第 8 位、**ホーム・ページ**（88%）および**事業報告書等**〈同社は株主通信〉（90%）が第 1 位となった。

具体的評価項目の評価概要は次のとおりである。

個人投資家向け会社説明会は 3 回開催され、社長等が参加して説明を行っている。説明会の資料はホーム・ページに掲載され、主力商品の強み、シェア、将来性等を分かりやすくアピールしているほか、製品の具体的な使用例を示して分かりやすく説明し、加えて、自社の生い立ちから成長の軌跡まで丁寧に説明している点が高く評価された。なお、動画配信がないこと等の点でこの分野の評価が低めとなった。

ホーム・ページにおいては、トップページでほぼ知りたい内容にアクセスできる画面構成となっており、探しやすさや分かりやすさが高水準であることに加え、レイアウトの整理や情報の内容も充実している等、全体として分かりやすくする工夫が見られる点が極めて高いトップの評価を受けた。個人投資家向けサイトの中で、「成長戦略」や「事業のポイント」等を掲載して、自社の理解を深める工夫がされていること等も極めて高く評価された。加えて、製品情報や技術情報が充実しており、分かりにくい業容を個人投資家に丁寧に説明されている点も高い評価を受ける等、この分野でトップとなった。

事業報告書等については、事業概要、決算ハイライト、事業区分別業績等にテーマを絞り込み、全体的に見やすく工夫され、内容も充実していることが高く評価された。具体的には、図表・写真の活用、空間や色合い、レイアウト等に見やすさ・分かりやすさが工夫されている点のほか、トップインタビューの形式で、中期経営目標について、具体的な数値目標や進捗状況をグラフ等で簡潔に明示していることに加え、経済危機による中期経営目標への影響等を説明している点が評価された。また、決算ハイライトや事業区分別業績についても、グラフや写真を多用し、数値、説明をコンパクトに加えている点等も評価され、この分野もトップの評価を受けた。

東京瓦斯（総合評価点：83.4 点、第 3 位←6 位、〔2 回目の優良企業・評価対象 5 回連続〕）

同社は、分野別では、**個人投資家向け会社説明会**（87%）および**ホーム・ページ**（85%）が第 3 位、**事業報告書等**〈同社は東京ガス通信〉（75%）が第 6 位となった。

同社は、個人投資家説明会の内容を動画配信するようになり、内容も充実したことのほか、事業報告書の内容の評価点が上昇したことが、高順位の評価につながった。

具体的評価項目の評価概要は次のとおりである。

個人投資家向け会社説明会は 12 回開催され、常務執行役員等が参加して説明を行っている。説明会の内容はホーム・ページで動画配信され、エネルギーとしてのガスの魅力や、事業環境、注力分野の家庭用燃料電池（エネファーム）について図表等を交えて分かりやすく解説していることや、資料がシンプルで量も多すぎず、色使いも充実している点等が極めて高いトップの評価となった。

ホーム・ページにおいては、IR 情報のトップページに「個人投資家の皆さまへ」と「機関投資家の皆さまへ」のコーナーが分けられている等、全体的に初めて見る者にも使いやすく工夫されており、質・量的にも充実していることが評価された。また、個人投資家向けサイトの中で「ひとめでわかる東京ガスってどんな会社」や、「自社の歴史を 10 分で分かる動画コーナー」を設け、個人投資家を意識した工夫が見られる点が高く評価された。このほか、事業内容等を丁寧に分かりやすく説明していることも高く評価された。さらに、FAQ について、項目ごとに分類されて分かりやすいこと、特に事業内容に関する事項は、業界や事業構造等についての説明が的確である点が高い評価を受けた。

事業報告書等については、全体としてコンパクトで要点がつかみやすい構成になっており、文字も大きく、また行間も広く、読みやすく工夫している点が評価された。このほか、新中期経営計画について、社長が Q&A 形式でグラフや図表等を交えて分かりやすく説明していることも評価を受けた。なお、この分野全体としては、第 6 位の評価にとどまったものの、昨年度に比し大幅な改善が見られた。

アサヒビール、日本電産、東京瓦斯の 3 社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、これら 3 社を本年度の個人投資家向け情報提供における優良企業として推薦する。

以　上

平成21年度　個人投資家向け情報提供における評価比較総括表

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1. 個人投資家向け会社説明会の開催等 開催回数、社長等代表役員の説明の有無等4項目 （配点21点）		2. ホーム・ページにおける開示等 個人投資家向けｻｲﾄの有無や、事業内容、決算説明資料の分かりやすさ等8項目 （配点59点）		3. 事業報告書等の内容 経営方針、中･長期経営ﾋﾞｼﾞｮﾝや業績動向の説明の分かりやすさ等3項目 （配点20点）	
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位
1	アサヒビール	87.2	19.5	1	51.0	2	16.7	2
2	日本電産	84.5	14.6	8	52.0	1	17.9	1
3	東京瓦斯	83.4	18.3	3	50.1	3	15.0	6
	評価対象企業(26社) 評価平均点	61.7	7.3		41.3		13.1	

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は15.0点、昨年度は13.2点であった。

21年度評価項目および配点一覧（個人投資家情報提供）

（網掛けの項目は対象企業へのアンケート結果を基に評点）

1. 個人投資家向け会社説明会の開催等	配点（21点）
(1) 過去1年間（7月24日以前）に個人投資家向け会社説明会を何回開催していますか。 [A.4回以上：4点、 B.2～3回：2点、 C.1回：1点 D.開催なし：0点]	4
(2) (1)でA、BまたはCの場合、同個人投資家向け説明会は社長等代表役員が説明を行いましたか。 [A.社長が行った：3点、 B.社長以外の代表役員が行った：2点 C.代表役員以外が行った：1点 D.開催なし：0点]	3
(3) (1)でA、BまたはCの場合、同個人投資家向け説明会の内容はホーム・ページに掲載されて誰でも閲覧できますか。 [A.配布資料に加え動画または音声で視聴できる：6点、 B.配布資料の掲載のみ：3点、C.掲載なし・開催なし：0点]	6
(4) ホーム・ページに掲載されている個人投資家向け説明会の内容は、分かりやすく（一般投資家に理解できるように）、かつ充実していますか。 [掲載なし・開催なし：0点]	8
2. ホーム・ページにおける開示等	**配点（59点）**
(1) 全体として、IRに関するホーム・ページは利用しやすく、かつ分かりやすく工夫されていますか。（探しやすさ、画面構成等を含めて）	8
(2) ニュースリリースは全てホーム・ページに掲載していますか。 [A.全て掲載：5点、 B.一部掲載：2点、C.掲載なし：0点]	5
(3) 個人投資家向けサイト（個人投資家の皆様へ等の独立したサイト）が設けられていますか。 [A.あり：2点、 B.なし：0点]	2
(4) 個人投資家向けサイトは充実しており、かつ分かりやすく工夫されていますか。（探しやすさ、画面構成等を含めて） [個人投資家向けサイトがない場合：0点]	5
(5) 事業内容（主力商品、主力サービス等）が分かりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていますか。	10
(6) ホーム・ページに掲載されている短信、説明会資料、補足資料等について	
A 業績の動きが、具体的に分かりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていますか。	12
B 経営目標・経営戦略が、会社の強み（業界シェアや他社との差別化等を含む）や課題等を踏まえて、具体的にかつ分かりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていますか。	12
(7) ホーム・ページに掲載のよくある質問と回答（FAQ）[説明会時の質疑応答は除く]は、会社の事業内容や業績を理解するうえで、有益な質問項目が設定されている等全体的に充実し、分かりやすいですか。 [掲載がない場合：0点]	5
3. 事業報告書等の内容（注）	**配点（20点）**
(1) 全体として、図表等を用いることや適切な文字の大きさにするなど、読み手が見やすく、かつ理解し易いような十分な工夫がなされて作成されていますか。	6
(2) 経営方針、中・長期経営ビジョンが分かりやすく、かつ簡潔に説明されていますか。	7
(3) 業績の動きが分かりやすく（読み手が理解し易いように）説明されていますか。	7

（注）直近事業年度の事業報告書（または報告書）、株主通信（または株主の皆様へ）、日本語版アニュアルレポートなど、一般株主や投資家へ事業・業績の概況について分かりやすい解説を行っている資料で提供のあったいずれか一種類を評価対象とする。

個人投資家向け情報提供専門部会委員

部　会　長	品田　民治	野村證券
部会長代理	牛尾　　貴	丸三証券
	井上　政則	野村證券
	今川 倫太郎	日興ｺｰﾃﾞｨｱﾙ証券
	大塚　俊一	いちよし証券
	河合　信夫	みずほ証券
	小林　久恒	日興ｺｰﾃﾞｨｱﾙ証券
	三溝　直樹	みずほ証券
	高橋　卓也	大和証券
	滝　　幸彦	三菱 UFJ 証券
	藤木　宏和	岡三証券
	星　　勝広	みずほｲﾝﾍﾞｽﾀｰｽﾞ証券
	堀内　敏一	ｺｽﾓ証券
	松下 真一郎	大和証券
	吉越　昭二	三菱 UFJ 証券

本著作物の著作権は、社団法人 日本証券アナリスト協会®に属します。本著作物の全部または一部を、許可なく印刷、複写、転載、磁気もしくは光記録媒体への入力等、その方法の如何を問わず、これを複製することを禁じます。

証券アナリストによる
ディスクロージャー優良企業選定
(平成 21 年度)

平成 21 年 10 月発行

編集兼発行所　社団法人 日本証券アナリスト協会

〒103-0026　東京都中央区日本橋兜町 2-1
東京証券取引所ビル 5 階
電話　03(3666)1515
http://www.saa.or.jp

印刷所　株式会社 太平社